

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



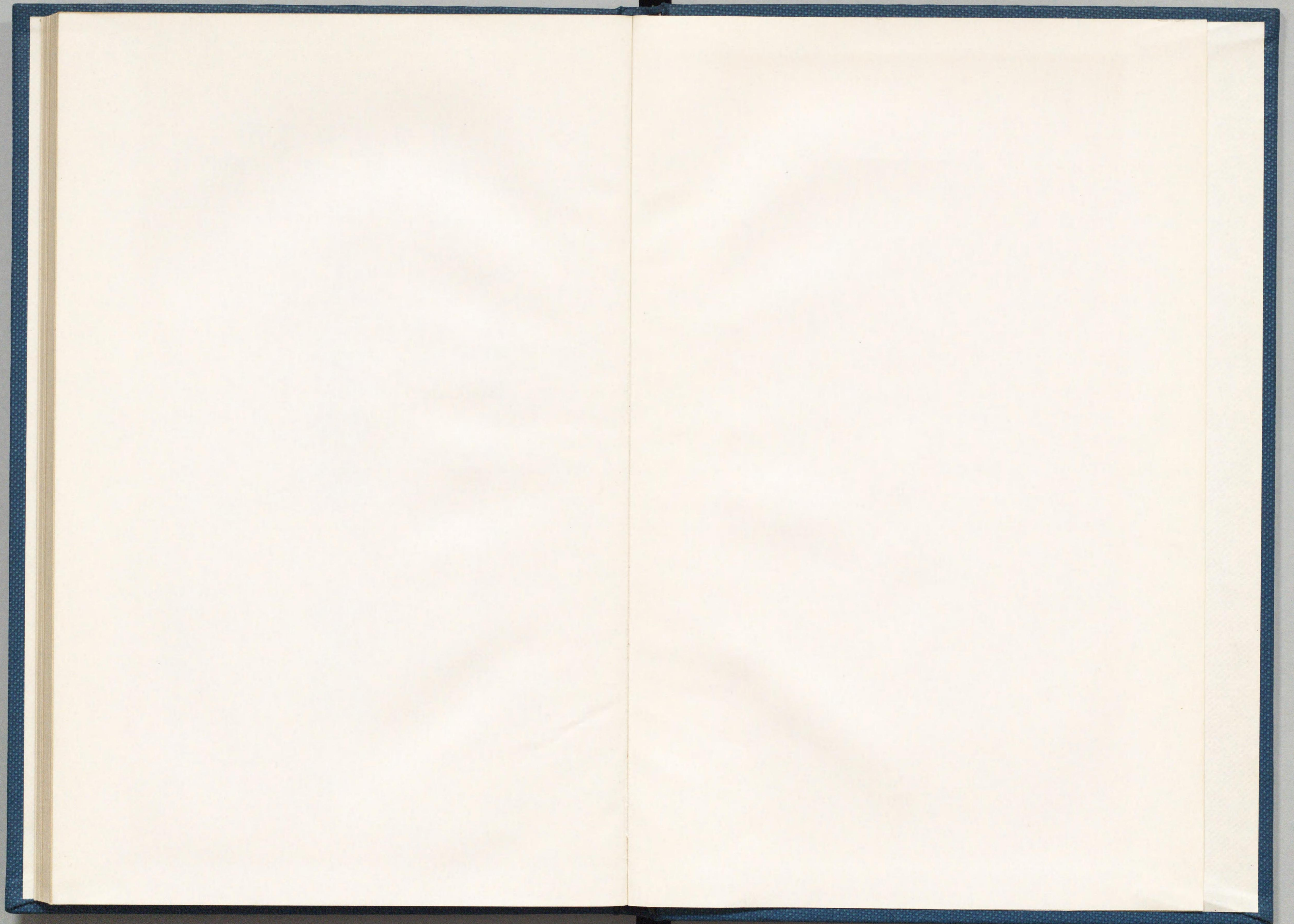
© Kodak, 2007 TM: Kodak

332
Ka811z



00219324





#E-85

法 律 學 經 濟 學
研 究 叢 書
第 二 冊

人 類 原 始 之 生 活
完

京 都 帝 國 大 學 法 科 大 學 講 師
河 上 肇 著
(再 版)

京 都 帝 國 大 學 法 科 大 學 內
京 都 法 學 會 發 行

332
Ka8113



219324

例言

一本叢書ハ專ラ京都帝國大學法科大學ニ於ケル法律學經濟學ノ特別問題ノ研究ヲ公ニスルヲ以テ趣旨トス蓋シ學問ノ進歩ハ一般ノ研究ヨリ移リテ特別ノ研究ニ入ラサルヘカラス今ヤ我邦學問ノ現状ハ稍此域ニ達スト雖モ研究事項ノ公ニセラル、モノ鮮キハ實ニ一大恨事タリ本會カ自ラ進ミテ此舉ヲ爲スハ一ニ我學會ノ缺典ヲ補ハント欲ヌレハナリ

一本會ハ曩ニ京都法學會雜誌ヲ發行シ近來益其內容ヲ改善シ歐米ノ學術雜誌ニ比シテ多ク遜色ナカラシコトヲ期セリ然レトモ雜誌ハ紙數ニ限アリ長篇大作ヲ載スルニ便ナラス長篇大作ハ必ス別ニ單行本トシテ之ヲ公刊セサルヘカラス是レ本會カ更ニ本叢書ノ纂輯ヲ企圖セシ所以ナリ

例言

一本叢書ハ冊號ヲ逐ヒテ順次發刊スト雖モ雜誌ト異ナリテ刊期ヲ定メス毎年凡ソ三四回研究ノ成ルニ隨ヒテ之ヲ印行ス一本叢書載スル所ノ論文或ハ時事ニ關スルアリ或ハ關セサルアリ一二問題ノ性質ニ依ルト雖モ本會ノ目的ハ專ラ學理上ノ深邃ナル研究ヲ紹介シテ我學問ノ進歩ニ裨益スルニ在リ時好ニ投シ讀者ニ媚ルカ如キハ本會ノ屑トセサル所ナリ

京都法學會

序言

本書ニ於イテハ、經濟前史ヲ分チテ前後ノ二期ト爲シ、第一期ヲ以テ經濟行爲未ダ發生セザルノ時代ト爲シ、第二期ヲ以テ經濟行爲既ニ發生スルモ經濟未ダ發生セザルノ時代ト爲シタリ。而シテ謂フ所ノ原始時代トハ漠然コノ二期ヲ總稱セルモノナレドモ、而カモ本書ハ特ニ主力ヲ所謂第一期ニ注ギタリ。思フニ誤謬定メテ多カルベク、遺漏ハ固ヨリ少カラズト雖モ、ソハ他日先輩ノ示教ト著者ノ勉強トニヨリテ訂正増補スルノ外ナシ。

明治四十二年三月

河上肇

目次

上篇 人類原始ノ生産及ビ消費

第一章 人類特有ノ生産及ビ消費

(一)人類ノ第一特徴ハ生産ノ方面ニ於イテハ道具ノ製造ニアリト云フ——現存セル人類ハ如何ニ野蠻ノモノト雖モ凡テ道具ノ製造ヲ解スルコト——如何ニ太古ノ人類ト雖モ凡テ道具ノ製造ヲ解シタルコト——道具ヲ使用シ又ハ處有スル動物アルモノヲ製造シ得ルモノナキコト——人類ノ第二特徴ハ消費ノ方面ニ於イテハ火ノ使用ニアルコト——(二)火ト道具トノ利用ハ進化史上ニ於ケル人類發生ノ經濟的條件ナリト云フコト——此ノ二者ハ人類社會ニ於ケル經濟的進歩ノ二大根底ヲ爲スト云フコト——其ノ一例トシテノ石器時代ニ於ケル火ノ利用ト船舶ノ製造——其ノ第二ノ例トシテノ近世ニ於ケル産業革命ノ真相

第二章 人類原始ノ生産狀態(上)……………一五

(一)人類ノ第一期ハ消費アツテ生産ナキ時代ナル——第一期ニ於ケル人類ノ精神狀態ハ動物ト差異アラザリシ——抽象能力ヲ缺如セシコト——計算能力ヲ缺如セシコト——(二)第一期ニ於ケル人類ノ物質的生活モ亦タ動物ト殆ド差異アラザリシコト——其ノ行爲ハ非合理的、非法則的、非主義的、無目的、無計畫、無思慮、直接的、現在的、本能的、發作的ナリシ——從ツテ經濟行爲ナク生産行爲ナシト云フコト——(三)近世ニ於ケル變人ノ物質的生活ニ徴スルモ同一ノ現象ヲ認メ得ベシト云フ——變人ハ現在ノ一瞬時ニ生活スト云フ——彼等ハ極メテ懶惰ナリト云フコト——彼等ハ經濟的慾望ヲ有セズ、從ツテ經濟行爲乃至生産行爲ヲ解セズト云フコト——其ノ狩獵漁撈ハ充慾行爲乃至消費行爲ノ一部タルコト——極メテ懶惰ナ

ル蠻人が舞踊ニ熱心ナル所以——何故ニ彼等ハ舞踊ニ熱心ニシテ狩獵漁撈ニ熱心ナラザルカトノ疑問——第一期ノ真相ハ實ハ生産ト消費ト經濟行爲ト充慾行爲ト未ダ分化セザルニ在ルコト——第一期ハ或ハ之ニ名ケテ生産ト消費ト未ダ分化セザル時代ト云フモ不可ナク、或ハ一步ヲ進メテ生産行爲アルモ未ダ經濟行爲タルノ性質ヲ具ヘザル時代ト云フモ不可ナキコト、

第三章 人類原始ノ生産状態(下)

(一)充慾行爲乃至消費行爲ハ次第二進化發展シテ經濟行爲乃至生産行爲ヲ生ミ、カクテ人類ノ歴史ハ始メテ消費ト生産ト並ビ行ハル、第二期ノ時代ニ入ルコト——充慾行爲發展ノ主要原因ハ虛榮心ニアリト云フコト——蠻人ノ虛榮心ノ大ナルコト及ビ其ノ虛榮心ハ充慾行爲ニ發スルコト——其ノ一例トシテノ化粧——虛榮心ガ先ヅ充慾行爲ニ發スル所以——虛榮心ノ發達ハ社會的集合體ノ發展ニ伴フコト——虛榮心ノ發達ハ充慾行爲ノ發展分化ヲ促シ遂ニ經濟行爲ヲ生ムニ至ルコト——遊戲ハ勞動ニ先チ、藝術ハ實用ノ生産ニ先ツ——消費行爲ハ生産行爲ヨリ古ク充慾行爲ハ經濟行爲ヨリ古シ——趣味ハ實益ニ先ツ——(二)充慾行爲ガ發展シテ經濟行爲トナルノ實例トシテ養畜ノ起源ヲ論ズ——狩獵ガ進歩シテ養畜トナリシニ非ザルコト——家畜ノ馴致ハ元ト愛玩ノ爲メニ出デシコト——蠻人ガ家畜ヲ愛玩スルノ實例——動物馴致ノ初期ニハ決シテ其ノ肉ヲ食ハザリシモノナルコト——虛榮的慾望ハ次第二經濟化シ實用化セラル、從ツテ一切ノ日用品ハ其ノ起源ニ遡ルニ從ツテ奢侈品タルノ性質ヲ具フト云フコト——動物馴致ノ初期ニハ乳、卵、毛等ノ生産物ヲ得ルコトモ、又々驅役ノ用ニ供スルコトモ、凡テ行ハレザリシモノナルコト——(三)勞動ノ苦痛ヲ輕減スルノ二策——勞動ヲ遊戲化スルコト——經濟主義ノ發生——經濟主義ハ經濟行爲ノ發生ニ伴フテ始メテ發生セルモノナルコト——經濟行爲ハ經濟主義ニ依リ統一サレテ遂ニ經濟ヲ成シ、カクテ經濟前史ハ終ヲ告グルト云フコト

第四章 人類原始ノ消費状態

(一)原始時代ノ消費論ハ食物論ナリト云フコト——原始時代ノ人類ハ人肉ヲ食物トシタリトノ説ノ當否——人肉ヲ食フ場合

ハ種々アルコト——但シ食物トシテ用フル場合ハ食料缺乏ノ爲メカ人肉嗜好ノ爲メカノ二ツノ場合ニ限ラル、コト——文明人ト雖モ食料缺乏ノ爲メニハ人肉ヲ食フニ至ルアルコト——食料缺乏ノ爲メ人肉ヲ食フ蠻人ノ實例——原始時代ノ人類モ食料缺乏ノ際ニハ人肉ヲ食シタルベキモ之ヲ以テ常食トセシト云フベカラザルコト——(二)特ニ人肉ニ對スル嗜好ヨリシテ之ヲ常食トスル場合アルコト——其ノ實例——人肉ヲ得ルガ爲メニ戰鬪ヲ爲スコト——人肉ヲ得ルガ爲メニ人ヲ家畜トシテ飼養スルコト——親子、夫婦、兄弟姉妹互ニ相食フニ至ルコト——人肉ニ對スル嗜好ヨリ之ヲ常食トスルハ病的習慣ナルコト——此ノ如キ病的習慣ニ陥リシ人種ハ滅亡スベキコト——人類ノ歴史ニハ曾テ人肉ヲ常食トセシ時代アラズト云フコト

下篇 人類原始ノ社會状態

第五章 人類原始ノ社會團體

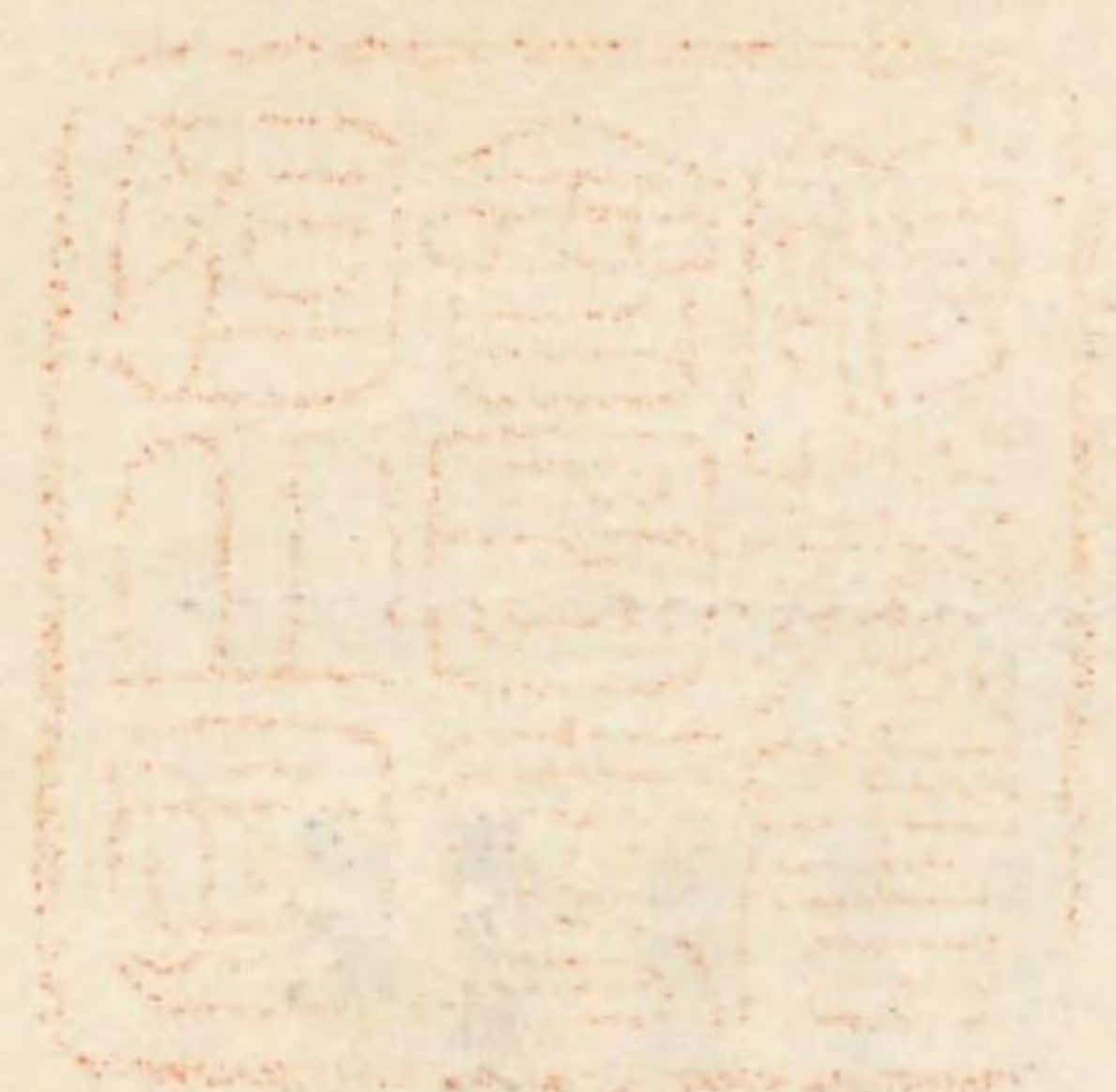
(一)原始時代ノ人類ハ家族ヲ成サザリシモノナリト云フ説ハ誤謬ナルコト——吾輩ノ謂フ所ノ家族ナルモノ、意義——最原始ノ人類モ子ノ保護ノ爲メニハ家族ヲ成シタルベシト云フコト——子ニ對スル親ノ保護ナクンバ産兒數ハ減少スルコト同時ニ又々其ノ子ハ長キ未成年時代ヲ有シ能ハズト云フコト——故ニ高等動物ノ發生ノ爲メニハ親ノ保護ノ充分ナルコトヲ要件トスト云フコト——動物社會ニ於ケル親ノ保護ノ進歩——動物中既ニ子ノ保護ノ爲メニハ兩親ハ家族ヲ成セルモノアリ故ニ人類ハ原始以來家族ヲ成シタルベシト云フコト——蓋シ婚姻アツテ家族アルニ非ズ、家族アツテ婚姻アリト云フコト——子ノ保護養育ガ婚姻ノ原因タルコトヲ示スベキ風俗習慣——女子ガ妊娠スルカ又ハ兒女ヲ分娩シタル後カニ非ザレバ、婚姻ハ未ダ成立セズト看做ス風俗——女子妊娠スルカ又ハ白女ヲ分娩スル時ハ其ノ對手タリシ男子ハ之ト結婚スルノ義務アリトスルノ風俗——子ノ哺乳期間ノ婚姻關係ヲ持續スルノ風俗——子ヲ産ムコトヲ以テ妻ノ一資格トナスノ風俗——子ノ保護養育ノ爲メニ兩親ガ家族ヲ成スニ至ラザル種族ハ必ズ滅亡スト云フ實例——何故ニ父ハ子ノ保護ノ爲メニ家族ヲ成スニ至ルカ——

(二)人類ノ歴史ノ第一期ハ家族アツテ部落ナキ時代ナリト云フコト——現ニ部落ヲ爲スニ至ラズシテ家族孤立ノ状態ヲ保チツ、アル蠻人アリト云フコト——幼稚ナル人類ハ一處ニ集住シ能ハズト云フ理由——太古原始ノ人類モ必ず家族ヲ成シテ散在セシナラン——(三)第二期ニ入りテ家族ハ始メテ部落ヲ成スニ至ルト云フコト——但シ其ノ部落ハ單純ナル集合體タルニ止マリ一定ノ組織ヲ有スル團體ニハ非ザルコト——集合人員ハ次第ニ増加スルコト——集合人員ノ増加ニ伴フテ次第ニ組織的團體タルノ色彩ヲ帯ビ來ルト云フコト——但シ明カニ家族以上ノ組織的團體ヲ生スルハ恐ラク經濟前史ヲ經過シタル後ノコトタルベシト云フコト

第六章 人類原始ノ男女關係……………

(一)家族ヲ成セル男女間ニハ原始以來一定ノ分業アリタルコト——經濟前史ニ屬スル時代ヲ名ケテ個人的食料探索ノ時代ト云フコトノ可否——第一期ニ於イテ既ニ家族ヲ成シツ、アル男女間ノ分業如何——男女間ノ生理的差異——普通男子ハ筋肉ニ富ミ女子ハ脂肪ニ富メリト云フコト——此ノ如キ差異ハ必然的ニ男女ノ差別ニ伴フト云フコト——故ニ原始時代ノ人類ニモ此ノ如キ差異ハ必ず存シタルベシト云フコト——男女間ニ於ケル最原始ノ分業ハ、男子ハ狩獵戰闘ニ従事シ、女子ハ育児ニ従事スト云フニ在リ——道具ノ製造ハ又タ恐ラク男子ノ分業ニ屬シ、火ノ使用ハ女子ノ分業ニ屬セシナラン——男女間ニ於ケル生理上ノ差異以外ニ分業ノ原因ヲ求メントスルノ說——原始時代ニ於イテハ生産ト消費トハ男女截然トシテ互ニ相分チタリト云フ說——人類ノ歴史ノ第一期ニ於イテハ男女對等タリシコト——男子ノ情慾強キコトガ其ノ弱點トナリテ男子ハ女子ヲ優遇セシト云フコト——(二)第二期ニ入ルニ及ンデ女子ノ地位下落スルコト——其ノ原因ハ男子ノ經濟的能力及ビ精神的能力ノ發達ニアリト云フコト——第二期ニ於ケル男女間ノ分業ハ社會的性質ノモノトナル——第一期ト第二期トノ間ニ於ケル男女分業ノ差異——其ノ一ハ第二期ニ至ツテ始メテ眞ノ分業アルニ至ルト云フコト——其ノ二ハ人種及ビ四圍ノ事情ヲ異ニスルニヨリテ分業ノ有様相同カラザルノミナラズ、其ノ性質ハ複雑トナリ、男女ハ皆ニ異レル仕事ニ従事スルノミナ

ラズ、一ツ仕事ヲ分割シテ之ヲ負擔スルニ至ルト云フコト——其ノ三ハ男女間ノ分業ハ皆ニ家族ヲ成セル夫婦間ニ止マラズ廣ク社會ニ於ケル男女兩性間ノ分業タルニ至ルト云フコト——其ノ四ハ同性間ニ於イテ分業行ハル、ニ至ルト云フコト



人類原始ノ生活

講師 法學士 河 上 肇 著

上篇 人類原始ノ生産及ビ消費

第一章 人類特有ノ生産及ビ消費

吾輩ハ本章ニ於イテ、最原最始ノ人類ハ如何ナル點ニ於イテ經濟上動物ト分ツ所アリシカチ述ベント欲ス。換言スレバ動物タリシ人類ハ經濟上如何ナル條件ヲ具フルコトニヨリテ人類テフ動物タルニ至リシカチ述ベント欲ス。而シテ先ヅ其ノ要旨ヲ摘録シ置カバ、經濟上人類ガ動物ト異ル所ハ、生産ノ方面ニ於イテハ道具ノ製造ニ在リ、消費ノ方面ニ於イテハ火ノ使用ニ在リト云フニ在リ。請フ、以下之ガ略説ヲ試ミン。

(一)

思フニ人類ハ他ノ四足獸ト異リ、直立シ得ルガ故ニ始メテ手ヲ有スルニ至リタリ。而シテ其ノ手ヲ有スルニ至リタルコトハ、經濟上最モ有利ナル條件ニシテ、第一ニ

第一章 人類特有ノ生産及ビ消費

二

ハ道具(最モ廣義ニ解シテ、器具、機械ヲモ含ム)ノ製造ト云フ結果ヲ齎シ、第二ニハ火ノ使用ト云フ結果ヲ齎シタリ。而シテ今マ、吾輩ハ此ノ道具ノ製造ト火ノ使用トヲ以テ經濟上ニ於ケル人類ノ特徴トナシ、動物タリシ人類ガ能ク人類テフ動物タルニ至リシハ、全ク此ノ二個ノ長所ヲ具有スルニ至リタルガ爲メナリト爲ス。(註一)

(註一) 精神の方面ニ於イテハ、人類ト動物トハ殆ンド分ツ所ナク、現ニ、感覺、記憶、情緒、想像、推理等ノ精神的作用ハ、人類以外ノ動物ニモ凡テコレアルモノトス。委細ハ Moore, The Universal Kinship, Part II, Ch. IV, The Elements of Human and Non-human Mind Compared 及 Kautsky, Ethics and the Materialist Conception of History, Ch. IV, The Ethics of Darwinism 等ヲ見。

吾輩ハ先ヅ道具ノ製造ガ人類ノ特徴タルコトヲ證明スベシ。而シテ之ガ爲メニハ、先ヅ道具製造ノ能力ヲ有スルコトガ人類共通ノ現象タルコトヲ説明シ、次イデ此ノ能力ハ人類以外ノ動物ノ全ク解シ能ハザル所ナルヲ説明セザルベカラズ。思フニ現存セル人類ハ如何ニ野蠻ノモノト雖モ、一トシテ道具製造ノ能力ヲ解セザルモノナキハ殆ド言ヲ待タズ。(註二)而シテ此ノ能力ガ如何ニ淵源スル所古キカハ、苟クモ人類ノ遺骨ノ發見セラル、地層ニ於イテハ、必ズ其ノ遺物タル道具ノ發見セラル、ニ徴シテ之ヲ知ルベシ。最モ古キ人類ノ遺骨ハ、地質學上所謂洪積紀ニ屬セ

ル地層中ノ古層ヨリ發見サレタルモノナルガ(註三)今マ是等ノ遺骨ヲ殘セシ最古ノ人類サヘ、既ニ道具ノ製造ヲ解シ居タルノ事實ハ、實ニ驚クベキコト、云フベシ。例ヘバ千八百八十六年白耳義ノスビーニ於イテ原始人類ノ遺骨發見サレタル時ニモ、又タ千八百九十九年匈牙利タロチエン州ノクラピーナノ洞穴中ヨリ同様ノ遺骨發見サレタル時ニモ、是等ノ遺骨ト共ニ原始的石器ヲ發見シタリト云ヘリ。道具製造ノ由來、極メテ久シキコト以テ徴スベク、今マ之ヲ以テ人類共通ノ現象ト爲ス、恐ラク大過ナカルベシ。

(註一) 棍棒ヲ用フルコトト或ル堅キ物質ヲ以テ切レ物ヲ作ルコトトハ、如何ナル野蠻人ト雖モ之ヲ解シ居ルナリ。(坪井正五郎氏、人類學講話、二一四頁)。

(註二) 洪積紀以前即チ第三紀ニ屬セル地層中ヨリモ、嘗テ人類ニ酷似セル動物ノ遺骨發見サレタルコトアリ。人類學者ハ之ヲ名ケテ「ピテグアントロトプス」ト云ヒツ、アルガ、コノ遺骨ヲ殘セシ動物ガ人類ナルヤ否ヤニ就イテハ、學者間種々ノ異說アルガ如シ。猶ホ昨年ノ春ヨリシテ古代人骨ノ發見セラル、モノ續々相次ギ、中ニハ「ピテグアントロトプス」ヨリモ更ニ人類ニ近キ動物ノ遺骨發見サレタリト云フガ、是等ノ點ニ就イテ精密ノ研究ヲ爲スハ本著ノ趣旨トスル所ニ非ザルガ故ニ、茲ニハ姑ク洪積紀ノ地層中ノ古層ヨリ發見セラル、所謂原始人類(Homo preingenius)ノ遺骨ヲ以テ人類最古ノ遺骨ト爲シ置クナリ。尤モ人類ノ遺物タル石器ハ、洪積紀以前即チ第三紀

ニ屬セル地層中ヨリモ既ニ發見サレタルモノアリト云ヘバ、何レニシテモ、道具ノ製造ハ人類ノ歴史ト離ルベカラザル關係ヲ有スルナリ。

此ノ如ク道具ノ製造ハ人類共通ノ現象タルト同時ニ、人類以外ノ動物ニハ又々決シテ見ル能ハザル現象タリ。蓋シ類人猿ノ如キハ、或ハ樹枝ヲ以テ防禦ノ具ト爲シ、或ハ石片ヲ以テ殻果ヲ割出スル等ノコトヲ爲ス、ノミナラズ、倫敦ニ於ケル動物園ノ猿ノ如キハ、殻果割出ノ用ニ供セシ石片ハ使用後必ズ之ヲ藁堆ノ下ニ隠シ置キ、決シテ他ノ猿ニ使用セシメズト云ヘバ、(註一)道具ノ使用及ビ處有ハ、必ズシモ人類特有ノ現象ト言ヒ難キニ似タレドモ、而カモ是等ノ動物ニ在リテハ、只ダ自然物ヲバ道具トシテ使用スルニ止マリ、其ノ自然物ニ加工ヲ爲シテ道具ソノモノヲ製造スルコト能ハザルガ故ニ、道具ノ製造ヲ解スルハ獨リ人類ノミニ限ラルト云ヒテ不可ナシ。(註二)道具製造ノ能力ハ獨リ人類ニ限ラル、コト此ノ如ク、而シテ又々、如何ニ古代ノ人類ト雖モ嘗テ其ノ能力ヲ有セザルコトナカリシハ、既ニ述ベタルガ如シ。是ノ故ニ、吾輩ハ先ヅ道具ノ製造ヲ以テ人類ノ經濟上ニ於ケル第一ノ特徴ト爲ス也。

(註一) Darwin, Descent of Man, vol. I, p. 125.

(註二) ツェンケルン Der Mensch hat zwischen sich und die Thierwelt das Werkzeug gesetzt ト云ヒ 福田博士、國民

經濟原論註八九) シェーフェルン Der Urmensch erhebt sich schon dadurch über das Tier, dass er die Gegenwart mit eigenen und den von der Vergangenheit aufgesparten Geräten und sonstigen Hilfsmitteln besser auszunutzen weis. (Zeitschrift für Sozialwissenschaft, IX, S. 747.) ト云ヒ 福田博士ハ「唯其ノ(原始人類ノ) 獸類ト異ル所ハ、食料探索ニ當ツテ極メテ幼稚ナル器具ヲ用ヒルトイフ」是デアアルト云ヒタルガ(前掲書、八八、八九頁)吾輩ノ既ニ本文中ニ述ベタルガ如ク、動物中ニモ極メテ幼稚ナル道具ヲ用フルモノアルノミナラズ、其ノ道具ノ保存サヘ爲シツ、アルモノアルガ故ニ、是等諸學者ノ説ハ嚴密ニ云ヘバ欠點アリト云ハザルベカラズ。之ニ反シカウツキ「Not the use of tools distinguishes man from the animals. What, however, alone distinguishes the former is the production of tools. (Krausky, Ethics and the Materialist Conception of History, p. 120.)」ト云ヘリシハ、殆ド欠點ナキニ似タレドモ、生産ト云フ文字ハ範圍曖昧ナルガ故ニ、吾輩ハ特ニ製造ト云フ文字ヲ用ヒ置キタリ。

次ギニ、吾輩ハ火ノ使用ガ人類ノ第二ノ特徴タルコトニ就キ一言シ置カザルベカラズ。蓋シ動物中火ノ使用ヲ解スルモノナキハ言ヲ待タザレドモ、火ノ使用ガ人類共通ノ現象ナルヤ否ヤハ少シク疑ヒナキニ非ラズ。乍併、如何ニ幼稚ナルモノト雖モ少クモ現存セル蠻人中ニハ、曾テ火ノ使用ヲ解セザルモノナキノ事實ト(註二)又々氷原時代(註三)ノ人類ノ遺物ヲ見ルモ、既ニ人類ガ火ヲ使用シタリシ跡ヲ留ムル

ノ事實トハ(註三)如何ニ火ノ使用ガ人類ノ生活ト密接ナル關係アルカヲ證明スルニ足ルモノナレバ、多少ノ疑ナキニ非ザレドモ、吾輩ハ姑ク茲ニ火ノ使用ヲ以テ、人類ノ經濟上ニ於ケル第二ノ特徴トシテ數ヘ置カント思フナリ。

(註一) 現存セル蠻民中火ヲ用フルノ術ヲ解セザルモノアリトハ、嘗テ學者ノ説キシ所ナリ。例ヘバラボックノ如キハ、南洋諸島ニ於ケル或ル蠻族ハ火ヲ用フルノ術ヲ知ラザルモノ、如シト爲シ、ムンドラウフノ如キモ亦タヒリッピン島ニ於ケルネグリト一族ニ就イテ略ホ同様ノ事實アルヲ主張セシガ、前者ノ説ハハシエル其ノ誤謬タルヲ明カニシ、後者ノ説ハシヤーデンベルク其ノ誤謬タルヲ明カニセシト云フ。(Bücher, Die Furtsetzung der Volkswirtschaft, 6 Aufl. S. 6.) カクテ今日ニ至ッテハ、如何ナル蠻民ト雖モ火ヲ用フルノ術ヲ解セザルモノナシトハ、一般人類學者ノ定論ナリ。(坪井正五郎氏、人類學講話、二一四頁。ブユヘル國民經濟起源論英譯四頁ニ於ケル譯者ウイケットノ増註。Tevons, History of Religion, p. 15, Schuritz, Katechismus der Völkerkunde, S. 35, 等參照)

(註二) 氷原時代ハ地質學上所謂第三紀ノ末ヨリ第四紀ニ亘ル頃ニ當リ、先ヅ人類ノ遺骨ノ發見セラル、最古ノ時代ナリ。

(註三) Bücher, S. 6.

(II)

以上述ブルガ如ク、人類ノ經濟上ニ於ケル特徴ハ、道具ノ製造ト火ノ使用トニ在ル

モノナルガ、此ノ事ハ吾等ノ最モ注意ヲ要スル點ナリ。何トナレハ、吾輩ノ後ニ述ブルガ如ク、此ノ二點ヲ除キテハ、精神上ニ於イテモ物質上ニ於イテモ、人類ト動物トハ殆ド之ヲ區別スル所以ノ標準ナキモノナルガ故ニ、人類ノ進化ノ今日アル所以、少クトモ人類ノ經濟ガ今日他ノ動物ノソレト全ク面目ヲ異ニスル程ノ發展ヲ爲シ得タル所以ハ、人類ノ經濟上ニ於ケル此ノ二特徴ノ作用ニ歸セザルベカラザルヲ以テナリ。略シテ之ヲ言ハ、動物タリシ人類ガ人類テフ動物タルニ至リシ所以ハ、全ク此ノ二特徴ヲ具ヘタルノ結果ト爲サルベカラザルヲ以テナリ。念フニ道具ノ製造ト火ノ利用(註一)トガ如何ニ人世ノ福利ヲ増進シタルヤハ、殆ド言フヲ須ヒザルガ如シト雖モ、シカモ道具ノ進歩ハ火ノ利用ノ進歩ヲ促シ、火ノ利用ノ進歩ハ又タ道具ノ進歩ヲ促シ、カクテ火ト道具トノ利用ハ兩々相助ケテ以テ、古往今來、實ニ人類社會ニ於ケル經濟的進歩ノ二大根底ヲ爲スノ偉觀ニ至ッテハ、茲ニ一言セズシテ已マント欲スルモ得ベカラザルモノアリ。仍リテ吾輩ハ今マ其ノ一斑ヲ示サンガ爲メ、一例ヲ太古ニ舉ゲ、一例ヲ近世ニ採ラン。

(註一) 人類ニ對スル火ノ効用トシテ坪井正五郎氏ノ列舉シタル所左ノ如シ。(東洋學藝雜誌、二三一

號)

甲、熱ノ應用

- 一、 飲食物ヲ煮燒キスル事
- 二、 身體ヲ煖メル事
- 三、 濕ツタ物ヲ乾カス事
- 四、 石材ヲ破ル事(野蠻人が石器ヲ作ル時ニスル)
- 五、 金屬ヲ熔カス事
- 六、 木ヤ竹ヲ尖ラシタ端ヲ燒キ固メル事
- 七、 木材ノ腐敗ヲ豫防スル爲ニ燻ベル事
- 八、 木材ヲ掘リ凹マスニ容易デ有ル様ニ其部分ヲ燒ク事(木鉢、丸木舟等ヲ作ル場合ノ様ニ)
- 九、 長イ物ヲ短イ部分ニスル爲ニ燒キ切ル事
- 一〇、 長イ物ヲ約メル爲ニ燒キ減ラス事
- 一一、 物ヲ柔ニスル爲ニ焙ル事
- 一二、 物ヲ失フ爲ニ燒キ捨テル事
- 一三、 物ヲ高キニ昇ラセル爲ニ空氣ヲ温メル事
- 一四、 治病ノ一法トシテ皮膚ヲ燒ク事
- 一五、 人ニ苦痛ヲ與ヘル爲ニ皮膚ヲ燒ク事
- 一六、 湯ヲ沸カス事(是カラ起ル間接ノ働キハ澤山ニアル)

- 一七、 物ニ印シ付ケル爲ニ或部分ヲ限ツテ燒ク事(燒キ印)
- 一八、 畫或ハ模様ヲ現ハス爲ニ物ニ燒キ痕ヲ付ケル事
- 一九、 皺ヲ引キ延バス爲ニ物ヲ煖メル事
- 二〇、 様々ノ土製品ヲ燒キ固メル事
- 二一、 金屬ノ輪ヲ大キクスル爲ニ熱スル事
- 二二、 種々ノ物質ヲ混化サセル爲ニ煮ル事
- 二三、 香ヲ生ジサス様ニ物ヲ焙リ又ハ燒ク事

乙、光ノ應用

- 一、 暗キヲ照ラス事
- 二、 目印トスル事(看板、燈臺等)
- 三、 動物ノ注意ヲ惹イテ呼ビ近ケル事(魚、昆虫等)
- 四、 猛獸ヲ怖レシメテ之ヲ遠ケル事
- 五、 合圖ニ用ヒル事
- 六、 娛樂ニ用ヒル事(花火)
- 七、 裝飾ニ用ヒル事(紅燈、花瓦斯)

猶*以上ニ漏レタルモノニテ、思ヒ付キタルモノヲ擧グレバ、果實採取ニ便スル爲メ其ノ熱シテ地ニ落ツル以前ニ草叢ヲ燒キ拂フコト、(インド北部ノ土人間ニ此ノ習慣アリ、—Cook, Natives of Northern India, p. 103.) 開墾ノ爲メ樹木ヲ伐リ拂フ爲メニ之レヲ燃ス事(其ノ例甚ダ多シ、中央アフリ

カノ土人ノ如キ其一例ナリ、The Natives of British Central Africa, p. 179.) 肥料ヲ獲ルガ爲メニ所謂
焼畑ヲ爲スコト等アリ。

原始時代ニ於イテ火ノ利用ガ如何ニ道具ノ製造ヲ助ケタルヤノ一例トシテ、吾輩
ハ茲ニ船舶製造ノコトヲ一言セントス。蓋シ彼ノ石器時代ノ人類ガ海ヲ越ヘテ交
通往來ヲ敢テセシコトハ(註二)吾人ノ驚嘆セザルヲ得ザル所ナルガ、抑々太古ノ人
類ハ毫モ鐵器ヲ使用スルコトナクシテ、如何ニセバ海洋ヲ航行スベキ船舶ノ製造
ヲ爲シ得タルヤト云フニ、コレ一ニ火ノ利用ニ依ルト云フモ不可ナク、例ヘバカル
ムガ千七百四十七年デラウエア河ニ於イテ觀察セシト云フインド人ノ造船法ノ
如キ即チ其ノ消息ヲ髣髴セシムルニ足ルモノナリ。曰ク「インド人ハ大木ヲ伐リ倒
スニ適當ナル道具ヲ有セザルガ故ニ、彼等ハ火ヲ利用シテ其ノ目的ヲ達シツ、ア
リ。即チ彼等ハ其ノ倒サントスル大木ノ下ニ多クノ樹枝ヲ集メ、之ニ火ヲ附ク、而シ
テ竿ノ先キニ檻樓ヲ卷キ附ケ、之ヲ水ニ浸シ、之ヲ以テ絶ヘズ火ノ上邊ニ當レル部
分ノ樹幹ヲ濕シ、火ヲシテ上部ニ燃ヘ付クコトナカラシム、カクシテ彼等ハ、其ノ大
木ノ下部ヲ殆ド燒キ盡シ、以テ容易ニ之ヲ倒シ得、而シテ既ニ之ヲ倒シタル後更

ニ之ヲ船ニスルガ爲メニハ、彼等ハ其ノ倒シ得タル木ニ沿フテ乾キタル樹枝ヲ積
ミ之ニ火ヲ附ケ、其燃燒ヲ防グベキ部分ノミハ前ニ述ベタル方法ニ依リ絶ヘズ之
ヲ濕ス。カクテ相應ノ穴ヲ穿チ得たらバ、次ギニハ石斧又ハ貝殼ヲ以テ更ニ之ヲ掘
リ鑿チ、此ノ如クニシテ普通三十呎乃至四十呎ノ長サヲ有スル獨木舟ノ生産ヲ見
ルニ至ル」ト。(註三)猶ホ此ノ如キ例ハ甚ダ多シ。(註三)之ニ依ツテ考フルニ幼稚ナル太
古ノ民ヲシテ早ク水上航行ノ自由アラシメタルモノ、一ニ火ノ利用ノ賜ナルコト
ヲ知ルニ足ル。

(註一) 日本石器時代ノ住民ガ海ヲ越ヘテ往來セシモノナルコトハ、左ニ列記スル事實ニ依リテ之
ヲ知ルヲ得ベシ。

- 一、伊豆七島ノ一ナル大島野増村字タツノクチト云ヘル山林ノ土中ヨリ石器時代ニ於ケル土
器及ビ黒曜石ノ破片多數ニ發見セラレタリ。今此ノ黒曜石ナルモノハ石鐵類ヲ造ル原料ニシ
テ、石器時代ノ人類ハ此ノ質ノ石ヲ得ンコトヲ熱望シ居タルニ相違ナキガ、地質學者ノ說ニヨ
ルニ、元來大島ニハ此ノ黒曜石ヲ産セズ、只ダ其ノ南方ニ當レル神津島ニ於イテ産スルニ過ギ
ズ、トノ事ナリ。然ラバ大島ニ住ミタリシ石器時代ノ人類ハ、少クトモ神津島ニ交通シ得タルモ
ノナラン(東洋學藝雜誌、一八卷、二四〇號所載、坪井理學博士、石器時代人民ノ交通貿易參照)。
- 二、大島ト神津島トノ中間ニ位スル利島ヨリ發見サレタル土器ヲ見ルニ、雲母ノ碎片多量ニ混

入セリ。然ルニ、地質學者ノ説ニヨレバ、コノ雲母ハ利島ニ於イテ産セズ只ダ其ノ南方ナル新島ニ於イテ産スルノミトノ事ナレバ、既ニ石器時代ニ於イテ、利島ト新島トノ間ニ交通アリタルコト明カナリ(同上)。

三、山陰山陽ノ各地ニ於イテ發見セラル、石鏃中ニハ、四國産ノ石ヲ以テ作りタルモノアリ。(坪井理學博士ノ前掲文、及ビ東京人類學會雜誌、二二三號所載、蒔田鎗次郎氏論文、日本石器時代人民ノ交通)。

四、北海道ニテ發見セラル、磨製石斧中ニハ、北海道ニ無キ石ニテ造リタルモノアリ。利尻島發見ノ石器原料破片中ニハ、昔ニ其ノ島ニ産セザルノミナラズ、北海道全島ニスラ無キ石アリ。(坪井理學博士ノ前掲論文參照)。

五、石器ノ形式、土器ノ形式ヲ比較スルモ、矢張り諸地方住民相互ノ交通ヲ推考シ得ベシ、四國、九州、本土、北海道、南千島等、凡テ海水ヲ以テ隔テラレ居ルニ拘ラズ、彼此相通ジテ同一種族ノ住居セシ形迹アルハ、既ニ石器時代人民ノ遠ク航行スルニ適セル舟ヲ有シ居タリシ證據ナリ。(坪井理學博士前掲文參照)。

六、尙ホ石器時代ノ遺物ニ、朱及ビ硬玉ノ存在セシコトハ、外國トノ交通アリシ證據ナリ。(東京人類學會雜誌、一九一號所載、蒔田鎗次郎氏論文、關東平野ニ於ケル朱、及ビ同誌二二三號所載、同氏前掲論文)。

(註二) (註三) Pitt-Rivers, The Evolution of Culture and Other Essays, p. 190 et seq.

今マ翻ツテ所謂産業革命テフ近代經濟社會ノ大變ニ就イテ考フルニ、是レ亦タ火

ト道具トノ利用ノ一進歩、其ノ根本ノ原因ヲ爲スニ外ナラス。蓋シ彼ノ所謂産業革命ナル者ハ先ヅ英國ニ於イテ起リタリ。而シテ其ノ原因ハ畢竟スルニ機械ノ發明ニ外ナラズ。其ノ機械ノ發明ノ第一ヲ紡績機械ト爲ス。曰ク千七百六十七年ニ於ケルゼームス、ハーグリブスノ發明、曰ク千七百七十五年ニ於ケルアークライトノ發明、曰ク千七百七十五年ニ於ケルクロンプトンノ發明、曰ク千七百九十二年ニ於ケルケレーノ發明コレナリ。而シテ之ニ次グモノヲ千七百九十三年ニ於ケルイリ、ホワイトナーノ綿繰機械及千七百八十五年ニ於ケルカートライトノ織物機械ノ發明ト爲ス。乍併當時如何ニ機械ノ發明アリシトスルモ、其ノ機械ヲ造ルベキ充分ノ材料ト其ノ機械ヲ運轉セシムベキ充分ノ動力ト無カリセバ、所謂産業ノ革命モ或ハ之ヲ完成スルニ由ナカリシナラン。是レワット出デ、蒸氣機關ノ發明ヲ爲シタル所以ナリ。一タヒ蒸氣機關ノ發明アリ、茲ニ於イテカ始メテ諸種ノ機械ヲ運轉セシムベキ動力機アルヲ得タルノミナラズ、機械ノ製造ニ必要ナル鐵ト、其ノ運轉ニ必要ナル石炭トハ、其ノ蒸氣機關ガ礦山業ニ應用サル、ニ至リ、始メテ其ノ産額ヲ激増スルニ至リシモノニテ、畢竟産業革命ノ大業ハ蒸氣機關ノ發明ヲ待ツテ

始メテ實現サレタルモノト謂フテ不可ナシ。疑フナキナリ、恰モ鐵ト石炭トノ供給最モ豊富ナリシ英國ガ先ヅ十九世紀ノ初頭ニ於イテ世界產業界ノ霸王タルヲ得シコトヲ。而シテ前ニ謂フ所ノ各種機械ノ發明ハ、吾輩ノ所謂道具ノ發展ニ外ナラズ。而シテ又タ蒸氣機關トハ即チ是レ火力機關ナリ。看ヨ、現代ニ於ケル各種ノ大工業ヲ始メトシ汽船、汽車、海陸兩面ニ於ケル交通機關ノ大進歩ハ、一ニ是レ火ノ賜ナルコトヲ。蓋シ原始社會ヨリシテ現代社會ニ至ルマデ、火ト道具トノ利用ガ、人類社會ニ於ケル經濟的進歩ノ二大根底ヲ爲スコト、實ニ此ノ如キモノアツテ存スル也。

第二章 人類原始ノ生産状態 (上)

吾輩ハ本章ニ於イテ、先ヅ、人類ノ歴史ノ第一期ハ、消費アツテ生産ナク、充慾行爲アツテ經濟行爲ナキ時代ナルコトヲ述ベント欲ス。

(一)

凡ソ人類ハ其ノ生命ヲ維持スルガ爲メニ、外界ノ物體ヲ攝取スルノ必要アルモノナレバ、苟クモ既ニ人類アラバ、茲ニ消費アラズト云フコトナシ。然ラバ生産ハ如何。蓋シ既ニ述ブルガ如ク、動物タリシ人類ガ人類テフ動物タルニ至リシハ、彼等ガ道具ノ生産ヲ解スルニ至リタルガ爲メニ外ナラザレバ、吾輩ノ所謂人類ニシテ生産ヲ爲サザルモノナキハ明カナリ。併シ乍ラ、コノ道具ノ生産ヲ除カバ、人類ハ只ダ自然物ヲ消費セシノミニテ、更ニ何等ノ生産ヲ解セザリシ時代頗ル久シキモノアリ。故ニ人類ノ歴史ハ先ヅ『消費アツテ生産ナキ時代』ヲ以テ始マルト云フヲ得ベク、吾輩ハ便宜上之ヲ名ケテ經濟前史ノ第一期ト爲ス。今マ此ノ第一期ニ於ケル人類ノ物質的状態ヲ知ラント欲セバ、先ヅ其ノ精神的状態ヲ知ルノ必要アリ。乍併、太古原

始ノ人類ガ果シテ如何ナル精神的状態ニアリタリシヤハ、所謂書契以前ノ事ニシテ到底之ヲ確知スベカラズ。只ダ幸ニシテ今日ト雖モ、猶ホ殆ド文明ノ何物タルヲ解セザル蠻人、世界ノ各所ニ散在スルガ故ニ、吾等ハ是等蠻人ノ現状ニ依ツテ太古原始ノ事情ヲ想像スルヲ得ベキ也。以下試ニ其一斑ヲ述ベシ。

既ニ述ブルガ如ク、人類ハ道具ヲ生産シ得ルノ能力ヲ具フルコトニ依ツテ、始メテ動物ト分ツアルニ至リタレドモ、太古原始ノ人類ハ此ノ物質上ノ差異ヲ外ニシテハ殆ト動物ト分ツ所ナカリシナラン。人類ト動物トノ精神上ノ差異ニ就テハ嘗テ種々ノ學說行ハレタレドモ、一方ニ於イテハ、動物學ノ進歩ニ伴フテ案外ニモ高等動物ノ間ニハ多少ノ精神的發達ヲ爲セルモノアルコト次第ニ發見セラレシト同時ニ、他方ニ於イテハ、現存セル蠻人ノ研究進歩セシニ伴フテ案外ニモ亦タ幼稚ナル状態ニ停滯シツ、アル人類アルコト次第ニ發見セラレ、遂ニ人類ト動物トノ精神上ノ差異ハ全ク程度ノ相違ニシテ種類ノ相違ニアラザルコト了解セラル、ニ至リタリ。故ニ概シテ之ヲ云ハバ太古原始ノ人類ハ精神上動物ト殆ド全ク差異ナキモノト了解シ置キテ不可ナシ。請フ、其ノ詳細ニ至ツテハ、以下徐ロニ之ヲ説カン。

第一期ノ人類ハ殆ド全ク抽象力ヲ欠如セシナラン。是レ吾輩ガ先ヅ第一ニ説明セントスル項目ナリ。思フニ吾人ハ吾人自ラ人類ナルガ故ニ、往々ニシテ人類ニ媚ブルノ傾向アリ、平生人類ヲ以テ他ノ動物ト全ク撰ヲ異ニスルモノ、如ク思ヘド、事實ニ就イテ之ヲ研究スル時ハ、人類ノ禽獸ヲ去ルコト誠ニ遠カラザルヲ覺エズンバ非ラズ。例ヘバ彼ノ抽象的觀念ノ如キ、學者其有無ヲ以テ人類ト禽獸トヲ分ツ所以ノ標準ト爲ス程ナレバ、(註一)如何ナル人種ト雖モ、ヨモ之ヲ欠如スルモノナカルベシト思ヘド、而カモ之ヲ事實ニ徴シテ研究スル時ハ、吾等ノ想像ノ誤レルヲ發見スルニ至ルナリ。例ヘバアフリカノネグリト一族ニ關スル記事ヲ見ルニ曰ク『事物ヲ抽象的ニ考フルコトバ、彼等ノ殆ド爲シ得ザル所ナリ。彼等ノ意識ニ上ルモノハ、個々ノ記憶的印象カ又ハ外界ノ現象ニ依ツテ生ジタル時々ノ感情ニ過ギス……彼等ハ事物ノ關係ヲ知ル能ハズ、又タ現ニ見又ハ經驗シタル特種ノ事物ヨリ離レテ別ニ觀念ヲ造ルコト能ハズ。彼等ノ思想界ニ於イテハ、凡テノ事物ガ其ノ種類性質ヲ異ニシ、如何ナル事物ニモ共通ノ要素ト云フモノ非ラザルナリ』(註二)同ジクアフリカノダムマラ族ニ就キガルトンノ記載スル所ニ據レバ、彼等ハ甲地ヨリ乙

地ニ到ル道路及ビ乙地ヨリ丙地ニ至ル道路ハ共ニ之ヲ熟知シ乍ラ、甲地ヨリ丙地ニ通ズル道路アリト云フコトハ全ク考ヘ能ハズ』ト云フ(註三)又タ同クアフリカノビグミー族モ殆ド抽象的觀念ヲ有セズ』(註四)而シテブラジルノインヂアン族ノ如キハ『少シニテモ抽象力ヲ要スルコトハ全ク之ヲ考ヘ能ハズ』ト云ヘリ(註五)以上ノ諸例ニ依リテ考フレバ、人類ノ抽象能力ハ文明ノ稍々進歩シタル後始メテ發生スルモノタルヲ知ルニ足ルベク、猶ホ其ノ外、凡テノ蠻人社會ニ於イテ、抽象的言語ノ發達シ居ラザルコトハ(註六)更ニ他ノ一證ト爲スニ足ルベシ。今マ吾輩ハ是等現在ノ事實ヨリ推シテ、第一期ノ人類モ亦タ等シク抽象能力ヲ欠如セシモノト想像スルヲ得ベキナリ。

(註一) 今ヲ去ルコト約二百年前、哲學者ロツクハ

『概括的觀念ノ有無ハ、人類ト動物トノ間ニ完全ナル區別ヲ存スル所以ノモノナリ』

ト論シタリトノコトナルガ、今モ猶ホ此ノ如キ說ヲ絶タザルモノ、如ク、例ヘバブリトンノ如キ此ノ言ヲ引用シテ更ニ次ノ如ク論シタリ。

『概括的觀念——即チ當然抽象的ノモノナリ——ヲ形成スルノ能力ハ、人ヲ動物以上ニ擧グル唯一原因ナリ……此ノ概括的觀念及ビ其ノ發達ヲ外ニシテハ、他ノ動物モ亦タ人類ト同様ノ

精神的的生活ヲ有ス。子ニ對スル愛、社會的本能、信實、親愛、勇氣、凡テ是等ノ精神作用ハ何レモ皆ナ
人類ガ其ノ祖先タル四足獸ヨリ繼承シ來リタルモノニ外ナラズ』(Briton, Basis of Social Relation,
1902, p. 5.)

トトマスモ亦タ殆ド同様ノ論ヲ爲セリ、曰ク

『凡テ高等ノ動物ハ多少トモ記憶、判斷、撰擇ノ能力ヲ有スレドモ、只ダ人類ニ至ツテハ其ノ記憶
力非常ノ發達ヲ爲シ、是ガ爲メ抽象的觀念又ハ概括的觀念ト理性トノ發達ヲ見ル』(Thomas,
"Mind of Woman and Lower Races," The American Journal of Sociology, XII, p. 436.)

(註二) Dowd, The Negro Races, vol. I, p. 361.

(註三) Spencer, Principles of Sociology, vol. II, p. 80

(註四) Dowd, vol. I, p. 18.

(註五) Spencer, vol. I, p. 83.

(註六) 例ヘバビグミー族ニアリテハ『言葉ト云フ思想ヲ表ハスベキ語ナシ』ト云フガ如キ(Dowd, vol.
I, p. 18.) フレン族ニアリテハ『食フト云フ思想ヲ表ハス語ナク、食物ノ異ルニ從フテ一々其語ヲ異
リス』ト云フガ如キ(Gurwitsch, Die Entwicklung der menschlichen Bedürfnisse, S. 8. — Staats und socialwissenschaftli-
che Forschungen, XIX, Heft 4.) 又タコック、ボド、ヂマルノ諸族ニアリテハ『事物、精神、空間、本能、理論、意識、
數量、程度、其ノ他之ニ類スル抽象的言語』ヲ欠クト云フガ如キ、又タ中央アフリカノボンゴ族ニ
アリテハ『精神、靈魂、希望、恐怖等ニ關スル抽象的言語ハ全ク之ヲ固有セズ』ト云フガ如キ、又タダ
マニア族ガ『個々ノ種類ノ木ニ封スル名稱ヲ有セドモ、木全体ニ對スル抽象的言語ヲ欠キ、又タ硬

軟寒暖長短方圓等ヲ表ハス語ヲ有セズ』ト云フガ如キ、又タ北米ノ蠻人が『黒キ櫛、赤キ櫛、白キ櫛』ト云フ語ヲ有シ乍ラ、櫛ト云フ語モ木ト云フ語モ之ヲ有セズ』ト云フガ如キ、又タブラジルノコロア
 ↓ド族ガ『植物、動物、色彩、音響性、種屬等ノ抽象的言語ヲ有セズ』ト云フガ如キ、又タ濠洲ノ蠻人が『殆
 ↓抽象的及ビ概括的ノ語ヲ有セズ』ト云フガ如キ、更ニ又タフュージアン族ガ『史ニ抽象的ノ單語ヲ
 有セズ』ト云フガ如キ(以上 Lullbook, On the Origin of the Civilization, p. 437.) 即チ是レ也。

次ギニ吾輩ハ、第一期ノ人類ガ計算ノ能力ヲ欠如セシコトヲ述ベシ。蓋シ抽象ノ能力ヲ有セザル者ガ、計算ノ能力ヲ具ヘ能ハザルハ殆ド必然ノ道理ナレドモ、經濟上計算ト云フコトハ頗ル大切ナル問題ナルガ故ニ、吾輩ハ更ニ此ノ事ヲ一言シ置カント思フナリ。今マ又タ試ニ之ヲ現時ノ蠻人ニ就イテ觀察スルニ、彼等ハ殆ド計算ノ能力ヲ有セズ、縱ヒ多少ハ其ノ能力ヲ具フト雖モ、殆ド隻手ノ指ヲ數フルニ止ルモノ少シトセズ。例ヘバ前ニ掲ゲシアフリカノダムマラ族ニ就イテ等シクガルト
 ↓ノ記載セル所ヲ見ルニ、『彼等ハ殆ド數ノ觀念ヲ欠如シ、旅行ニ際シテモ出發後其ノ何日目ニ當ルヤハ更ニ知ルコト能ハズ。數ヲ表ハスベキ語ハアリトスルモ、實際ニ於イテハ三以上ノ數ヲ表ハスベキ語ヲ用ヒズ、三以上ハ凡テ手ノ指ニテ表ハセリ。然ルニ五以上トナレバ指ニテ表ハシ能ハザルガ故ニ、之ヲ表ハスガ爲メニハ

頗ル困難ヲ感ズルモノ、如ク、事實五ヨリ以上ハ、殆ド數ヘ得ズト云ヒテ可ナリ』ト云フ。(註二)同ジクアフリカノ蠻人タルブッシュマン族及ビブラジルノウッド、インヂアン族ノ如キハ二以上ヲ數フル能ハズ。(註三)又タバートンガ東部アフリカノ蠻人ニ就イテ記載セル所ニ據レバ、『彼等ニ向ツテ算數ノコトヲ問ハンカ、最モ伶俐ナル者ニテモ十抄ヲ待タズシテ弱リ果ツベシ』ト云フ。(註四)又タセーロン島ノエッダー族ノ如キモ、元ト外人ノ影響ヲ受ケザリシ前ハ、全ク物ヲ數フルコト能ハズ。嘗テ或ル人が九個ノ馬鈴薯ヲ三人ニ等分シタリシカバ、彼等ハ之ヲ以テ何等カノ魔術ヲ使ヒタルモノト看做シタリト云フ。(註五)以上ノ諸例ニ依リテ考フレバ、計算能力ノ發生モ亦タ文明ノ稍々進歩シタル後ノコトタルヲ知ルニ足ルベシ。而シテ猶ホ其ノ外、凡テノ蠻人社會ニ於イテ數ヲ表ハスベキ語ノ發達シ居ラザルコトモ(註五)其ノ一證ト爲スヲ得ベク、(註六)又タ數ニ關スル語ニシテ手足ヲ表ハス語ニ淵源スルモノ多キハ、(註七)計算能力ノ充分ニ發達セザル爲メ、物ノ計算ニハ多ク手足ノ指ヲ用フルヨリ起レルコトニテ、是レ亦タ計算能力ノ發生ガ文明ノ稍々進歩シタル後ノモノタルコトノ他ノ一證ト爲スニ足ルベシ。

(註一) (註二) Lubbock, pp. 439, 440.

(註三) Spencer, vol. I, p. 83.

(註四) Hobhouse, Moral in Evolution, vol. I, p. 44.

(註五) プラジルのボトクド一族ハ一ヲ表ハス語ヲ有スルノミニテ、一以上ハ凡テ單ニ多數ト云フニ過キズ。(Lubbock, p. 439.) ユロアド一族ハ三以上ハ只ダ多數ト云フノミ、ガラニ一族モ三以上ハ凡テ「チパパハビ」(多數ノ意)ト云フノミ。(同上、四四五頁) クーツサ、カツフア一族ハ八以上ニ對スル語ヲ有セズ、而シテ多數ノモノハ全ク數ニ對スル語ヲ解セス。(同上、四四六頁) 深洲ノ蠻人中ニハ四以上ニ對スル語ヲ有スルモノナシ、或ハ曰フ三マデニ止ルト。(同上、四四〇頁) 及び Headley, Problem of Evolution, p. 324.) アンダマン族ハ歐人ニヨリテ教育サレザリシ當時ハ、二以上ノ數ヲ表ハスベキ語ヲ有セザリシト云フ。(Headley, p. 324.)

(註六) 數ヲ表ハスベキ語ナクトモ數ヲ計算スルコトハ有り得ベシ。例ヘバ先キニ本文中ニ述ベタルダムマラ族ガ三以上ノ語ヲ解セズシテ五マデハ數ヘ得ルガ如キ、又々前註ノ最後ニ舉ゲタルアンダマン族ガ二以上ヲ表ハスベキ語ヲ有セズシテ十マデハ數ヘ得ルガ如シ。併シ、計算ノ能力ハ數ニ關スル語ノ發達ヲ待ツテ始メテ充分ナル發達ヲ爲シ得ルモノナルガ故ニ、計算能力ノ發達如何ハ數ニ關スル語ノ發達如何ニ依リテ之ヲトシ得ルモノナリ。

(註七) 數ニ關スル語ニテ手足ニ關スル語ニ起源スルモノ殊ニ蠻人社會ニ多シ。今マ其ノ實例ヲ抄録スレバ次ノ如シ。

(一) グリーンランドノエスキモーハ二十ノ數ヲ表ハス爲メニ一人ト云フ語ヲ用ヒツ、アルガ、

コハ四肢ノ指五本宛ヲ合計セバ二十トナルガ爲メナリ。

(二) コルシエ族モ二十ノコトヲ hko (一人)ト云ヒ、四十ノコトヲ tach hko (二人)ト云フ。

(三) ガイアナノ土人が數ヲ表ハス爲メニ用フル語ハ左ニ例示スルガ如シト云フ。

五 || アバ | タカボ || 一手

六 || アバ | タカボ、アバ | チメン || 一手ニ一指

七 || アバ | タカボ、ビアム、チメン || 一手ニ二指

十 || ビアム、タカボ || 二手

十二 || アバ | クチ、バナ || 一趾ヲ加フ

十二 || ビアム、クチ、バナ || 二趾ヲ加フ

二十 || アバ | ロコ || 一人

四十五 || ビアム、ロコ、アバ | タコボ、タシエーゼ || 二人ニ一手ヲ添フ

(四) ガリア族ニテハ十ノコトヲ chonoucheo rain (一手ノ指)ト云ヒ、二十ノコトヲ chonougonchi rain (指及趾)ト云フ。

(五) アビボーン族ハ五ノコトヲ lanám hegem (隻手ノ指)ト云ヒ、十ノコトヲ lanám rihagem (隻手ノ指)ト云ヒ、二十ノコトヲ lanám rihagem cat gracherkaka anamichirihagem (隻手ノ指及ビ雙足ノ趾)ト云フ。

(六) マレー半島ノ或ル部分、ポリネシア諸島等ニ於イテ、五ト云フ語ニハ rima, lima, ima 等ヲ用ヒツツアルモ、是等ハ凡テ手ヲ意味スル語ナリ。

(七) エリス群島ニテ十ノコトヲ「カツア」ト云フハ凡テノ指ト云フ語ニ起レルナリ。

(八) プッシュマン族ハ本文中ニ述ベタル如ク二以上ヲ數ヘ能ハズト雖モ、或ルモノハ五ノコトダケ特ニ「グエム、ツォーム」ト云フ語ニテ言ヒ表ハス、而シテ是レ亦タ手ヲ意味スルニ外ナラザルナリ。

(九) アート族ニ就イテスプロートノ記載セル所ニ據レバ、一ト云フ語ガ六ト九トヲ言ヒ表ハス場合ニ再ビ用ヒラレ、二ト云フ語ガ七ト八トヲ言ヒ表ハス場合ハ再ビ用ヒラルトノコトナルガ、コレ亦タ彼等ガ數ヲ算フル爲メ指ヲ用フルヨリ起リタルコトナリ。コノ種族ガ物ヲ數フルノ法ハ、先ヅ兩手ノ指ヲ凡テ擴ゲ置キ、小指ヨリ始メテ段々ニ曲ゲ行キ、之ニヨリテ物ヲ數フ。即チ小指一本ヲ曲ゲタル時ハ、其ガ一ナリ。而シテ一方ノ手ハ凡テ曲ゲ盡シ更ニ他方ノ手ノ小指一本ヲ曲ゲタル時ハ、其ガ六ナリ。ソレ故六ト云フ語ハ一ノ手ト一ノ指ト云フ語ヨリ成リ立ツモノニテ、從ツテ六ト云フ場合ニハ一ト云フ語ヲ重ネ用ヒラル、コト、ナルナリ。更ニ七ト云フ場合ニ二ト云フ語ノ重ネ用ヒラル、モ之ト同一ノ理由ニ出ヅルナリ。而シテ八ト云フ場合ニハ、母指ト食指トガ曲ゲラレズシテ残り居リ、ソレガ主トシテ目ニ著クヨリ、八ト云フ語ハ二手ニ二指ヲ缺クト云フ意味ノ語ガ用ヒラレ、又タ之ト同様ノ理由ニテ、九ト云フ場合ニハ二指ト一指ヲ缺クト云フ意味ノ語ガ用ヒラル、次第ニテ、サテコソ彼等ノ言語中、六ト九トノ場合ニハ一ト云フ語ガ繰リ返ヘサレ、七ト八トノ場合ニハ二ト云フ語ガ繰リ返ヘサル、ナリ。

(一〇) ビット、リヴァー、インデア族ニテ九ト云フ語ハ「殆ド十二近シ」ト云フ意味ノモノナリ。

(一一) ザムカ及ビムイスカノインデア族ハ五ノコトヲ一手完シト云ヒ、六ノコトヲ他手ノ一指ト云ヒ、十ノコトハ二手完シトモ *quidha* (一足)トモ云フ。十一ノ事ハ足ト一ト云ヒ、十二ノ事ハ

足ト二ト云ヒ、以下凡テ之ニ準シ、遂ニ二十ニ至ツテ二足完シト云ヒ、或ハ人トモ云フ。

(一二) シヤルロース族ニテモ同シク指ヲ以テ物ヲ數フ。故ニ例ヘバ四十ノコトハ *noeni punne*ト云フ。コノ *noeni* (一) *canipune* (人)ノ二語ヨリ成リテ、本ト二人ノ義ナリ。

(一三) 西部濠洲ノ土人間ニテ *masjimbanga*ト云フハ二手ノ半分ト云フコトニテ即チ五ヲ意味ス。

(一四) 濠洲ノ劣等ムライ族ニアリテハ、一ト二トニ對スル語ヲ有スルノミナルガ、獨リ五ヲ表ハスガ爲メニハ *nyup murangin*ト云フ語ヲ使用セリ。コレハ一手ト云フ意味ニテ、更ニ十ヲ表ハス爲メニモ *politi murangin* 即チ二手ト云フ語ヲ用フ(以上凡テ *Talhoek, p. 40.* 以下ヨリ抄録ス)。

(一五) 更ニ臺灣ノ土人ニ關スル記事(東京人類學會雜誌二四三、二四四、二四七、二五〇、二五五、二五七、二五八號ニ連載セル伊能嘉矩氏ノ臺灣土蕃ノ數ノ觀念ト題スル論文)ヲ見ルニ亦タ同様ノ事アリ。例ヘバアタイヤル族ニテ抽象的ノ計數ヲ爲スニハ、兩手ヲ用ヒ、先ヅ一方ノ手ノ拇指ヨリ順序ニ折リテ小指ニ至リ五マテヲ算ヘ、次ニ他方ノ手ノ拇指ヲ折リテ六ト爲シ、順次ニ折リテ小指ニ至リ之ヲ十トナス。又タ十ヲ單位トシテ表ハストキハ兩手ヲ開キ之ヲ一タビ翻回スルトキハ二個ノ十即チ二十ヲ意味スト云フ。而シテ東部々族ニテハ五ノコトヲ *Rima*ト云ヘルガ、コレハ前ニ掲ゲタル如クマレイ語系ニテハ五ト同時ニ手ヲ意味スル語ナリ。又タ西部々族ニテハ五ノコトヲ *malgal*ト云ヘルガ、コハ持ツト云ヘル義ヲ兼ネ有シ、畢竟何レモ、指數法ニ起源セル言語ト云フベキナリ。其ノ他ツアリセン族、パイワン族及ビブエマ族等ニテハ五ノコトヲ凡テ *rima*ト云ヘルガ、コハ同時ニ手ヲ意味スル語ナリト云フ。又タツォオ族ニテハ手ヲ意味スル語ヲ *rimo-tsu* 又ハ *nu-tsu*ト云ヒ、而シテ *rimo-tsu*ハ五ヲ意味スル *rimo-tsu*ノ添加サレタルモノ

ニテ言ハ恐ラク一ナ意味スル *tsunne* ト云ヘル語ノ略ナルベク *mu-tsu* ハ云フマデモナク *rino* 言ノ略ナルベシトノコトナリ。

(一六) 英語ニテ五ノコトヲ *five* ト云ヘルガ、コハ希臘語ノ *pie* ニ起源シ、而シテ此ノ希臘語ハ又々波斯語ノ *penji* ニ起源シ、而シテ波斯語ノ *penji* ハ元ト手ヲ意味シ、現ニ今日ノ波斯語ニテ手ノコトハ *pentcha* ト云フト云フ (*Tubbook*, p. 447)

(一七) 猶ホ漢字ノ拾ト云フ字モ手ヲ合スト云フ意味ヨリ出上リタルモノナルベシト思ハル。

(二)

以上ノ論證ニ依リテ明カナルガ如ク、抽象能力ト計算能力トハ文明ノ稍々進歩シタル後始メテ充分ナル發達ヲ爲シ得ルモノナルガ故ニ、吾輩ハ此ノ事實ヨリ推シテ、第一期ニ於ケル人類モ亦等シク是等ノ能力ヲ缺如セシモノト見ルナリ。蓋シ一言以テ之ヲ蔽ヘバ、彼等ノ精神的生活ハ殆ド禽獸ト選ブ所ナカリシナラン。故ニ彼等ノ物質的生活モ亦タ其ノ當然ノ結果トシテ、殆ド禽獸ト類ヲ等ウセシナラン。今マ吾輩ハ以下コノ點ニ就イテ説明セントス。

抽象能力ナキモノ、行爲ハ果シテ如何ナル特徴ヲ具フベキカ。曰ク第一ニハ合理的ナルコト能ハズ。蓋シ凡テノ理論ハ多數ノ現象ニ貫通セル通素ヲ捉フルコトニ依リテ生ズルモノニテ、換言スレバ理論ハ抽象ノ結果ニ外ナラザルガ故ニ、抽象能力ヲ有セザル者ハ理論ヲ解スルノ能力ナキモノナリ。故ニ其ノモノ、行爲ハ決シテ理論ノ支配ヲ受クルコト能ハズ。即チ凡テ非合理的ナリ、非法則的ナリ、非主義的ナリ。又タ原因結果ノ關係ヲ理解シ、此ノ如キ原因アラバ必ズ如ノ如キ結果ヲ生ズルモノナリト云フコトヲ豫想シ得ルハ、等シク抽象能力アルモノニ非ズンバ能ハズ。故ニ抽象能力ナキモノ、行爲ハ一定ノ結果ヲ目的トシタルモノナルコト能ハズ。即チ其ノ行爲ハ凡テ無目的ノ行爲ナリ、無計畫ノ行爲ナリ、無思慮ノ行爲ナリ。既ニ目的ナク計畫ナク思慮ナキ行爲ナルガ故ニ、凡テノ行爲ハ其ノ時々ニ於ケル單一ナル慾望ノ刺激ニ依ツテ生ズルニ過ギズ。故ニ慾望ト行爲トノ關係ハ、直接的ナリ、現在のナリ。故ニ又タ其ノ行爲ノ性質ハ、本能的ナリ、發作的ナリ。要スルニ、第一期ニ於ケル人類ハ抽象能力ヲ缺クガ故ニ、其ノ行爲ハ非合理的ナリ、非法則的ナリ、非主義的ナリ、無目的、無計畫、無思慮ナリ、直接的、現在の、發作的ナリ。次ギニ彼等ガ計算能力ヲ缺如スト云フコトヨリ演釋スルモ、亦タ殆ド同一ノ結果ヲ生ズベキナリ。蓋シ計算ノ能力ナキモノハ、利害得失ヲ比較スルコト能ハズ、大小

優劣ヲ秤量スルコト能ハズ、難易輕重ヲ辨別スルコト能ハズ。故ニ彼等ハ種々ノ場合ヲ想像シテ一定ノ行爲ニ出ヅルヲ利益ナリト判斷シ、必ズ此ノ如キ行爲ニ出デザルベカラズト云フ意思ノ支配ヲ受ケテ、然後或ハ進ミ或ハ退クト云フニ非ズ。只ダ其ノ時々ノ慾望ニ刺激セラレテ、發作的本能的ニ其ノ手足ヲ動カスノミ。故ニ此ノ點ヨリ考フルモ、彼等ノ行爲ハ思慮ナク計畫ナク、秩序ナク規則ナク、本能的發作的ノモノタラザルヲ得ザルナリ。

今マ經濟行爲トハ經濟的慾望ノ満足ヲ目的トスル行爲ノ謂ニシテ、經濟トハ是等ノ經濟行爲ガ一定ノ秩序、一定ノ計畫ノ下ニ統一サレテ一ノ組織體ヲ爲スモノノ謂ナリ。故ニ經濟學上ヨリシテ第一期ニ於ケル人類ノ生活ヲ見ンカ、其ノ間、經濟ト云ヘル現象ナキハ勿論、其ノ經濟ヲ組織スベキ個々ノ經濟行爲ダモ亦タ之ヲ缺如スルモノナリ。既ニ經濟行爲ナシ、如何デカ其ノ一種タル生産行爲アルヲ得ン。是ノ故ニ、吾輩ハ經濟學上ノ立脚地ヨリシテ、此ノ第一期ヲ名ケテ『消費アツテ生産ナキ時代』ト云フナリ。乍併、讀者ヲシテ遺憾ナク首肯セシメンガ爲メニハ、以上ノ記述ハ尙ホ未ダ不充分ナルヲ免レザルベシ。請フ、筆ヲ進メテ更ニ其ノ真相ヲ明瞭ニスル

處アラン。

以上吾輩ハ、第一期ニ於ケル人類ノ精神的狀態ヨリ演釋シテ、當時ノ人類ガ殆ト經濟行爲ヲ解セザリシコトヲ一言シタリシガ、以下更ニ現存セル蠻人ノ生活狀態ヲ引用シテ、歸納的ニ之ガ論證ヲ試ミン。現存セル蠻人ニシテ今日猶ホ經濟行爲ヲ解セザルモノ少カラズ。蓋シ經濟行爲トハ前ニ一言セル如ク、經濟的慾望ノ満足ヲ目的トスルノ行爲ニシテ、即チ所謂目的行爲ナルモノ、一種タリシカルニ現存セル蠻人ハ既ニ抽象能力乃至計算能力ヲ有スル能ハズ、從ツテ又タ一切ノ目的行爲ヲ營ミ得ザルモノナルガ故ニ、彼等ガ經濟行爲ノ何物タルヲ解シ得ザルハ、既ニ之ニ依リテ明カナリト雖モ、今マ更ニ遡リテ之ヲ論セバ、元來彼等ハ經濟的慾望ソノモノヲモ有シ能ハザルナリ。茲ニ所謂經濟的慾望トハ、普通英國ノ學者ガ富ニ對スル慾望ト云ヘルニ略ボ該當シ、吾輩ハ之ヲ定義シテ財物ヲ獲得セントスルノ慾望ト云フ。既ニ財物ヲ獲得セントスルノ慾望ト云フ、故ニ財物ヲ消費セントスルノ慾望ト混同スベカラズ。蓋シ財物ヲ獲得セントスルノ慾望ハ、之ヲ消費セントスルノ慾望ヨリ發生シタル場合多カランモ、而カモ幼稚ナル人類ハ、只タ之ヲ消費セントス

ルノ慾望ヲ有スルニ止マリ、他日之ヲ消費センガ爲メニ今日豫メ之ヲ獲得シ置カント云フガ如キ慾望ハ之ヲ惹起スルコト能ハズ。換言スレバ、彼等ハ現在ニ向ツテ能ク消費的慾望ヲ發シ得ト雖モ、將來ノ爲メニ經濟的慾望ヲ發シ得ザルナリ。故ニ彼等ハ、現在ノ慾望ヲ制御スル所ノ他ノ慾望ヲ有セズ。彼等ノ行動ハ、其ノ時々ノ慾望ニ依リテノミ支配セララルノミ。一ノ行動ガ數多ノ慾望ニ依リテ同時ニ支配セラル、コト有リ能ハザルナリ。換言セバ、彼等ノ慾望ト行動トノ關係ハ、直接的ニシテ且ツ現在のナリ。而シテ是レ實ニ、彼等ノ生活ガ著シク現在のテフ色彩ヲ帶ブル所以ニシテ、翻シテ云ハ、畢竟其ノ現在の生活ニ甘ンジツ、アルハ、又々其ノ經濟的慾望ヲ有セザル所以ニ外ナラザルナリ。今マ此ノ意味ヲ以テ蠻人ノ生活ノ如何ニ現在のナルカラ見ヨ。シエーフェルハ曰ク『原始的人類ハ只ダ現在ニ生活スルノミ』ト。(註一)ブユッヘルハ曰ク彼等ハ『只ダ現在ニ就イテ思考スルノミ』ト。(註二)スペンサーハ曰ク『蠻人社會ニ在ツテハ、慾望アラバ直チニ其ノ充足起ル』ト。(註三)簡單ニ批評シ去ラバ、則チ此ノ兩三句ニ盡クト雖モ、今マ姑ク其ノ實例ヲ列舉シテ委細ニ點檢スル所アラン。

(註一) Schaefer, Die Zeit als Wirtschaftselement. (Zeitschrift für Sozialwissenschaft, IX.) S. 747.

(註二) Bücher, Entstehung der Volkswirtschaft, 6 Aufl. S. 14.

(註三) Spencer, vol. I., p. 72.

幼稚ナル人類ハ實ニ現在ノ一瞬時アルヲ知ルノミ。故ニ彼等ノ生活ニハ過去ナク又々將來ナシ。從ツテ過去ノ經驗ノ結果タル智識モ、過去ノ勞働ノ產物タル財産モ、共ニ之ヲ缺如スルト同時ニ、將來ノ運命ニ對スル豫想モ、將來ノ消費ニ備フル貯蓄モ、亦タ共ニ之ヲ缺如ス。例ヘバアフリカ中部ノ蠻人ニ關スル記事ノ一節ニ曰ク『彼等ホド太平無事ノ人間ハ復タト見ルベカラズ、彼等ハ嘗テ過去ヲ回想シテ悔ムコトナク、又々嘗テ將來ヲ豫想シテ憂フルコトナシ』ト。(註一)又タ曰ク『將來ト云フコトハ彼等ニトツテ全ク用ナキ事ナリ。彼等ハ毫モ將來ニ就イテ考フルコトナシ。彼等モシ年老イテ自ラ働ク能ハザルニ至ラバ、救助ナク餘財ナク、飢餓ト慘苦ノ裡ニ往生スルノミ』ト。(註二)蓋シアフリカノ地タル、草木自然ニ繁茂シ、菓實自然ニ成熟スル天成ノ樂園タリト雖モ、シカモ彼等蠻民ハ此ノ如ク『剩餘ニ在ツテ餓ユルヲ免レザルナリ、更ニアフリカ南部ノ蠻人ブッシュマン族ニ關スル記事ニ曰ク『彼等ハ殆ンド全

ク先見ノ明ヲ缺クノミナラズ、又々自制ノ力アルコトナシ。凡テノ感情、凡テノ慾望ニ對シ、彼等ハ直チニ之ニ從フヲ知ルノミニテ、其ノ結果如何ハ彼等ノ毫モ顧慮スル所ニ非ラズ。彼等ハ小兒ノ如ク只ダ現在ニ向ツテ生活スルノミ』ト。(註三) 又タ曰ク『彼等ノ無智ナル實ニ驚クベキモノアリ。彼等海上ニ於イテ颶風ニ遭ヒ沈没ノ恐アルニ至ルヤ、妻子ヲ水中ニ放擲シテ顧ミザルノ狀、宛ラ弊履ヲ棄ツルガ如シ。彼等ハ神ト云フ觀念ヲ有セザルコトナレバ、彼等ガ此ノ如ク妻子ヲ棄ツルハ、所謂獻神ノ犠牲ニ出ヅルニ非ラズシテ、全ク一時ノ沈没ヲ防ガンガ爲メナリ。彼等ノ行爲ガ發作的本能的タルコト此ノ如シ。現ニラビサトーハ最モ深キ注意ト同情トヲ持ツテ彼等ノ生活ヲ觀察シタル人ナルガ、其ノ結果、彼等ハ毫モ記憶力ヲ有セズ、彼等ノ智識ハ動物ノ本能的智識ト相似タリト決論シタリ』ト。(註四) 同ジクアフリカノ蠻人ピグミー族ニ關スル記事ニ曰ク『彼等ハ更ニ貯蓄物ヲ有セズ。祖先ヨリ傳フル所ノモノ無ク、又タ子孫ニ遺スベキモノモ無シ。一日ノ必要ハ一日ノ勞働ニ依ツテ支ヘラル』ト。(註五) バートンハアフリカ東部ノ蠻人ニ就イテ記載スラク『彼等ハ其ノ觀察セシ所ヨリシテ何等利益アル結論ヲ作ルコト能ハズ。彼等ノ精神作用ハ、感覺ノ範

圍ニ出ヅル能ハズ、又タ現在ノ事物外ニ出ヅル能ハズ』ト。(註六) 又タ南米ノ諸蠻族ニ關スル記事ニ曰ク『長クトモ一日以上ニ對シテ食料ヲ處有スルガ如キハ、彼等本來ノ性質ニ反ス』ト。(註七) ベーツハ同ジクブラジルノインド人ニ就イテ觀察シテ曰ク『余ノ信ズル所ニ據レバ、彼等ハ其ノ日常ノ物質的缺乏ニ直接關係アルコトノ外ハ全ク考フル所ナシ』ト。(註八) 幼稚ナル人類ガ如何ニ現在ノ外ニ出ヅル能ハザルカハ、以上ノ諸例ニヨリテ明カナラン。

(註一) (註一) Dowd, vol. I, p. 376.

(註二) (註二) *Ibid.*, vol. I, p. 47.

(註三) (註三) Keane, *Ethnology*, p. 48.

(註四) (註四) Dowd, vol. I, p. 13.

(註五) (註五) Spencer, vol. I, pp. 79, 80.

(註六) (註六) Bücher, S. 18.

幼稚ナル人類ガ只ダ現在ノ一瞬時ニ生活スルモノナルコト以上述ブルガ如シ。故ニ彼等ハ、其ノ當然ノ結果トシテ、極メテ懶惰ナリ。蓋シ安逸ヲ好ミ勞働ヲ嫌フハ人類ノ常態ナリ、故ニ彼等蠻人ノ如ク只ダ現在ノ慾望ニ從フアルヲ知ルモノハ、食慾

ノ不滿ヲ感セザル限リ、多クハ晏如トシテ惰眠ヲ貪ルヲ常トス。例ヘバメキシコノ土人ハ、二日ノ労働ニ依リテ一週日ノ食料ヲ得ナバ、他ノ五日ハ遊惰ニ耽リテ日ヲ送ルヲ常トナスト云ヘリ。(註一)先キニ述ベタルアフリカノ各蠻人モ亦タ全ク之ト同様ニテ『彼等若シ僅ニ二日間ノ食料ダニ得ルコトアラバ、彼等ハ乃チ小舎ノ中ニ蓆ヲ敷キ、煙草ヲ喫シツ、半バ睡眠ニ耽ツテ日ヲ暮スヲ常トス。』(註二)彼等ハ『極メテ必要ニシテ、而カモ一舉手一投足ノ勞ニ過ギザルコトト雖モ、愈々其ノ必要ニ迫マラル、迄ハ出來得ルダケ之ヲ猶豫セントスルモノ、如ク、即チ夜ニ入ラバ水ヲ酌ミ又ハ薪ヲ採ルノ必要アルハ明白ノナルニ拘ラズ、晝間ハ只ダ徒ニ怠惰ニ耽リ、日暮ル、モ猶ホ驚クコトナク、漸ク日没後又ハ夜ニ入りテ後、始メテ其ノ必要トスル水ヲ酌ミ又ハ薪ヲ取ル』ト云フ。(註三)又タゴールド、コーストノ黑人ハ『最モ必要ノコト起ラサレバ決シテ働クコトナシ』ト云ヒ、(註四)ナマクアイ族ハ『一舉手一投足ノ勞ヲ吝マザレバ、優ニ其ノ生活ヲ維持シ得ル土地ニ住ミ乍ラ、終日太陽ノ下ニテ曝曬ヲ爲シツ、殆ド働クコトナキガ故ニ、往々ニシテ飢餓ニ襲ハル、コトアリ。人アリテ労働ヲ勸ムレバ、吾等如何デカ地上ノ蟲ノ如ク營々タルヲ得ンヤト答フ』ト云

フ。(註五)彼等ノ懶惰ナルコト此ノ如クナレバ、縦ヒ彼等ニシテ食欲ノ刺激ノ爲メ已ムナク狩獵ニ出ヅルコトアルモ、若シ一匹ノ獸ヲ捕フルコトアランカ、彼等ハ則チ其ノ獸ノ倒レタル處ニ坐シテ直チニ之ヲ食ヒ、腹滿ツレバ其ノ處ニ眠リ、眠ヨリ覺ムレバ復タ之ヲ食ヒ、カクテ其ノ肉ヲ盡スニ非ザレハ其ノ處ヲ離レズ。例ヘバ先キニ述ベタルブッシュマン族ニ就イテフアリニノ實見シタル所ニ依レバ『嘗テ二人ノブッシュマンアリ、日没ノ時一匹ノ羚羊ヲ捕ヘタルニ、彼等ハ則チ其ノ處ニ坐シテ其ノ肉ヲ啖ヒ、翌夜既ニ月出デシ後、骨ノ外遂ニ何物ヲモ殘サザルニ至ツテ始メテ其ノ處ヲ去リシ』ト云フ。(註六)又タヒッピンノチグリト族ニ關スル記事ニ曰ク、『彼等若シ狩獵ニ出デ、鹿又ハ野猪ヲ殺スコトアランカ、彼等ハ其ノ獸ノ倒レタル處ニ止マリ、穴ヲ地中ニ掘リテ之ニ獸屍ヲ入レ、後火ヲ起コシ、各人各々其ノ好ム所ニ從ツテ其ノ肉ヲ割キ、火ニ炙リテ之ヲ食フ。食フテ腹滿ツレバ則チ其ノ處ニ眠リ、眠ヨリ覺ムレバ復タ同一事ヲ繰リ返ヘシ、カクテ遂ニ其ノ肉ヲ食ヒ盡シタル後、彼等ハ始メテ相携ヘテ復タ狩獵ニ赴ク』ト。(註七)

(註一) Gurewisch, Die Entwicklung der menschlichen Bedürfnisse und die sociale Gliederung der Gesellschaft, S.—Staats-

und socialwissenschaftliche Forschungen, XIX, Heft 4.

(註一) Dowd, vol. I, p. 377.

(註二) Bieher, S. 20.

(註四) (註五) Westermarck, The Origin and Development of the Moral Ideas, vol. II, p. 271.

(註六) Dowd, vol. I, p. 31.

(註七) Bücher, S. 10. (但シ第六版ニハ此ノ一節ノ記事ヲ削除シアリ)

以上ノ實例ニ依リテ明カナル如ク、幼稚ナル人類ハ現在ニ對スル消費的慾望ヲ有スルノミニテ、將來ニ對スル經濟的慾望ヲ有スルニ非ズ。凡テ彼等ノ行爲ハ其ノ時々ニ於ケル現在ノ慾望ヲ満足スル爲メニ起リ、將來或ル慾望ヲ満足センコトヲ目的トシテ起ルニ非ラズ。行爲ソノモノガ目的ニシテ、或ル目的ヲ達セン爲メノ手段タルニ非ラズ、行爲ソノモノガ直チニ慾望ノ満足ニシテ、行爲ソノモノニ依リテ満足セラル所ノ慾望以外ニ目的トスル所ノ慾望アルニ非ズ。是ノ故ニ、幼稚ナル人類ノ行爲ニハ充慾行爲アツテ經濟行爲アルコトナシ。消費アツテ生産ハ則チ無キナリ。讀者或ハ疑フテ曰ハン、彼等ガ或ハ狩獵ニ從ヒ或ハ漁撈ヲ營ム等ノ行爲ヲ爲スハ、是レ則チ彼等ガ所謂生産行爲ヲ解スル所以ニ非ズヤト。シカモ實ハ然ラザルナ

リ。一見スル時ハ其ノ外觀如何ニモ生産行爲ノ如クナレド、實ハ是レ消費行爲ノ一部タルニ過ギザルナリ。譬フレバ、吾等ガ飯櫃ヨリ飯ヲ茶碗ニ盛り、或ハ箸ニテ皿ニ盛ラレタル魚肉ヲ割キ之ヲ口ニ運ブガ如シ。此ノ如キ場合ニ一定ノ動作ヲ伴フハ疑ナケレド、其動作ハ消費行爲ノ一部トシテノ動作ニシテ、消費行爲ヨリ獨立シタル一個ノ經濟行爲ヲ成スニハ非ズ。尤モ學者ニヨリテハ經濟行爲ヲ定義シテ、慾望満足ノ爲メニ財物ヲ獲得シ使用スルノ行爲ナリト云フモノアリ。而シテ此ノ如キ定義ニ從ハ、以上述べタル各種ノ行爲モ皆ナ經濟行爲ト云ハザルベカラザレドモ、シカモ此ノ如ク廣ク經濟行爲ヲ解スルハ、恐ラク精確ノ論ニ非ザルベキコト、吾輩ノ嘗テ論ジ置キタルガ如シ。(註二)吾輩ハ如何ニ考フルモ、魚肉ヲ皿ニ盛り、或ハ之ヲ箸ニテ割キ、或ハ之ヲ口ニ運ブ等ノ動作ヲ目シテ、是レ即チ經濟行爲ナリト爲ス能ハズ。否ナ假リニ之ヲ名ケテ經濟行爲ト云ハントナラバ、ソハ畢竟名稱ノ爭ニ過ギズト雖モ、少クトモ經濟學ノ研究物體タル經濟行爲ハ決シテ此ノ如キ種類ノ行爲ニ非ズト信ズルナリ。今マ幼稚ナル人類ノ狩獵漁撈ニ就イテ考フルニ、凡テ是等ノ行爲ハ、消費行爲ノ前提トシテ必要ナル一部の動作ト見ルベキモノニテ、消費行

爲ヨリ獨立シタル一個ノ生産行爲ト見ルベキモノニ非ザルナリ。語ヲ切ニセバ彼等ハ飢渴ヲ醫サントノ欲望ノ衝動ニ依ツテ行動スルノミニテ、食物ヲ得ントノ欲望ヲ動機トシテ行動セルニ非ルナリ。食フト云フコトニ對スル欲望ト食物ニ對スル欲望トハ、互ニ密接ナル關係ヲ有スルモノナレドモ、シカモ二者明瞭ニ區別スル所ナカルベカラズ。前ノ欲望ハ食物ノ消費ニ依ツテ満足サルト雖モ、後ノ欲望ハ只ダ食物ノ獲得アラバ直チニ満足セラル、之ヲ消費スルトセザルトハ敢テ關涉スル所ニ非ザルナリ。而シテ彼等蠻人ハ、只ダ飢渴ヲ醫サントノ欲望ヲ有スルノミニテ食物ヲ得ントノ欲望ヲ有スルニ非ラズ。故ニ、縦ヒ彼等ガ或ハ狩獵ニ從事シ或ハ漁撈ニ從事スルコトアルモ、吾輩ハ之ヲ以テ彼等ガ經濟行爲ヲ營メルモノト爲サズ。其ノ外形ハ如何ニモ生産行爲ト云フヲ適當トスルガ如キモ、委細ニ其ノ行爲者ノ欲望ヲ吟味スル時ハ、實ハ生産行爲ニ非ズシテ消費行爲ノ一部タルニ過ギザルナリ。

(註一) 拙著『經濟學原論』上卷參照。因ニ曰フ、右ノ拙著ハ數年前ノ執筆ニ拘リ、訂正ヲ要スル所少カラズ。例ヘバ欲望ヲ以テ或ル目的ヲ達セントスルノ意思ナリト爲セシハ即チ其ノ一ナリ。思フニ凡

テ經濟行爲ハ意思ノ働キニ依ツテ生ズト雖モ、欲望ソノモノハ意思ト同一視スベキモノニ非ザルガ故ニ、宜シク訂正セザルベカラザル點ナリ。乍併、經濟學ノ研究物體タル欲望ハ、其ノ中ノ一種タル經濟的欲望ニ限ルト云フノ説ハ、今猶ホ其ノ誤レル所以ヲ見ズ、寧ロ益々其ノ所信ヲ確カニスルノミ。

(註二) セームス、ミル曰ク『吾等ハ、或ル種ノ食物又ハ藥材ニ對シテ嫌忘チ起スト云ヒ、水又ハ火ニ向ツテ欲望ヲ發スト云フガ如キコトヲ云フ。乍併、委細ニ吟味スル時ハ、是等ノ言葉タル元ト形容的ニ使用サレタルモノナレバ、決シテ文字通りニ解釋スベカラザルモノナリ。即チ嫌惡又ハ欲望等ノ語ハ、苦痛及快樂ノ原因ヲ指セルノミ、適當ナル語ニテ之ヲ換言セバ、吾等ガ嫌惡スル所ノモノハ、食物又ハ藥材ニ非ズシテ、其ノ不味ニ外ナラズ。……之ト等シク、吾等ノ欲望ヲ起スハ、水ニ對シテニ非ズシテ、飲ムト云フコトノ快樂ニ對シテナリ、火ニ對シテニ非ズシテ、温マルト云フコトノ快樂ニ對シテナリ。』ト (James Mill, Analysis of the Phenomena of the Human Mind, 1869, vol. II, p. 192) ミルノ説ハ誠ニ卓見タルヲ失ハズト雖モ、猶ホ百尺竿頭ニ一步ヲ進メザルベカラズ。即チ事ノ真相ハ、吾等ハ食フコトノ快樂、飲ムコトノ快樂ニ對シテ欲望ヲ有スルト同時ニ、食物及ビ水ニ向ツテ又他種ノ欲望ヲ有スルナリ。後者ハ經濟的欲望ニシテ、前者ハ經濟的欲望以外ノモノナリ。而シテ幼稚ナル人類ハ、只ダ食フコト又ハ飲ムコトノ快樂ニ對シテ欲望ヲ有スルノミニテ、未ダ食物又ハ水ニ對シテ欲望ヲ有シ能ハザルコト、吾輩ガ本文中ニ述アル所ノ如シ。

思フニ蠻人社會ニ在ツテハ、嘗ニ狩獵漁撈ノミナラズ、其ノ他一切ノ行爲ハ凡テ之レヲ充慾行爲ト云フベキナリ。今マ一例ヲ彼等蠻人ノ舞踊ニ取ツテ説明センニ、抑

々凡テノ蠻人ガ想像スベカラザル程懶惰ニ耽リテ活動ヲ嫌フコトハ、吾輩ノ既ニ述ベタル所ナルガ、今マ是等ノ蠻人ガ、舞踊ニ際シテハ、其ノ極端ナル懶惰ノ性情ト如何ニモ兩立シ難ク思ハル、程ノ熱心ナル活動ヲ演ジ出スコトアルハ、一見不可思議ノ現象ト云ハザル可カラズ。例ヘバ前ニ掲ゲタルブッシュマン族ニ關スル記事ニ曰ク『彼等ノ間ニ於イテハ舞踊ハ其ノ小舎ノ中又ハ外ニ於イテ、殆ド毎夜舉行セラル。小舎若シ大ナラバ觀客ハ皆ナ小舎ノ中ニ入りテ圓形ヲ作り、入口ニハ炎々タル篝火ヲ燃キテ夜ヲ輝サシム。小舎ノ屋根ハ甚ダ低キヲ常トスルガ故ニ、舞踊者ハ身體ヲ曲ゲ杖ニテ之ヲ支フ。彼等ハ脚蹠ニ鳴物ヲ附ケテ盛ニ舞踊シ、遂ニ氣絶スルニ至ツテ已ム。月夜ニハ屋外ニ出デ、圓形ヲ成シテ盛ニ舞踊シ、遂ニ疲レ果テ、後已ム。舞踊終リシ時ハ、何レモ滿身ニ發汗シ、甚キハ疲勞ノ極地上ニ打チ倒レ鼻孔ヨリ出血スルモノスラ有リ』ト。註ニ蓋シ舞踊ハ各地ノ蠻人間ニ通有セルノ習俗ニシテ、アフリカノ如キ熱帶地方ニ在ツテハ之ガ爲メ徹夜スルヲ常トスト云フ。註ニ一舉手一投足ノ勞ト雖モ之ヲ惜ミ、縦ヒ餓死スルモ猶ホ勞働ヲ欲セザル彼等蠻人ガ、獨リ舞踊ニ際シテハ、氣絶シテ鼻孔ヨリ出血スルニ至ルマデノ活動ヲ演シツ

、アルハ、實ニ不可思議ノ現象ト云ハザルベカラズ。乍併、舞踊ト云ヘル行爲ハ、行爲ソレ自身ガ慾望ヲ満足スルノ性質ヲ有スルモノニシテ、即チ娛樂的慾望ノ爲メニ起レル一種ノ充慾行爲タルコトヲ一考スル時ハ、此ノ不可思議ノ現象モ直ニ之ヲ解釋シ得ベキナリ。即チ彼等ガ舞踊ニ熱心セルハ、恰モ食事ニ熱心シ、睡眠ニ熱心シ、遊惰ニ熱心セルト毫モ異ル所ナク、要スルニ彼等ハ只ダ現在ノ慾望満足ノ外更ニ顧念スル所ナキモノタルナリ。

(註一) Dowd, vol. I, p. 42.

(註二) *Ibid.*, pp. 16, 57, 331, 340, 348.

既ニ吾輩ハ蠻人ノ舞踊ニ熱心ナル所以ヲ説明シテ、是レ慾望充足ノ行爲ナレバナリト爲シタリキ。而シテ先キニハ又、彼等ガ或ハ狩獵ニ從事シ或ハ漁撈ニ從事スル等ノ行爲ヲ解シテ、是レ經濟行爲ニ非ズ、等シク亦タ充慾行爲ト看做スベキモノナリト論ジタリキ。是ニ於テカ鋭敏ナル讀者ハ、必ズ疑ヲ起シテ問ハン。舞踊モ充慾行爲ニシテ、狩獵モ亦タ等シク充慾行爲ナラバ、何ガ故ニ彼等蠻人ハ獨リ舞踊ニノミ熱心ニシテ、何ガ故ニ彼等ハ舞踊ニ於ケルト同一ノ熱心ヲ以チ其ノ食料ノ採取ニ

従事スル所ナキカト。既ニ此ノ如キ疑問起ラバ、吾輩ハ始メテ、先キニ狩獵漁撈等ノ行爲ヲ以テ、消費行爲ノ前提トシテ必要ナル其ノ一部分的行爲トナシ、別ニ獨立セル經濟行爲トスベキニ非ズト説明セシ點ヲ、更ニ明瞭ニスル機會ヲ得タル也。(註一)

(註一) 是等蠻人ト雖モ既ニ一旦狩獵漁撈等ニ従事スルニ至ラバ、之ニ従事シツ、アル間ハ、決シテ不熱心ナルニ非ラズ。例ヘバ、カノブツシユマン族ノ如キモ、ニテモ『彼等ガ狩獵ニ従事シツ、アル間ハ非常ノ忍耐力ヲ示シ、獲物ヲ得ルマテハ飢モ渴モ一切之ヲ顧ミズ』(Dowd, vol. I, p. 46.) 又々濠洲ノ蠻人ノ如キモ『彼等ガ狩獵、漁撈ニ従事セル際ハ非常ナル活動ヲナス』(Wesermarck, The Origin, etc., vol. II, p. 360.) 乍併、彼等ハ愈々其ノ必要ニ迫マラザレバ決シテ狩獵漁撈等ニ従事セザルガ故ニ、其ノ意味ニ於イテ、彼等ハ狩獵漁撈等ニ對シテ不熱心ナリト云フナリ。

蓋シ吾輩ハ、人類ノ歴史ノ第一期ヲ以テ、生産行爲アツテ消費行爲ナク、充慾行爲アツテ經濟行爲ナキ時代ト爲シタリ。乍併語ヲ適切ニシテ云ハ、此ノ時代ニ於ケル特徴ハ、生産行爲ト消費行爲ト、經濟行爲ト充慾行爲ト、實ハ混沌トシテ未ダ分化スルニ至ラザリシニ在リ。蓋シ生産ト消費トノ距離ハ文明ノ進歩ニ伴ヒ、人ト處ト時トノ關係ニ於イテ、益々相遠サカルモノタリ。試ニ現時ノ社會ヲ見ヨ。殆ド凡テノ貨物ハ一旦生産者ノ手ヲ離レテ商人ノ手ニ渡リ、更ニ幾人カノ手ヲ經テ、始メテ消費

者ノ手ニ歸ス。即チ生産者ト消費者トノ間ニハ、管ニ多クノ人ガ介在スルノミナラズ、生産地ト消費地トハ遠ク相距タリ、貨物ノ消費ハ其ノ生産ノ完了後少カラザル時日ヲ經テ始メテ行ハル。人ト處ト時トノ關係ニ於イテ、生産ト消費ト相去ルコト實ニ遠キナリ。故ニ生産行爲ト消費行爲トハ明瞭ニ區別セラル、ノミナラズ、所謂生産經濟ト消費經濟トモ亦タ互ニ相分離シテ所謂企業ト家計トヲ成セリ。然ルニ遡リテ自足的家族經濟時代ニ入ラバ、生産體ト消費體ト相重リ、生産地ハ同時ニ消費地トナリ、而シテ多クノ貨物ハ生産後間モナク消費ノ用ニ供セラル。生産行爲ト消費行爲トハ多ク相分ルト雖モ、所謂生産經濟ト消費經濟トハ未ダ相分ル、ニ至ラズ。今マ更ニ遡リテ原始時代ニ入ランカ、人ノ關係ニ於イテモ、處ノ關係ニ於イテモ、將タ時ノ關係ニ於イテモ、生産ト消費トハ相重リテ分別スルコトヲ得ズ。例ヘバ山野ニ出デ、禽獸ヲ狩獵スルモノアリトセンカ、其ノ禽獸ヲ捕ヘタルモノ其レ自身ガ其ノ消費者ナルノミナラズ、其ノ禽獸ヲ捕ヘタル場處ガ又タ其ノ消費地タルコト、前ニ例示セシガ如シ。而シテ又タ、其ノ狩獵ト云ヘル行爲ハ、消費行爲ノ一部ト看做スベキモノナリト論ジタリシガ、實ハ未ダ獨立シテ生産行爲タルニ至ラザル

迄ノコトニテ、其ノ真相ヲ適切ニ説明セバ、禽獸ヲ狩獸スルノ行爲ト之ヲ消費スルノ行爲トガ合體シテ一ノ行爲ヲ成シ居リ、其ノ一體ノ行爲ハ生産ト消費ト相重リ相合シ、混沌トシテ二者未ダ分化スルニ至ラザル迄ノコトナリ。サレバ此ノ點ニ於イテ、狩獵ト舞踊トハ稍々其ノ性質ヲ異ニスルヲ免レザルナリ。即チ前者ハ生産行爲タルノ性質ヲ具有スベキ傾向割合ニ多ク、之ニ反シ後者ハ寧ロ充慾行爲タルノ性質ヲ具有スベキ傾向割合ニ多ク、即チ二者本來ノ性質ガ互ニ稍々異ル所アルナリ。固ヨリ狩獵ト雖モ他ノ行爲ニ比スレバ大ニ充慾行爲タルノ性質ヲ具有スルモノニシテ、現ニ今日ト雖モ猶ホ一ノ娛樂トシテ文明人ノ間ニ行ハレツ、アルノミナラズ、所謂狩獵民ガ久シク農耕民トナルヲ得ザル所以ハ、狩獵ソノモノ、愉快ナルニ反シ、農耕上ノ勞働ハ單調ニシテ娛樂少キニ因ルコトナレバ、初期ノ人類ガ狩獵ニ從事セシハ之ヲ以テ生産行爲ト爲セシモノト解スベキニ非ラズ。元來或ル行爲ガ生産行爲トナルヤ消費行爲トナルヤハ、行爲ソノモノニ固有セル性質ニ依リテ定ルニ非ラズシテ、行爲者ノ動機如何ニ依リテ定マルコトナリ。サレバ彼ノ舞踊ト雖モ、例ヘバ西洋ノ舞踏、吾國ノ盆踊ト云フガ如ク、今日依然充慾行爲タルノ性質

ヲ維持スル場合アリト雖モ、多クハ舞妓藝人輩ノ專業ニ歸シテ一ノ經濟行爲タルニ至リタリ。之ヲ要スルニ、初期ノ人類ハ消費行爲ヲ解セシノミニテ、生産行爲ヲ解セシニハ非ラズ。即チ狩獵モ舞踊モ彼等ニトリテハ共ニ消費行爲タリシニ過キズト雖モ、シカモ狩獵ト舞踊トハ行爲ソノモノノ本來ノ性質稍々異ル所アリテ、舞踊ハ其ノモノガ直チニ充慾行爲ナレドモ、狩獵ノ如キハ寧ロ充慾行爲ノ一部ヲ組成セシモノト謂ツテ不可ナカラン。是レ彼等蠻人ガ、舞踊ニ對シテハ極メテ熱心ナルニ拘ラズ、狩獵ニ對シテハ未ダ之ト同一ノ熱心ヲ發揮シ得ザル所以ニシテ、此ノ點ヨリ見レバ、人類ノ第一期ハ、吾輩既ニ之ニ名ケテ、生産アツテ消費ナキ時代ト爲シタレド、實ハ生産ト消費ト未ダ分化セザル時代ト謂フモ亦タ不可ナキナリ。斯ク云ヒテモ尚ホ非難ヲ免レザルナラバ、吾輩ハ此ノ時代ヲ稱シテ生産行爲アルモ未ダ經濟行爲タルノ性質ヲ具ヘザル時代ト云フニ止メン。

第三章 人類原始ノ生産状態 (下)

吾輩ハ本章ニ於イテ、彼ノ充慾行爲乃至消費行爲ガ進化發展シテ經濟行爲乃至生産行爲ヲ生ムニ至リシ原因ヲ述ベ、以テ吾輩ノ所謂經濟前史ノ第二期ニ於ケル生産状態ノ一斑ヲ説明セントス。

(一)

以上述ブルガ如ク、人類ノ歴史ノ第一期ハ生産ト消費ト未ダ分化セザルノ時代ナリ。而シテ生産ト消費ト分化スルニ至ラバ、歴史ハ既ニ經過シテ經濟前史ノ第二期ニ入ル。蓋シ社會ノ進歩ニ伴フテ、彼ノ充慾行爲乃至消費行爲ハ次第ニ進化發展シ、而シテ進化發展ノ結果、生産ト消費ト始メ混沌トシテ相分タザリシモノ次第ニ分化シ特化シ、遂ニ生産行爲ハ消費行爲ヨリ分離シテ獨立セル一種類ノ行爲トナリ、又タ經濟行爲モ充慾行爲ヨリ分離シテ獨立セル別種ノ行爲トナリ、カクテ人類ノ歴史ハ消費アツテ生産ナカリシ第一期ノ時代ヲ經過シ、始メテ消費ト生産ト並ヒ行ハル、第二期ノ時代ニ入ルナリ。以下吾輩ハ進ンテ此ノ時代ノ特徴ヲ説明セントス。

扱テ彼ノ充慾行爲乃至消費行爲ハ如何ナル原因ニ依ツテ進化發展スル所アリシヤ。是レ固ヨリ一概ニ論ジ去ルヲ得ザルベシト雖モ、吾輩ハ其ノ最も主要ナル原因トシテ人類ノ虚榮的慾望ヲ舉ゲントスルモノナリ。今マ人類ノ虚榮的慾望ハ分チテ二個ノ成素ト爲スヲ得ベシ。其ノ一ハ吾輩假リニ名ケテ之ヲ好別的慾望ト云フ。言フコ、ロハ其ノ同類ヨリ區別シテ最も顯著ナルモノタラシメ以テ衆人ノ尊敬、羨望乃至凝視ヲ一身ニ集中セシメントノ慾望ナリ。其ノ二ハ吾輩假リニ名ケテ模倣的慾望ト云フ。既ニ衆人ノ尊敬、羨望乃至凝視ヲ一身ニ集中セルモノアラバ、己レモ亦タ必ズ彼ガ如クナルヲ得ントテ之ニ模倣セントスルノ情ヲ發スルモノ即チ是レナリ。蓋シ彼ノ好別的慾望アルガ故ニ人類ハ常ニ何等カノ方面ニ於イテ其儕輩ヲ抜カンコトヲ希望シテ已マザルモノニテ、又タ此ノ希望アレバコソ人類社會ニハ常ニ多少ノ人爲的變種ヲ生ズル次第ナレドモ、若シ既ニ變種ヲ生ジ、而シテ其ノモノガ衆人ノ尊敬、羨望ヲ享ク中心トナルナラバ、人々ハ茲ニ其ノ模倣的慾望ニ刺激セラレ相率ヒテ其ノ變種ニ近ヅカント企テ、此ノ如クニシテ、人類社會ニハ絶ヘズ變種ヲ生ズルト同時ニ、其レ等ノ變種ハ亦タ絶ヘズ變種タルノ性質ヲ失ヒツ

ツアルナリ。而シテ吾輩ハ、彼ノ充慾行爲ノ發展モ亦タ之ト趣ヲ同ジウセシナラント信ズ。

思フニ『文明人ノ虚榮心モ大ナレド、未開人ノソレハ之ニモ増シテ更ニ大ナリ。』(註二)而シテ其ノ虚榮心ハ當然充慾行爲ニ向ツテ發揮セラレタリ。吾輩ハ今マ其ノ一例トシテ原始人類ノ化粧ニ就イテ述ベンニ、既ニ洪積紀ニ屬セル地層中ヨリ繪具ノ發掘セラレタルニ依リテ、先ヅ其ノ由來ノ如何ニ久シキモノナルカヲ知ルニ足ルベク、(註二)又タ衣服サヘ有セザル蠻人ガ、化粧裝飾ノ爲メニハ必ず相應ノ技術ヲ有セザルモノナキニ依リテ其ノ人心ヲ支配スルコトノ如何ニ甚シキモノアルカヲ知ルニ足ルベシ。(註三)以下吾輩ハ蠻人ノ現状ニ就イテ之ガ實例ヲ示サン。

(註一) Spencer, vol. I, p. 64.

(註二) 坪井博士、人類學講話、二一〇頁。ス、ンサー曰ク The red pigment and the sea shells pierced for suspension, found with other traces of men in the Dordogne caves, prove that in the remote past when the reindeer and the mammoth inhabited southern France, men drew to themselves admiring glances by colours and ornaments. (Spencer, vol. I, p. 64.)

(註三) Self-decoration occupies the savage chief even more than it does the fashionable lady among ourselves. The painting of the skin, about which so much trouble is taken before clothes are used, shows this. (Spencer, vol. I, p. 64.)

Der Mensch hat 'en Schmuck sich vor der Kleidung geschaffen, ja die Kleidung ist zum Teil nur ein entwickelter Schmuck. Wir haben Völker genug kennen gelernt, die bei ihrer Entdeckung keine Spur von Kleidung trugen, aber keines entbehrt irgend einer Art schon Schmuckes (Tippert, Kulturgeschichte in einzelnen Hauptstücken.—Gurewitsch, S. 54.)
Der wilde Mensch ertigt mit bewundernswerter Geduld Schmerzen aller Art, um sich nur schmücken zu können. (Peschel, Völkerkunde.—Gurewitsch, S. 54.)

吾輩ハ今マ其ノ一例ヲ示サンガ爲メ、既ニ屢々引用セシブッシュマン族ノ記事ヲ掲ゲン。『彼等ハ全身ニ脂ヲ塗り、粘土又ハ赭石ヲ以テ之ニ彩色シ、髮ニハ一種ノ紅粉ヲ糝ク、髻ニハ兔ノ尾、羽、金屬製ノ紐子、其ノ他光輝ヲ發スル物ヲ釣リ下グ。彼等ハ時トシテ、駝鳥ノ卵殼、羽毛、鳥ノ頭等ヲ以テ裝飾シタル皮紐ヲ頭ニ卷キ附クルコトアリ。婦人ニハ肩毛ヲ黑色ニ染メ、兩頬ヲ赤色ニ染メタルモアリ。而シテ彼等ノ多數ハ豹ノ齒ニテ裝飾シタル腕飾、脚蹠飾、頸飾等ヲ掛ケタリ。』(註二)此ノ如ク滿身飾ヲ施セル彼等ノ衣服ハ如何ニト云フニ、殆ド衣服ヲ有セズト云ヒテ不可ナカルベク、『男子ハ纔ニ小サナル三角形ノ皮革ヲ其ノ前垂トスルニ過ギズ。』(註二)サレバ彼ノリップパートガ、裝飾ハ衣服ニ先ツト云ヘリシ意モ、亦タ之ニ依リテ解スルヲ得ベキナリ。此ノ如ク衣服サヘ無キ者ガ化粧スルト云フハ、一見如何ニモ不思議ノ様ナレド、

化粧ト云フコトハ、種々ノ動物サへ猶ホ之ヲ解シツ、アル次第ナレバ。(註三)是レ恐
ラクハ吾等人類ガ其ノ祖先タル四足獸ヨリ遺傳シタル技能ナルベク、其ノ廣ク蠻
人ノ間ニ行ハル、モ敢テ怪シムニ足ラザルコトナリ。

(註一) (註二) Dowd, vol. I, p. 41.

(註三) 殆ド凡テノ鳥類ハ其ノ羽毛ヲ化粧スルヲ解セリ。猫屬ガ其ノ顔ヲ洗ヒ、其ノ毛ヲ美シクス
ルニ苦心スルハ、吾等ガ日常ノ觀察ニ依リテ熟知スル所ナリ。其ノ外、蛇ノ類ニテモ猶ホ多少ノ化
粧ヲ解スト云フ。

蠻人ノ化粧ニ熱心ナルコト此ノ如シ。而シテ彼等ガ之ニ熱心ナル所以ハ其ノ虚榮
心ニ出デタルヤ言ヲ待タザレドモ、今マ彼等ハ何故ニ其ノ虚榮心ヲ此ノ方面ニ馳
セタリシヤト云ハ、畢竟化粧ト云フコトハ行爲ソレ自身ガ充慾行爲ニシテ、彼等
ハ之ニ依ツテ其ノ心ヲ悦バシヨンスレ、毫モ其ノ心ヲ苦ムルヲ無キガ爲メナリ。而
シテ彼ノ繪畫ノ技術ガ廣ク蠻人間ニ發達シ居レルモ亦タ全ク同様ノ理由ニ本ク
モノトス。吾輩ハ因ヲ以テ又タブッシュマン族ノ記事ヲ引キ、懶惰極マレル彼等ガ如
何ニ好ンデ繪畫ヲ能クセルカヲ示シ置カン。曰ク『彼等ガ繪畫ヲ能クスルコト驚ク
ベキモノアリ。荒野ノ巖石又ハ巖窟ノ壁上ニハ、或ハ象、或ハ鹿、其ノ他水牛、羚羊、駝鳥、

鬣狗、猿、犬、牛、馬等無數ノ繪畫ヲ抽キアルヲ見ル』(註一)

(註一) Dowd, vol. I, p. 43. 猶ホ Lubbok, p. 38 以下及 Charnitch, S. 238 ナ参照ナリ。

思フニ先見ナク思慮ナク推理力ナク判断力ナキ幼稚ナル人類ノ慾望ガ多ク五官
ノ感覺ヨリ生ズル刺激ノ範圍外ニ出ヅル能ハザルハ言ヲ待タズ。故ニ飲食ノ慾望
及ビ生殖ノ慾望ニ次イデ、娛樂的慾望及ビ審美的慾望ガ第一期ノ人類ヲ支配スル
最大ノ慾望タルハ又タ自然ノ理ナリ。從フテ彼ノ舞踊、化粧、裝飾、繪畫等目ニ訴ヘ耳
ニ訴フル種類ノモノガ、早ク蠻人ノ間ニ發達シ來レルコト亦タ敢テ怪ムヲ要セズ。
而シテ更ニ是等ノ慾望ニ次イテ重キヲ爲スモノヲ虚榮的慾望ト爲ス。今マ此ノ虚
榮的慾望ノ本來ノ性質ヨリ考フルニ、其ノ發達ハ彼ノ社會的集合體ノ發達ト正ニ
相伴フモノタリシヤ疑ヒナシ。若シ夫レ社會的團體ノ發達ニ至ツテハ、吾輩之ヲ別
章ニ説ケルガ故ニ茲ニ之ヲ述ベズ。今ハ只ダ其ノ社會的集合體ノ發達ニ伴フテ彼
ノ虚榮的慾望モ亦タ次第ニ發達セシモノト思考セバ則チ足レリ。而シテ今マ其ノ
虚榮的慾望ガ如何ニ充慾行爲ノ發展進化ヲ刺激スルモノナルカハ、吾輩ガ以上ヲ
以テ既ニ述べ了ヘタルガ如シ。今マ略シテ之ヲ言ハ、社會的團體ノ發達ニ伴フテ

虚榮的慾望モ亦タ次第ニ發達シ、而シテ虚榮的慾望ノ發達ハ益々充慾行爲ノ發達ヲ助ケ、而シテ充慾行爲ノ發達ノ結果ハ、茲ニ其ノモノ、分化特化トナリ、遂ニ充慾行爲以外ニ經濟行爲ト云ヘル特種ノ人類行爲ヲ發生スルニ至レルナリ。一層語ヲ切ニシテ云ハ、虚榮的慾望ノ發達ニ伴フテ、遂ニハ其ノ虚榮的慾望ノ満足ヲ目的トセル經濟行爲アルニ至ルナリ。而シテ此ノ意味ニ於イテ、カノ虚榮的慾望ハ即チ經濟行爲ノ起因ト云フモ敢テ不可ナキナリ。

是ノ故ニブユッヘルハ曰ク『遊戯ハ勞働ヨリ古ク、藝術ハ實用的生産ヨリ古シ』ト。(註一)今マブユッヘルノ言ハ、明瞭ナレドモ包括スル所狭シ。(註二)稍々明瞭ヲ欠クト雖モ、若シ全般ノ特色ヲ蔽ハントナラバ、コノ一句ハ宜シク改メテ『消費行爲ハ生産行爲ヨリ古ク、充慾行爲ハ經濟行爲ヨリ古シ』ト云フベキナリ。若シ又々經濟學上ノ術語ヲ避ケントナラバ、『無目的行爲ハ常ニ目的行爲ニ先ツ』ト云ヒテ不可ナク、(註三)更ニ通俗ノ語ニテ換言セバ、或ハ『趣味ハ常ニ實益ニ先ツ』ト云フモ不可ナカルベシ、然ラバ怪ムナキナリ、古今ト東西ト上下トヲ問ハズ、人ノ最モ慾スル所ノ物ハ實ハ其ノ最モ不要ノモノタルコトヲ。(註四)

(註一) Bücher, S. 29.

(註二) 舞踊ノ如キ遊戯ガ勞働ニ非ザルハ勿論ナリ。コノ事ハ既ニ本文中ニ述ベタル所ニテ明カナリト思ヘド、念ノ爲メニ茲ニ二三ノ注意ヲ附記シ置カンニ、勞働トハ或ル目的ヲ達センガ爲メニ行ハル、所ノ肉體的及ビ精神的運動ノ謂ナリ。故ニ其ノ肉體的及ビ精神的運動ヲ要素トスル點ニ於イテ經濟行爲ト異レリ。了解シ易カラシメニ例ヲ擧ゲテ説明セバ、物ノ賣買ノ如キハ即チ一ノ經濟行爲ナレドモ勞働ニハ非ルザナリ。次ギニ經濟行爲ノ目的トスル所ハ、經濟的慾望ヲ満足セントスルニ在レドモ、勞働ニ在ツテハ其ノ目的トスル所必ズシモ經濟的慾望ノ満足ニアラザルナリ。例ヘバ眞理ノ發見ヲ唯一ノ目的トセル學者ノ勞働ハ、所謂勞働ナレドモ經濟行爲ニ非ザルガ如シ。乍併、二者共ニ或ル目的ヲ達セン爲メノ手段タル點ニ於イテハ相同シ。否ナ多クノ場合ニハ、經濟行爲ハ勞働ノ一種タルナリ。今マ例ヲ擧ゲテ、其ノ目的ヲ達セン爲メノ手段タリト云フコトヲ明カニセンニ、例ヘバ車夫ガ客ヲ乗セテ疾行スルガ如シ。其ノ疾行ト云フ運動ハ、運動場ニ於ケル遊戯ト異リ、運動ソノモノハ決シテ目的ニ非シテ賃錢ヲ得ルコトガ目的ナリ。此ノ如ク或ル目的ノ手段タル運動ヲ名ケテ勞働ト云フナリ。故ニ運動場ニ於ケル遊戯ニテモ、若シ健康ヲ増進スト云フガ如キ目的ヲ併セ有スルナラバ、幾分遊戯タル性質ノ外ニ勞働タル性質ヲ併セ有スルコトナル。而シテ若シ健康ノ増進ヲ以テ唯一ノ目的トセバ、遊戯ト云フコトハ變ジテ義務トナルモノニテ、即チソノ事自身ハ快樂トハナラズ、却テ勞働ノ特質タル苦痛ヲ帶アルニ至ルナリ。之ニ依リテ遊戯ト勞働トノ差明カナラン。サレバマーシャルハ遊戯ヲ解釋シテ By play we mean those activities, usually thought of as "spontaneous", which appear to have no objective reference and no function other than the

rising up of accumulated energy. (H. R. Marshall, Pain, Pleasure, and Aesthetics, p. 103.) ト云ヘリシハ「正當ナル解釋ト云フベク、又タテリングガ労働ヲ解釋シテ Die Arbeit findet nie in sich selbst, sondern stets nur in ihrem Zweck einen natürlichen Schwerpunkt. (Duhing, Kritische Grundlage der Volkswirtschaftslehre, S. 286.)」ト云ヘリシモ正當ナリ。同様ニシェーフェルガ nicht jede Tätigkeitsäusserung eines lebenden Wesens als Arbeit anzusprechen ist, wenn sie nämlich einem unmittelbaren oder allzu nahe liegenden Zwecke dient, wie das etwa bei dem sein Futter suchender Tiere der Fall ist (Schefer, Die Zeit als Wirtschaftselement. S. 748.—Zeitschrift für Sozialwissenschaft. IX.) ト云ヘリシハ正當ナレドモ、更ニ進ンデ als ein auf Vorrat gerichtetes Schaffen bezeichnen ト云ヘリシハ、經濟行為ノ特質ヲ説明スル爲メニハ最も緊要ノ着眼點ナレドモ、一般労働ノ特質トスルコト能ハザルナリ。扱テ聊カ筆ヲ餘岐ニ馳セタリシガ、要スルニ労働ハ或ル目的ヲ有シ、遊戯ハ其レ自身ガ目的ナリ。扱テテ本文ニ述ベタルガ如ク、無目的行為ハ目的行為ヨリ古キモノナレバ、遊戯ハ労働ヨリ古シト云フコト決シテ誤謬ニハ非ズ。乍併、遊戯ト云フトキハ範圍餘リニ狭クシテ、例ヘバ食事ノ類ヲ之ニ包含セズ。故ニ遊戯ハ労働ヨリ古シト云フヨリモ、消費行為又ハ充慾行為ハ生産行為又ハ經濟行為ヨリ古シト云フ方、包括スル所廣シト云フナリ。

(註三) マーシャルハ「藝術ト遊戯トハ其ノ性質ヲ異ニス、何トナレバ何レモ其ノ起源ハ人類ノ盲目的本能ニアレドモ、而カモ遊戯ニ至ツテハ飽クマデ其ノ行為自身ガ目的ナルニ反シ、藝術ニ在ツテハ社會上ノ地位ヲ高メント云フ虚榮心ノ満足ガ幾分其ノ目的トナリ居ル故、純然タル無目的ノ行為ニ非ズ、故ニ二者コノ點ニ於イテ區別スベシ。」ト論シタリ。(Marshall, p. 100.) 乍併、既ニ本文中ニ於イテ、充慾行為ト經濟行為トノ差ハ必ズシモ行為ソノモノ、固有ノ性質ニ依ツテ生ズルモ

ノニ非ズト論シタリシ道理及ビ前註ニ於イテ労働ト遊戯トノ區別ヲ論シタリシ道理ニ依リテモ明カナルガ如ク、無目的行為ト目的行為トモ其ノ固有ノ性質ニ依ツテ分ル、ニ非ズ。而シテ初期ノ藝術ハ、吾輩ガ本文ニ於イテ説キタルガ如ク全ク充慾行為タリ無目的行為タリシモノナレドモ、カノ虚榮的慾望ノ發達ニ伴フテ次第ニ其ノ充足ヲモ目的トスルニ至リシモノナルガ故ニ、次第々々ニ目的行為タルノ性質ヲ有スルモノアルニ至ルナリ。而シテ是レ即チ吾輩ガカノ虚榮的慾望ノ發達ヲ以テ經濟行為發生ノ主要原因トナス所以ナリ。

(註四) "Everywhere, whenever we come across man on the surface of the globe, we find at the same time that it is the superfluous which by instinct seems to him the most necessary." (Babelon, Les Origines de la Monnaie, p. 248.—Carliie, The Evolution of Modern Money, p. 239. ニ引ク所)

(II)

吾輩ハ以上ヲ以テ虚榮的慾望ハ先ヅ充慾行為ニ發スル事、是ノ故ニ虚榮的慾望ノ發達ハ充慾行為ノ發達ヲ助ケ、遂ニハ虚榮的慾望ノ満足ヲ目的トセル經濟行為ノ發生ヲ促スモノナル事等ヲ述ベタリ。今マ吾輩ハ更ニ此ノ一條ノ論理ヲ證明センガ爲メニ、茲ニ家禽飼養ノ起源ニ付キ一言附記セント欲ス。蓋シ彼ノ家禽ノ馴致ハ元ト充慾行為ノ一種トシテ發生セシニ止マリ、決シテ始メヨリ經濟行為タリシニハ非ザルナリ。先ヅ之ヲ蕃殖セシメテ其ノ肉ヲ食用ニ供ス

ル場合ニ就イテ論ゼンニ、最初狩獵ニ從事セル者ガ食料生産ノ爲メ直チニ牧畜ヲ營ムニ至リシモノトハ如何ニモ考フベカラズ。蓋シ狩獵トハ禽獸ヲ殺ス行爲ニシテ飼養トハ之ヲ育ツルノ行爲ナレバ、二者ノ間ニハ生命ヲ奪フト助クルトノ差異アリテ兩々全ク正反對ノ性質ヲ有ス。註二而シテ事物ノ進化ハ、既ニ屢々云フ如ク極メテ漸々徐々ニ發生スルモノナレバ、狩獵ト云フ行爲ガ直チニ其ノ正反對ノ性質ヲ有スル飼養ト云フ行爲ニ移リ變リタルモノトハ信ズベカラズ。殺シテ食フコトヨリ養ヒ育テ、食フコトニ移ルハ一見何ノ事モ無キ様ナレド、人智ノ啓發ハ決シテ爾ク容易ノモノニ非ラズ。若シ疑フモノアラバ、蒸汽機關ノ發明ニ就イテ之ヲ考ヘ見ヨ。カノソロモン、ド、コーズ、ハワット、ステーブンソンヲ去ル約二百年前ニ於イテ既ニ蒸氣ヲ動力ニ應用スルノ案ヲ發表シタレドモ、當時ノ人間ハ彼ヲ以テ不治ノ狂者ト爲シ終身癡狂院ニ閉ヂ込メタリシニ非ズヤ。蒸氣ノ地球上ニ發生スルコト恐ラク地球ノ創造ト同時ナルベキガ、而カモ實際ニ之ヲ動力トシテ利用スルニ至レルハ實ニ十八世紀ニ至ツテ始メテ起リタルノミナラズ、其レ以前ニ於イテ之ガ考案ハ幾度カ發表サレタレド、曾テ實地ニ採用サレタル事ナキヲ考フルナラ

バ、當初野生ノ動物ヲ狩獵シツ、アリシ人類ガ、俄ニ之ヲ家畜トシテ馴致飼養スルニ至リシトハ、如何ニモ考フ可ラザルコトニ非ズヤ。今マ假リニ野生ノ動物未ダ乏カラザル場合ナリト想像セヨ、人類ハ何ノ必要アツテ之ガ狩獵ヲ廢シテ勞多キ飼養ヲ爲スニ至ランヤ。若シ又タ野生ノ動物甚ダ乏キ場合ニ遭遇シタリト想像センカ、既ニ鳥獸ノ肉ニ飢ヘツ、アル人類ガ、折角其ノ捕獲シ得タル鳥獸ヲ直チニ消費スルコト無ク、却テ之ガ飼養繁殖ヲ企ツルノ餘裕ヲ有セシモノトハ、如何ニモ亦タ考フ可ラズ。畢竟人類ガ當初家畜ノ馴致ヲ企ツルニ至リシハ、之ガ繁殖ヲ企テ以テ將來ノ食用ニ供センヲ目的トセシニ非ズシテ、多クハ單ニ愛玩又ハ崇拜(註三)ノ爲メニ過ギザリシナリ。先ヅ幼稚ナル人類ガ如何ニ家畜ヲ愛玩スルヤヲ述ベンニ例ヘバ、『アフリカノ蠻人ハ其家畜ト共ニ遊ブヲ非常ナル娛樂ト爲スモノ、如ク之ニ向ツテ種々ノ裝飾ヲ施シ、又タ一々其ノ名前ヲ附シ、其ノ癖ヲ觀察シナドシテ悦ブ』ト云フ。註三又タ『ブラジル内地ニ於ケルインド族ノ村落ハ恰モ大動物園ノ觀ヲ呈シ、彼等ノ小舎ノ内外ニハ、鸚鵡アリ、猿アリ、獺アリ、鷺アリ、蜥蜴アリテ、互ニ匍匐シ、互ニ飛躍セリ。又タ彼等ハ鳥類ノ羽毛ニ對シ彩色ヲ施ス迄ノコトヲ爲セリ』註四

又タウンガタノバヒマ族ハ「家畜ヲ鐘愛シ慰藉スルコト恰モ兒女ニ對スルガ如ク、常ニ之ト語リテ樂ミ、若シ疾病ニ罹ルガ如キコトアラシカ大ニ之ヲ憂ヒ、其ノ死亡ニ際シテハ、慟哭ノ餘、時トシテハ自殺スル者スラアリ」ト云フ。註五デシカ族モ亦タ其ノ家畜ヲ愛スルコト妻子ニ優レリ。註六ク^キト州ニ於ケルインド族ノ婦人ハ其ノ鶏ヲ愛スルコト甚シク「外人ガ如何ニ多クノ報酬ヲ出スモ容易ニ之ヲ賣リ渡スコトナク、若シ已ムヲ得ズシテ之ヲ手離サザルベカラザル際ハ、他人ノ手ニカケズシテ自ラ之ヲ殺スヲ常トス。而シテ之ヲ殺スノ際ハ、涙ヲ流シテ其ノ死ヲ惜ムコト子ニ對スル如ク、遂ニ其ノ絶命スルヲ見ルヤ、始メテ眼ヲ拭フテ旅人ノ提供セシ代價ヲ受ケ取ル」。註七又タロッキ山ノ西部ニ住メル蠻人ハ「犬ヲ愛スルコト子ノ如ク、之ニ向ツテ恰モ言語ノ解スル者ノ如ク談話ス。若シ死スルトキハ、其ノ家族ト同様ニ之ヲ埋葬ス、且ツ恰モ其ノ近親ヲ失ヘルモノ、如ク愁傷シテ泣キ叫ブ」。註八北米ノインド人ガ犬ヲ愛スルモ亦タ此ノ如シ。註九濠洲ノ土人モ亦タ同様ニ犬ヲ愛シ、「若シ小狗ニシテ其ノ母ヲ失ハバ、婦人ハ其ノ小狗ヲ懷裡ニ抱キテ之ニ授乳ス」。註一〇ニュージールランドノマオリ族ハ最初特ニ犬ヲ鐘愛セシガ、後チ猫及ヒ豚

ノ輸入セラル、ニ至リ又タ是等ヲモ鍾愛スルニ至レリ。サレバ「其ノ婦人ハ、背ニ小兒ヲ負ヒ、懷ニハ羊仔、犬、豕等ヲ抱ケルヲ見ルコト常ナリ」。註一一蠻人ガ禽獸ヲ愛スルコト此ノ如シ。サレバ既ニ云フ如ク、其ノ家畜飼養ハ決シテ食料ヲ生産センガ爲メニ非ズ。現ニ其ノ證據ニハ、人類ガ初メテ馴致セシ動物ハ、鸚鵡、犬、猫等凡テ食用ノ家畜トシテ不適當ナル種類ノモノニ限レルノミナラズ。註一二同時ニ又タ其ノ家畜ノ肉ヲ食フガ如キハ習慣上殆ト是ナカリシモノトス。例ヘバヘロドータスノ記載スル所ニ據レバ、古代ノエヂプト人及ビ^キニア人ハ飢餓ニ際シ縱ヒ人肉ヲ食フコトアルモ、家畜タル牛ノ肉ハ決シテ之ヲ食ハザリシト云フ。註一三又タ既ニ述ベタルガ如ク、犬ハ凡テノ蠻人間ニ於イテ廣ク飼養セラレツ、アル動物ナレドモ、其ノ肉ヲ食フモノハ極メテ少ク、食人ノ習慣行ハル、處ニテモ決シテ之ヲ食用ニ供スルコトナシト云フ。註一四然ラバ彼等ハ全ク是等鳥獸ノ肉ヲ食ハザルノ習慣ヲ有スルモノナルヤト云フニ、決シテ然ルニハ非ラズ。例ヘバアフリカ南部ノベチアナ族ハ野生ノ猫ヲ食フニ拘ラズ、馴致サレタル猫ハ決シテ之ヲ食ハズ。註一五ブラジルノユルナ族ノ如キモ亦タ馴致サレタル家畜ノミ之ヲ食ハズ。註一六而シテ

印度、メニユー法典ニアリテハ、豕、雞等ノ家畜ニ限り其ノ肉ヲ食フヲ禁止シタリ。(註一七)此ノ如ク、同ジ種類ノ禽獸ニシテモ野生ノモノハ之ヲ食フニ拘ラズ、家畜トシテ飼養セシモノハ却テ之ヲ食ハザル習慣アルト同時ニ、或ハ他人ノ飼養セシモノナラバ家畜ニテモ之ヲ食ヒ、或ハ自己ノ飼養セシモノニテモ自然ニ老死セルカ又タハ偶然ノ災害ニ因ツテ變死セル場合ナラバ之ヲ食フガ如キ習慣ヲ有スルモノアリ。例ヘバモロッコノアラブ族ハ他人ノ猫ハ食フモ自ラ飼養セシモノハ決シテ食ハズ。(註一八)又タマレー半島ノ一部及ピアフリカノ東部ニ於ケル蠻人、例ヘバヂンカ族、バリ族、ホッテンントット族、ナマクアイ族ノ如キハ、皆ナ牛ヲ飼養スト雖モ決シテ之ヲ食用ニ供ゼズ、若シ其ノ肉ヲ食ハント欲セバ則チ他ヨリ得タルモノヲ屠殺シテ之ヲ食ヘリ。(註一九)但シヂンカ族ノ如キハ己レノ飼養シタルモノニテモ、老死變死シタルモノハ之ヲ食フト云フ。(註二〇)以上述べタル所ニ據リテ考フレバ、家畜飼養ノ初期ニ在リテハ、家畜ノ飼養ソノコトガ一ノ娛樂ニシテ、決シテ勞働ニハ非ザリシコト、換言スレバ單ニ充慾行爲タルノ性質ヲ有セシニ止マリ、決シテ經濟行爲タルノ性質ヲ有セルニ非ザリシコトヲ知ルニ足ルベシ。然リ、家畜飼養ハ初メ單ニ充慾行

爲タリシニ過ギズト雖モ、而カモ一タビ家畜ノ馴致ヲ企テシモノアランカ、其ノ事ハ大ニ衆人ノ羨望ヲ招キシニ相違ナク、從フテ人々ハ皆ナ其ノ虛榮心ニ驅ラレテ之ガ模倣ヲ企テ、斯クテ家畜ノ飼養ハ一時虛榮的慾望ノ目的物トナリシニ相違ナシ。此ノ如クニシテ、家畜ノ飼養ハ早ク既ニ虛榮的慾望ノ満足ヲ目的トスルノ經濟行爲トナリ、後ニハ又タ、家畜ノ飼養ニ依ツテ經驗ト觀察トヲ積ムニ從ヒ、動物ノ成育繁殖ニ關スル博物學上ノ智識モ亦タ次第ニ發達スルト同時ニ、家畜飼養ノ次第ニ普及スルニ從フテ、漸ク其ノ虛榮的慾望ノ目的物タル性質ヲ失ヒ、カクテ或ハ食用ノ爲メ、或ハ役用ノ爲メト云フガ如ク純然タル經濟的慾望ノ目的物トナリ、是ニ至ツテ家畜ノ飼養ハ始メテ純乎タル經濟行爲ノ性質ヲ具フルニ至リシモノトス。知ルベシ、虛榮的慾望ハ經濟的慾望ヲ生ムト共ニ、ソノ虛榮的慾望ハ次第ニ經濟化シ實用化スルモノナルコトヲ。此ノ如クニシテ凡テノ侈奢品ハ遂ニ日用品ト化スルノ時アルト共ニ、一切ノ日用品ハ其ノ起源ニ遡ルニ從フテ多クハ奢侈品タルノ性質ヲ具フルモノトス。扱テ以上ハ專ラ家畜ノ繁殖ヲ圖リ其ノ肉ヲ食用ニ供スル場合ニ就イテ述べタリシガ、家畜ノ飼養ハ猶ホ其ノ外、乳、卵、毛等ノ生産物ヲ得ルガ

爲メニ行ハレ、又タ之ヲ驅役ノ用ニ供スルガ爲メニ行ハル。乍併、『動物ノ乳ヲ採リテ人間ノ消費ニ供スルコトハ遙ニ後世ノコトニシテ、且ツ初メハ僅ニ一部ノ人間ニ行ハレタルニ過キズ。』(註二二)現ニ今日ト雖モ牛ヲ飼ヒツツ而カモ牛乳ヲ飲マザル蠻人ハ甚ダ多ク、或ハ之ヲ以テ排泄物トサヘ信ジ居ルモノアリ。(註二三)加フル搾乳ノ技術ハ人類ガ久シキ間養畜ニ従事スルコトニ依ツテ始メテ知得セシモノタルハ、現ニ養畜ニ従事シツツ毫モ搾乳ノ術ヲ知ラザルモノアルニ徴シテ明カナリ。(註二四)此ノ如キハ獨リ乳ニノミ限ルニ非ス、其ノ他ノ產物ニ於ケルモ亦タ全ク同様ナリ。(註二五)要スルニ乳、毛等ハ家畜飼養ノ結果トシテ生スル產物ナリ、從ツテ其ノ利用ハ家畜ノ馴致及ビ飼養ノ原因タルコト能ハザルナリ。(註二六)若シ夫レ家畜ヲ驅役ノ用ニ供スルニ至ツテハ、言フ迄モナク、之ヲ馴致シテ其ノ性情ヲ一變スルニ至リタル後ニ非ザレバ起リ得ザルコトニ屬ス。(註二七)家畜ノ馴致飼養ハ始メ充慾行爲トシテ起リ、後チ漸クニシテ經濟行爲タルニ至ルモノナルコト、以上述べル所ニ依ツテ明カナラン。

(註一) Der Jäger ist der Feind der Tiere, die er fängt, tötet und iest. Der Hirt muss der Freund der Tiere sein, die er hütet und

pfllegt. Jäger und Viehzüchter verhalten sich geradezu umgekehrt zu den Tieren, es ist also nicht so leicht, sich den Übergang von Jäger zum Hirten zu denken. (Gurewitsch, S. 41.)

(註二) 動物ノ愛玩ハ宗教心ノ作用ニ依リ一變シテ其ノ崇拜トナリタルニ非サルナキカト思ハル。ハーンハ家畜ノ起源ヲ宗教上ノ動機ニ歸シタリト云ヘルガ、今マ直接ニ其ノ著書ヲ繙キ得サルヲ遺憾トス。但シフキールカンドハ此ノ點ニ就キテハ未タ充分ノ證據アラズト云ヒ (Verkaundt, Die Entwicklung der menschlichen Bedürfnisse, S. 171.—Zeitschrift für Sozialwissenschaft, VI.) グレウキントツハ家畜馴致ノ動機ハ宗教上ノ原因ニアリトスルモ、其ノ牧畜トシテ營マル、ニ至リシ原因ハ社會的動機(虛榮心等)ニアリト論シタリ。(Gurewitsch, S. 62—64.)

(註三) Westermarck, The Origin, etc., vol. II, p. 494.

(註四) Bücher, S. 52.

(註五) (註六) Westermarck, vol. II, p. 331.

(註七) (註八) (註九) (註一〇) (註一一) Bild, p. 495 et seq.

(註一二) Gurewitsch, S. 39.

(註一三) Westermarck, vol. II, p. 330.

(註一四) Bücher, S. 52.

(註一五) (註一六) (註一七) (註一八) Westermarck, vol. II, p. 329 et seq.

(註一九) Bücher, S. 51.

(註二〇) Westermarck, vol. II, p. 330.

(註 11 一) Gurewich, S. 39.

(註 11 二) 今マ實例ヲ舉クレバ、インド中央ノ山間ニ住メル蠻人ハ決シテ牛乳ヲ飲マス、之レヲ目シテ排泄物ナリト爲セリ。昔ノカリブ族、アッシヤンチー族、ホルネホ、ジャワ、マレー半島ノ諸蠻人亦然リ。アフリカ南西部ニ住メルキムブング族ハ、大人カ牛乳ヲ飲ムナド云フコトハ到底解スヘカラサルコトニ思ヘリト云フ。(Westernark, vol. II, p. 325, Bitcher, S. 51.)

(註 11 三) Gurewich, S. 40.

(註 11 四) Gurewich, S. 40. Westernark, vol. II, pp. 329, 330, Bitcher, S. 51.

(註 11 五) (註 11 六) Gurewich, S. 51.

(三)

以上述ブルガ如キ經過ニ依ツテ、人類ハ次第ニ其ノ生活ノ爲メ勞働(生産行爲、經濟行爲)ヲ爲スノ必要ニ迫マラル。然ルニ勞働ハ遊戯(消費行爲、充慾行爲)ト異リ、其レ自身ハ決シテ快樂ノ業ニ非ズ、却テ苦痛ヲ伴フノ業タルガ故ニ、既ニ勞働ノ必要起ラバ、人ハ努メテ其ノ苦痛ヲ輕減セントスルノ工夫ヲ爲スニ至ル。勞働ノ苦痛ヲ輕減スルノ法ハ二アリ。其ノ一ハ勞働ヲ遊戯化スルコトニテ、即チ經濟行爲ヲ以テ出來得ル限リ充慾行爲タルノ性質ヲ兼ネ有セシムルニアリ。今マ其ノ一例トシテイノド北部ノ土人間ニ於ケル農業勞働ノ記事ヲ左ニ掲グ。

田植ノ際ニハ、彼等ハ必ず音樂ニ連レテ勞働ス。即チ樂隊先ヅ顯ハレナバ、次イデ一隊ノ少女ハ各々裾ヲ取り列ヲ爲シテ水田ニ脚ヲ没シ、音樂歌謠ニ連レテ苗ヲ脚下ノ水田ニ植ユ。コノ田植ハ猛夏ノ日中ニ行ハル、モノナレバ、困難ナル勞働ニハ相違ナキモ、音樂大鼓ノ響ニ魔セラレツ、彼等ハ愉快ゲニ其ノ勞働ニ從フナリ。歌謠ハ凡テ戀愛情事ニ關スルモノナルガ、少女等ハ其ノ了解シ得ル節々ニ出逢フ毎ニ、隣レルモノドモト高キ聲ニテ何カ滑稽ナルコトドモ言ヒ合ヒツ、如何ニモ面白ゲニ嬉々トシテ歌ヒドヨメク。而シテ傍觀者等モ亦タ、少女等ノ頬ヲ紅ムベキ様ナル露骨ノ滑稽ヲバ油斷ナク發シテ其ノ興ヲ助クルナリ。(註 11 二) 此ノ如キ風俗ハ吾國ニテモ嘗テ廣ク行ハレタルモノナラン。現ニ著者ハ幼年ノ頃祖母ニ連レラレテ郷里附近ノ村落ニ行キ、嘗テ斯ル田植ノ様ヲ見シコトアリ。老祖母健在スト雖モ今既ニ八十ヲ超ユ、偶々當時ヲ回想シテ感少カラザルナリ。

(註 11) Crooke, Native of Northern India, p. 169. 猶ホ此ノ點ニ就イテハフュッヘルハ其ノ著 Arbeit und Rhythmus

ニ論述セリト云フ。著者不幸ニシテ本書起草ノ際之ヲ參照スルヲ得ズ。

勞働ノ遊戯化ニ至ツテハ今マ姑ク舍ク。吾輩ハ次ギニ勞働ノ苦痛ヲ輕減スルノ第

二策トシテ、所謂經濟主義又ハ經濟上ノ原則ナルモノヲ舉ゲントス。所謂經濟主義トハ、最小ノ勞費ヲ以テ最大ノ効果ヲ得ントスルノ主義即チ是レ也。コノ經濟主義ナルモノハ、今日ノ社會ニ於イテ合理的行爲ノ全般ヲ支配スルガ故ニ、吾等ハ往々現在ヲ以テ過去ヲ推シ、太古原始ノ人類モ亦タ早クヨリシテ此ノ主義ヲ解シ居タルモノナリト爲スト雖モ、既ニ述ベタルガ如ク、幼稚ナル人類ハ小兒ノ如ク禽獸ノ如キガ故ニ、到底此ノ如キ主義ヲ解シ得タルモノニ非ラズ。ワグナーノ如キモ既ニ「プユッヘル」ノ指摘シタルガ如ク、『此ノ經濟的性質ハ、人類ノ生理的及ビ精神的組織ノ中ニ確ク根據スルモノニテ、少クトモ人類ノ歴史アツテ以來、外界ノ變化セザルガ如ク然ルモノナリ』ト論ジタレド、(註一)實ハ左ニ非ズ。人類ガ經濟主義ヲ解シワグナーノ所謂經濟的性質ヲ具有スルニ至レルハ、人文ノ稍々進歩シタル後ノコトナルノミナラズ、既ニ其ノ萌芽ヲ發生セシヨリ以來、今日ニ至ルマデ彼ノ經濟主義及ビ經濟的性質ハ絶エズ進歩シ發展シツ、アルナリ。而シテ今マ此ノ經濟主義ナルモノガ、經濟行爲ノ發生ト共ニ始メテ其ノ萌芽ヲ發生シ來リタルコトハ、吾人ノ最も注意ヲ要スル所タリ。思フニ經濟主義ハ、既ニ述ベタル如ク、今日吾等人類ノ合理

的行爲ノ全般ヲ覆フト雖モ、シカモ其ノ主義ニ冠スルニ特ニ經濟ノ二字ヲ以テスル所以ノモノハ、此ノ主義ガ經濟行爲ノ發生ト共ニ發生シ、經濟行爲ノ發展ト共ニ發展シ、最も重要ニシテ密接ナル關係ヲ常ニ經濟行爲ト保ツガ爲メナラン。

(註一) Wagner, Grundlegung d. polit. Oekonomie, 3 Aufl. I, S. 82. 拙譯ワグナー氏經濟學原論上卷、一一頁參照

猶ホ金井博士、社會經濟學、六版、一〇七頁ニモワグナート同シク經濟主義ヲ以テ人類ノ天性ヨリ生シタルモノトナスノ說アリ。小川法學士、經濟學通論、一〇頁ノ所說亦タ然リ。

既ニ經濟行爲アリ、而シテ經濟主義アリ。是ニ於イテカ、其ノ經濟行爲及ビ經濟主義ノ發展ニ伴フテ、始メテ經濟ナルモノ起ル。而シテ經濟トハ畢竟經濟主義テフ法則ノ下ニ多數ノ經濟行爲ガ統一セラレテ秩序アル一ノ組織體ヲ成セルモノ、謂ニ外ナラズ。思フニ此ノ如キ經濟行爲ノ組織體ノ發生ヲ見ルニ至リシハ、家族テフ最原最始ノ社會團體ガ次第ニ發展シテ遂ニ多數ノ家族ヲ結合シテ成レル家族以上ノ社會團體發生ノ後ノコトナラン。而シテ既ニ經濟ニシテ發生センカ、人類ノ歴史ハ所謂經濟前史ノ時代ヲ經過シテ茲ニ經濟本史ノ範域ニ入ル。若シ夫レ經濟本史ニ至ツテハ本論範圍ノ外ニ屬スルガ故ニ、生産行爲乃至經濟行爲ノ發展ノ經過ヲ説クコト、茲ヲ以テ則チ終リト爲ス。

第四章 人類原始ノ消費状態

吾輩ハ本章ニ於イテ、特ニ人肉食ノコトヲ論ジ、原始時代ノ人類ト雖モ、人肉ヲ以テ常食トナセシニ非ザルコトヲ論ゼントス。

(一)

今日ノ文明人ニアツテモ其ノ生産ノ半バハ食事ノ爲メニ行ハルト云ヘリ。註二然ルヲ況ンヤ衣服ノ慾未ダ起ラズ、住居ノ慾猶ホ起ラザリシ原始時代ニ於イテ(註二)人類ヲ支配スルノ慾望ガ殆ド食慾ニ限ラレシハ怪ムヲ要セズ。思フニ食慾ト情慾トハ人類最原始ノ二大慾望ニシテ、註三人類ハ是レアルガ爲メニ其ノ生命ヲ維持シ子孫ヲ繁殖シ以テ今日アルニ至リシナリ。是ノ故ニ今マ茲ニ論述セントスル原始時代ノ消費論ノ如キ、畢竟其ノ飲食論ニ外ナラザルヲ得ザル也。而カモ既ニ述べシ如ク、人類ノ歴史ノ第一期ハ消費アツテ生産ナキ時代ニシテ、而シテ其ノ時代ノ状態ハ前章ニ於イテ之ヲ生産ノ方面ヨリ既ニ論ズル所アリシガ故ニ、今マ多ク論ズベキモノヲ剩サズ。只ダ其ノ常食物ノ一種トシテ人肉アリシヤ否ヤハ、聊カ史上

ノ一疑問ナルガ故ニ、姑ク其ノ點ヲ論ジテ以テ前章ノ補遺ト爲サント欲ス。

(註一) "The greater part of the capital and energy of the civilized world is used in the production and distribution of some-thing to eat, and more than half of each day's production is consumed at breakfast, dinner and supper." Gide, Political Economy, p. 37.

(註二) "Gemeinsame Wirtschaft, Haushalt, Vermögen waren so gut wie nicht vorhanden, diese konnten erst entstehen, als der Kreis der Bedürfnisse über den blossen Nahrungsbedarf hinaus sich erweiterte. Das dauerte aber weit länger, als die meisten zugehen wollen." (Bücher, S. 18.)

(註三) "Only two motives can induce the Australian or the typical African to prolonged labour; hunger and the sex passion." (Barton, Basis of Social Relation, p. 136.)

原始時代ノ人類ハ、其ノ常食物トシテ人肉ヲ用ヒタリシヤ否ヤ。思フニ人肉ヲ食フノ事實ハ或ハ憎悪怨恨ノ爲メニ起リ、(註一)或ハ宗教心乃至迷信ノ爲メニ起リ、(註三)或ハ食料缺乏ノ爲メニ起リ、或ハ人肉嗜好ノ爲メニ起ルト雖モ、前二者ハ人肉ヲ以テ食物ト爲シタリト云フベキニ非ザルガ故ニ、茲ニ論述スルノ必要アルハ、食料缺乏ノ爲メニ起レルモノト、人肉嗜好ノ爲メニ起レルモノトノ二ツアルノミ。

(註一) 拙稿『食人論』(京都法學會雜誌三卷十二號所載第二項ヲ見ヨ。憎悪怨恨ノ爲メニ人肉ヲ食フハ、敵人ヲ殺戮シタル場合カ、又ハ罪人ヲ殺戮シタル場合カニ起ル。

(註二) 前掲拙稿第三項ヲ参照セヨ。宗教心又ハ迷信ノ爲メニ人肉ヲ食フコトハ、彼ノ人體犠牲ノ俗ニ伴フ場合最モ多シト雖モ、猶ホ其ノ外、(一)或ル者カ死後已レニ害ヲ爲スヲ豫防スル爲メ其ノ死者ノ肉ヲ食フコトアリ。(二)或ハ臺灣ノ土人カ生蕃ノ肉ヲ食スルトキハ向後其ノ害ヲ免ルヘシト信シテ之ヲ食フカ如ク、或ル種族ヨリ蒙ル害ヲ免レン爲メ其ノ種族ニ屬スルモノ、肉ヲ食フコトアリ。(三)或ハ死者敵人又ハ同胞ノ智勇ヲ相續シ得ヘシト信シテ其ノ肉ヲ食フコトアリ。(四)或ハ死者ノ生命ヲ相續シ得ヘシトシテ其ノ肉ヲ食フコトアリ。コノ場合ニハ多クハ小兒ノ肉ヲ撰フモノニテ、或ハ之ヲ老人ニ食ハシメ、或ハ弱キ兄ヲ助ケル爲メ弟ノ肉ヲ食ハシメ、或ハ強キ子ヲ得ンカ爲メ母ハ必ス其ノ第一子ヲ殺シテ食フ等ノ習慣アリ。(五)或ハ之ニヨリテ鬼神ト交通シ得ヘシト信シテ死者ノ肉ヲ食フコトアリ。(六)或ハ死者ノ靈魂ヲ已レカ身ニ呼ビ集メ得ヘシト信シテ其ノ肉ヲ食フコトアリ。(七)或ハ疾病ヲ治療スルノ効アリト信シテ死者ノ肉ヲ食フコトアリ。(八)或ハ呪咀ノ爲メニ之ヲ食フコトアリ、例ヘハ肉ヲ啖ヒ血ヲ啜リテ誓ヲ立ツルカ如シ。(九)或ハ死者ノ爲メニ幸福ナリト信シテ其ノ肉ヲ食フコトアリ。其ノ外猶ホ種々ノ場合アラシ。要スルニ、凡テ食料トシテ人肉ヲ用フルニ非サルノミナラス、凡テ宗教的迷信ハ文明ノ稍々進歩シタル後始メテ生スルモノニテ、記憶、推理、想像ニ關スル精神的作用ノ乏シキ原始時代ノ人類ニハ決シテ是レアリシニ非ス。故ニ原始人類カ食料トシテ人肉ヲ用ヒタリシヤ否ヤヲ論スルガ爲メニハ、是等ノ場合ハ今マ之ヲ考究スルノ要ナキモノトス。

原始時代ノ人類ガ食料缺乏ノ場合ニ人肉ヲ食料トシタルコトハ、殆ド疑フヲ須ヒズ。現ニ文明ノ稍々又ハ大ニ進ミタル社會ニ於イテモ、非常ナル飢餓ニ襲ハル、ト

キハ、往々ニシテ人、人ヲ食フノ變象ヲ呈スルコト、歴史上敢テ稀ナリト爲サズ。例ヘバ千三百十五年英國大飢饉ノ際ニハ、或ハ他人ノ子ヲ盜ミ、自己ノ子ヲ殺シテ食ヒタル場合アルモノ、如ク(註一)猶ホ近クハ『七人水夫食人事件』及ビ『ミグニオネット號食人事件』等アリ。(註二)又タ『メニユー法典』ニハ、人若シ飢饉ニ襲ハレ一物ノ食フベキナキニ至リテ其ノ子ヲ殺シテ食フコトアルモ、之ヲ罪トシテ罰セズ、ト規定シアルヨリ考フレバ、(註三)往昔印度人ハ飢饉ノ際人肉ヲ食ヒシコト敢テ稀ナラザリシナルベシ。而シテ吾國ニ於イテハ『日本書記』卷十九欽明紀中『二十八年郡國大水飢或人相食』トアリ、以テ其ノ一例トナスベク、近クハ天明年間ニ於ケル飢饉ノ記事ヲ見ルニ、人ノ人ヲ食ヒ親ノ子ヲ食ヒタルノ事實ヲ掲グルモノアリ。(註四)

(註一) カニンゲナム (Canningham, Growth of English Industry and Commerce, vol. I, p. 338) 引ク所ノ古記中千三百十五年英國飢饉ニ關スル記事ニ左ノ一節アリ。

“Horse flesh was counted great delicate; the poorer stole fatter Dogges to eat; some as it was compelled through famine, in hidde places, did eate the flesh of their owne Children, and some stole others which they devoured.” (Stow, Annals.)

(註三) 千六百四十年ノ頃、亞米利加クリストフロー島ノ近海ニ於イテ英船颶風ノ爲メニ難船シ漂流スルコト幾旬日、糧竭キテ復ターノ食フヘキ物ナキニ至リ、乗員七人相議シ、抽籤ヲ以テ其ノ中

ノ一人ヲ犠牲トシ、他ノ六人ハ其ノ肉ヲ食シテ纔ニ餓死ヲ免レタリ、之ヲ七人水夫食人事件トス。又タ千八百八十四年瀛船、ミグニチット、號亞弗利加喜望峰ヲ距ルコト千六百哩ノ海上ニ於イテ破船シ、船員四人端舟ニ上リ漂流幾ンド二旬日、餓死且夕ニ迫リタル時、船長ハ乗員ト謀リ其ノ中ノ一少年ヲ殺シ、其ノ肉ヲ食ヒテ辛クモ己等ノ生命ヲ維グコトヲ得タリ、之ヲ「ミグニチネット」號食人事件ト爲ス。(穗積博士、隱居論、四、五頁參照)

(註三) Sutherland, The Origin, etc., vol. I, p. 390.

(註四) 免園小説山崎美成著ニハ天明三年癸卯十一月十一日奥州三戸郡南部内藏頭領分八戸ナル惠比須屋善六ヨリ本店江戸田所町角非筒屋三郎兵衛ニ遣シ、書狀ナルモノヲ載ス。其ノ書狀ノ末尾ニ曰ク『死掛リ候人々ノ肉ヲ切ハナシ、格別ウマキ味ナルヨシ申候、言語同斷、カ、ル時節ニアヒ申候事、イカ成事ニ御座候哉ト奉存候』トアリ。同シク免園小説第十一集ノ附録トセル消夏自適ノ一節ニモ『奥州筋ニテハ鳥獸ヲ食シ、或ハ子ヲトラヘテ飢ヲシノゲリトイヘリ』ト記載セリ。

文明人ト雖モ飢餓ニ迫マラル、時ハ人、人ヲ食フヲ辭セザルコト、以上述ブルガ如シ。サレバ現存セル蠻人中、飢餓ニ迫マラル、毎ニ人ノ肉ヲ食フモノアル、敢テ怪ムニ足ルナシ。試ニ其ノ三四ノ例ヲ舉ゲンカ、濠洲北部及ビ西部ニ住メル蠻人ハ食料缺乏スル時ハ往々自己ノ兒ヲ殺シテ食フコトアリ。(註二)其ノ外、南洋諸島ノ蠻族、(註三)スーベリオ湖ノ北部ニ住メルインド族、(註三)加奈陀ノ主要ナル蠻族ノ一タルチ

ンネー族、(註四)ブラジルノ森林中ニ棲息セル裸體族、(註五)亞弗利加ノブッシュマン族、(註六)及ビフュージアン族、(註七)ノ如キ、凡テ皆ナ飢餓ニ襲ハル、時ハ則チ人肉ヲ食フト云ヘリ。

(註一) (註二) (註三) Westernarek, The Origin, etc., vol. II, p. 555.

(註四) Sutherland, vol. I, p. 372.

(註五) ベーツハ二種族ニ就イテ之カ實例ヲ掲ゲ、ワレース、ハ他ノ三種族ニ就イテ之カ實例ヲ舉ゲ

タリ。(Ibid, vol. I, p. 372.)

(註六) Dowd, The Negro Races, vol. I, p. 36.

(註七) フュージアン族ハ飢餓ニ迫マル、時ハ、同族中ノ老女ヲバ不意ニ背後ヨリ打チテ死ニ致シ、以テ其ノ肉ヲ食フト云ヘリ。(Ibid, vol. I, p. 371.)

此ノ如ク現存セル蠻人中ニモ現ニ人肉ヲ食フモノアリト雖モ、若シ食料ノ缺乏ト云フコトノ外ニ他ニ之ヲ助クルノ原因アラザル限リハ、全ク是レ已ムヲ得ズシテ起レルニ過ギザルナリ。現ニスカヒヴン族ノ如キモ食料缺乏ノ際ニハ其ノ妻子ヲ殺シテ食フト云ヘルガ、シカモ此ノ如キハ、ヨクヨクノ必要ニ迫マラレタル場合ニ限ルト云ヘリ。(註二)又タハドソン灣ノエスキモー族モ飢餓ノ際ニハ往々人肉ヲ食

ヒタルトアリト云ヘルガ、而カモソハ「犬ヲ食ヒ、獸皮ニテ作りタル衣服其ノ他ノモノヲ凡テ食ヒ盡クシタル後ノコトナリ」ト云ヘリ。註三今マ此ノ如キ必要已ムヲ得ザル場合ニ、餓死ノ運命ヲ免ル、唯一ノ手段トシテ、太古原始ノ人類ガ其ノ同胞ノ肉ヲ食ヒタリト云フコトハ、嘗ニ有リ得ベキコトタルノミナラズ、食料供給ノ安全ハ文明ノ進歩ニ伴フト云フモ差支ナカルベキヲ以テ、太古原始ノ人類ハ或ハ屢々人肉ヲ食フヲ餘儀ナクセラレタルヤモ知ルベカラズ。乍併、如何ニ太古原始ノ人類ト雖モ、人ヲ食フコトハ食料缺乏ノ爲メ已ムヲ得ザル場合ニ敢テセシニ止マリ、之ヲ以テ平常普通ノコトトセシニハ非ザルベシ。

(註一) (註二) Westermarck, vol. II, p. 525.

(三)

人肉ヲ食物トスル第二ノ場合ハ、食料ノ缺乏ヲ感ゼザルニ拘ラズ、特ニ人肉ニ對スル嗜好ヨリシテ之ヲ常食トスル場合ナリ。例ヘバ千二百年エヂプト大飢餓ノ際、貧民ガ已ムヲ得ズシテ死人ノ肉ヲ食ヒ或ハ己ガ子ヲ殺シテ食フニ至リシ時ノ如キ、始メノ中コソ人々恐ルベキ罪業ゾトテ驚キ悲ミタリシニ、此ノ已ムヲ得ザル爲メ

ニ起リシ事實ハ、其後計ラズモ人肉ニ對スル嗜好ヲ養成スルノ縁トナリ、遂ニ人々ハ兒童ヲ殺シテ之ヲ常食トスルニ至リタリ。カクテ人肉ハ如何ニ調理スベキカ、如何ナル藥味ヲ加フベキカト云フトサヘ、次第ニ發明セラレ、人肉食ノ風ハ全國ニ擴ガリ、人々公々然其ノ味ヲ賞シテ怪マズ。遂ニハ此處彼處ノ富者サヘ其ノ風ニ染マリ、彼等ハ他ニ食料ヲ有スルニ拘ラズ、一種ノ奢侈品トシテ人肉ヲ需要シ、殺人者ヲ雇フテ膳司トナシ、屢々知己朋友ヲ招キテ人肉ノ饗應ヲ爲スニ至リタリ。註二此ノ如ク、若シ或ル種族ニシテ人肉ニ對スル嗜好ヲ有スルニ至ランカ、彼等ハ別ニ食料ノ缺乏ヲ感ゼザルニ拘ラズ、只ダ人肉ヲ得ンガ爲メ、或ハ戰鬥ヲ事トスルニ至ル場合アリ。例ヘバポリネシアノ蠻人ハ嘗テ飢饉ノ爲メ偶々人肉ヲ食ヒタルコトアリシヨリ、計ラズシモ人肉ニ對スル嗜好ヲ養成スルニ至リ、遂ニハ人肉ヲ得ルガ爲メニ他ノ部落ヲ襲ヒ、或ハ之ヲ以テ足レリトセズ、自己ノ部落ノモノヲモ殺シテ之ヲ食フ者アルニ至レリ。註三又タ上部コンゴノバンガラ族ハ、其地タル各種ノ植物性食料及ビ家畜ニ富ミ、加フルニ川及ビ湖ニハ無數ノ魚類繁殖スルニ係ラズ、只ダ人肉ヲ得ントノ唯一ノ目的ヲ以テ其ノ近隣ノ部落ヲ襲撃セリ。註三ニアムニアム

族(註四)及ビバツタ族(註五)ノ如キモ亦タ同様ノ風俗ヲ有セシモノ、如シ而シテ更ニ一步ヲ進ムレバ、狩獵變ジテ養畜トナルガ如ク雷ニ戰鬪ニ依ツテ敵人ヲ殺戮スルノミナラズ、甚シキハ之ヲ飼養シ繁殖セシメテ將來ノ食用ニ供スルニ至ル。例ヘバ中央亞弗利加ノ蠻人ハ、他ノ部落ヨリ小兒ヲ奪ヒ來リ、之ヲ圈ニ入レテ閉鎖シ「バナナ」ヲ以テ之ヲ育テ、其ノ成長スルヲ待ツテ屠殺シテ之ヲ食ヘリ。(註六)南洋フイジ島ノ蠻人間ニ在ツテモ食用ニ供スルノ目的ヲ以テ捕虜ヲ飼養シ置クノ風アリ。(註七)南亞米利加ノグアラニ族ノ如キモ、十六世紀頃ニハ、捕虜トシタル女子ハ之ヲ妻トシ、其ノ子ヲ産ムノ後、先ヅ母ヲ食ヒ、次イデ子ノ成長シタルモノモ亦タ之ヲ食フノ風アリシト云フ。(註八)同ジク南米ノダリエン族ノ如キ、亦タ等シク敵族ノ女子ヲ掠奪シテ之ト同棲シ、其ノ間ニ生レタル小兒ハ其ノ成長スルマデ之ヲ保育シ、其十四歳前後ニ達シ其ノ肉ノ恰モ好味ナルヲ待チテ、母ト共ニ之ヲ食フ。(註九)カリブ族モ亦タ食料ヲ得ンガ爲メニ家畜トシテ其ノ子ヲ養フ。(註一〇)恐ルベキハ嗜好趣味ノ力ト謂フベシ。今マ人肉ノ嗜好既ニ此ノ如キニ至ル、其ノ同族相食ムニ至ルモ亦タ自然ノ勢ト謂フベシ。例ヘバニユーグラナダ地方ノ蠻人間ニ在ツテハ、「夫ハ

其ノ妻ヲ食ヒ、子ハ其ノ父ヲ食ヒ、兄弟ハ其ノ兄弟姉妹ヲ食フ」ト云ヘリ。(註一一)又タ濠洲ノ蠻人チーエリー族ニアリテハ「母ハ其ノ子ヲ食ヒ、子ハ其ノ母ヲ食ヒ、義兄弟及ビ義姉妹互ニ相食ヒ、伯父、伯母、甥、姪、孫、祖父、祖母等又タ互ニ相食フ、但シ父ハ子ヲ食フ能ハズ、亦タ父ヲ食フベカラズト云フノ習慣ナリ。」(註一二)又タ北米ノ蠻人スレーブ族ノ或ル者ニ就キ實見シタルモノ、言ニ依レバ、嘗テ旅行ニ際シ或ル者ハ先ヅ其ノ妻ヲ屠リテ荷物ト爲シ、日々其ノ一定量ヲ割キテ食糧ニ充テ、其ノ肉ノ漸ク缺乏スル頃更ニ其ノ子ヲ屠リ、遂ニ又タ、漸ク七八歳ニ達セシ他ノ一兒ヲモ屠リテ食糧ト爲セシモノアリト云ヒ、又タ或ル者ハ、其ノ兩親、妻及ビ二人ノ小兒、其ノ他、他人ヲ合ハセテ前後十二三人ノ肉ヲ食ヒタリト云フモノアリシト云フ。(註一三)抑テ此ノ如ク同族相食ムモノニ在ツテハ、人ハ到底長生スルヲ得ザルコト勿論ナリ。サレバヘロドータスノ古記中ニ云ヘル「聊カニテモ病氣ノ徵候ヲ示スモノアル時ハ、直チニ殺シテ之ヲ食フガ故ニ、殆ド老年ニ達セシモノヲ見ズ。」(註一四)ト云フガ如キ状態、又ハハインドノ云ヘル「凡ソ大人老衰ノ徵候ヲ呈センカ、直チニ殺シテ之ヲ食フガ故ニ、白髮ノ老人ハ全ク見ルコト能ハズ。」(註一四)ト云フガ如キ状態ハ、其ノ通有

ノ状態タルニ至ルベシ。

- (註一) (註二) (註三) Westernark, The Origin, etc., vol. II, pp. 577, 578.
- (註四) Letourneau, p. 86. (註五) Waitz, I, p. 188. (註六) Hobhouse, Moral in Evolution. ニ引ク所)
- (註六) Dowd, The Negro Races, vol. I, p. 94.
- (註七) Spencer, Principles of Sociology, vol. III, p. 460. Hobhouse, vol. I, p. 265.
- (註八) Hobhouse, vol. I, p. 248.
- (註九) Keane, The World's Peoples, p. 237. 猶ホラボックハ南米ノ『或ル蠻人』ニ關シ次ノ如キ記事ヲ引ケリ、
曰ク It is customary to treat captives well in every respect for a certain time giving them clothes, food, a wife, &c., and then to kill and eat them, any children they may have are killed and eaten also. (Lubbock, The Origin of Civilisation, etc., p. 159.)
サレバ畜ニ捕虜ヲ妻トスルノミナラズ、場合ニ依リテハ、男性ノ捕虜ニハ暫ク妻ヲ持タセ、子ヲ繁殖セシメテ之ヲ食フコトモ行ハレタリト見ヘタリ。
- (註一〇) Jevons, An Introduction to the History of Religion, p. 202.
- (註一一) (註一二) Keane, p. 237.
- (註一三) Westernark, The Origin, etc., vol. II, p. 534.
- (註一四) (註一五) Jevons, 202.

以上述ブルガ如ク、毫モ食料缺乏ニ迫マル、ニ非ズシテ、只ダ人肉ニ對スル嗜好ノ爲メニ之ヲ常食トスルニ至ルノ例ハ、決シテ是レ無キニ非ラズ。乍併、此ノ如ク人肉

ヲ常食トスルノ風ガ廣ク原始時代ニ於イテ行ハレ凡テノ人種ハ嘗テ一タビハ此ノ如キ時代ヲ經過セルモノナリトノ説ハ、粹ニ信ジ難シ。何トナレバ、人類ニシテ同族相食ムノ習慣ヲ有シ、人々相殺シテ其ノ肉ヲ嗜ミ、以テ廣ク『生者ハ死者ノ墳墓ナリ』(註一)ト云フノ状態ヲ呈セシモノトセンカ、人類ノ繁榮ハ大ニ之ガ爲メニ阻害セラレ、到底今日ノ如キ文明ヲ羸チ得ザリシナルベキヲ以テナリ。思フニ、或ハ食料缺乏ノ爲メ、或ハ憎惡怨恨ノ爲メ、或ハ宗教心乃至迷信ノ爲メニ、嘗テ一タビ人肉ヲ食セシコトアラシカ、其ノコトガ原因トナリテ、場合ニ依リテハ人肉ソノモノニ對スル嗜好ヲ惹起スルコト、前ニ述ベタル諸例ノ如キニ至ルモノアリト雖モ、而カモ此ノ如キハ稀ナル例外ニシテ、且ツ一旦此ノ如キ病的習慣ヲ有スルニ至ルモノアラシカ、彼等ガ若シ近隣ノ部落ヲ襲撃スルモノナラバ、其ノ近隣ノ部落ノ共同ノ攻撃ニ依リテ滅亡セラルベク、若シ又タ父母妻子兄弟相食フモノナラバ、彼等ハ人口減退ノ爲メニ自ラ滅亡スルニ至ルベク、要スルニ此ノ如キ習慣ヲ脱セザル限り、其ノ種族ハ遂ニ滅亡ノ運命ヲ招クノ外ナカルベキ也。吾輩ハ此ノ如ク信ズ。是ノ故ニ、人類ノ歴史ニ於イテ嘗テ人肉ヲ常食トスルノ時代アリシト云フ説ハ、今マ吾輩ノ採

ラザル所ナリ。而シテ蠻人中ニアツテモ全ク人肉ヲ食ハザル種族アルコト(註二)最モ進歩セシモノ、間ニモ此ノ如キ俗ヲ存スルノ例アルコト(註三)最野蠻ノ人種ヨリモ寧ロ稍々文明ノ進歩シタル社會ニ於テ却ツテ此ノ俗ヲ存スルモノ多キコト(註四)等ノ事實アルハ、益々其ノ然ル所以ヲ知ルニ足ル。故ニ『近世ノ蠻人中ニ行ハル、人肉食ノ俗ヲ以テ人類ノ原始時代ニ於ケル遺風トナシ、或ハ又々、凡テノ人種ハ嘗テ一タビハ此ノ俗ヲ有スルノ時代ヲ經過セシモノナリト爲スノ説ハ、不合理ノ想像説ト云ハザルベカラザルナリ』(註五)

(註一) ニュウグラナダ地方ノ蠻人状態ヲ形容セシ語 (Kaond, p. 237)

(註二) Westmarck, The Origin, etc., vol. II, p. 570 et seq.

(註三) Ibid, vol. II, p. 578.

(註四) Ibid, vol. II, p. 580.

之ヲ要スルニ原始時代ノ人類ガ飢饉ノ際已ムヲ得ズシテ人肉ヲ食ヒタリト云フコトハ、之ヲ想像スルニ難カラズト雖モ、彼等ガ人肉ヲ以テ其ノ常食物ト爲セシト云フノ説ハ吾輩ノ採ラザル所ナリ(註一)

(註一) 穂積博士ハ其ノ著『隱居論』ニ於テ隱居ノ起源ヲ論ジ、食人俗一變シテ殺老俗トナリ、再變シ

テ棄老俗トナリ、進化發展シテ竟ニ隱居ノ習俗ヲ生ジタリト爲サレタルガ、以上論述スル所ニ依リテ考フレバ、所謂食人俗ナルモノガ彼ノ殺老俗、棄老俗、隱居俗等ト此ノ如キ聯絡ヲ有スルヤ否ヤハ頗ル疑ハシト云ハザルベカラズ。

下篇 人類原始ノ社會狀態

第四章 人類原始ノ社會團體

吾輩ハ本章ニ於イテ人類原始ノ社會團體ニ就キ其ノ大要ヲ説明シ、以テ當時ノ經濟狀態ヲ知ルノ一助ヲラジメントス。今マ豫メ其ノ見ル所ヲ要言スレバ、人類ノ歷史上曾テ家族ナキ時代ナシ、乍併家族以上ノ集合體ノ發生セザリシ時代ハ頗ル久シク、吾輩ハ此ノ如キヲ以テ凡ソ第一期ノ狀態ト爲ス。第二期ニ入ルニ及ビテハ、數個數十個ノ家族既ニ一處ニ集リテ一ノ部落ヲ爲スト雖モ、而カモ其ノ間未ダ社會的組織ナルモノヲ有スルニ至ラズ、故ニ第二期ニ於イテモ家族以上ノ社會的團體ハ未ダ發生セズト云フテ不可ナキ狀態ニ在リシモノト信ズ。

(一)

原始時代ノ人類ハ全ク亂婚ノ狀態ニ在リテ所謂家族ヲ成サバリシモノナリト云フ說ハ、多數ノ學者ノ主張シ又ハ採用セル所ナリ。(註二)而シテ其ノ根據ノ一ハ、現存セル蠻人中現ニ亂婚ノ狀態ヲ維持シ毫モ家族ヲ成サザルモノアリト云フニ存シ、其ノ根據ノ二ハ、未開社會ノ風俗習慣中之ヲ以テ亂婚ノ遺物ト爲スニ非ザレハ說明シ難キモノアリト云フニ存スト雖モ、是等ノ二點ニ關シテ諸學者ノ提供セシ實

例ト議論トハウエスターマークノ批評ニ依リテ殆ンド完膚ナキニ庶キノミナラス(註三)抑々本書ニ本章ヲ置クハ、原始時代ニ於ケル社會狀態ノ一斑ヲ述ベテ其ノ經濟狀態ヲ知ルノ一助ヲラシメントスルニ過ギザレバ、是等學者ノ議論學說ニ就イテハ今マ全ク筆ヲ着クルコトヲ避ケ、以下只ダ、吾輩ハ何故ニ原始時代ノ人類モ既ニ家族ヲ成セシモノナリト云フ說ヲ採ルカノ理由ニ就イテ、其ノ大要ヲ論ズルニ止ムシ。

(註一) 左ニ列擧スル所ハ、亂婚說ヲ主張シ又ハ採用セシ學者ノ主要ナルモノトシテウエスターマークノ列擧セルモノニ、多少ノ取捨増補ヲ爲シタルモノナリ。

Bachofen, Das Mutterrecht. *Idem*, Antiquarische Briefe. MacLennan Primitive Marriage. Morgan, Ancient Society. Lubbock, On the Origin of Civilization. *Idem*, Systems of Consanguinity and Affinity of the Human Family. Bastian, Die Rechtsverhältnisse bei verschiedenen Völkern der Erde. Giraud-Toulon, Les origines du mariage et de la famille. Lippert, Kulturgeschichte der Menschheit. Post, Die Gesellschaftsgenossenschaft der Urzeit. *Idem*, Die Grundlagen des Rechts. *Idem*, Studien zur Entwicklungsgeschichte des Familienrechts. Engels, Der Ursprung der Familie, des privat Eigentums, Gamplowitz, Grundriss der Sociologie. Bevel, Woman in the Past, Present, and Future. Schurtz, Völkerkunde. Hager, The American Family. F. B. Jevons, An Introduction to the History of Religion. Bergemann, Ethik als Kulturphilosophie.

(註二) Westermarck, History of Human Marriage, ch. III, sq. ウエスターマークノ此ノ書ハ婚姻論ニ關スルモ

ノニ在ッテハ誠ニ出色ノモノタルベク、本章ニ於ケル吾輩ノ議論モ之ニ負フ所少カラズ。フオーレルハ之ヲ評シテ das nicht nur durch den grossen Reichtum und die Zuverlässigkeit des Materials, sondern auch durch die Schärfe gesunder Kritik glänztト賞讃シタリ。(Forel) Die Sexuelle Frage, S. 158.) 法學士藤井宇平氏夙ニ之ヲ邦譯シテ哲學書院ヨリ出版セリ。

原始時代ニ於ケル家族有無ノ論ハ、家族ノ意義如何ニ依リテ右トモナリ左トモナルベケレバ、吾等ハ議論ヲ爲スニ先チ豫メ其ノ意義ヲ定メ置カザルベカラズ。吾輩ハ乃チ之ヲ解シテ『生殖ノ爲メ結合セル男女及ビ其ノ間ニ生ゼシ子ヨリ成ル所ノ持續的團體ナリ』ト爲ス。今此ノ定義ガ完全ナルヤ否ヤハ吾輩ノ敢テ争ハントスル所ニ非ズ。吾輩ハ只ダ此ノ意味ニ於イテ家族ト云フ文字ヲ用ヒ、而シテ此ノ如キ家族ハ人類ノ歴史上嘗テ是レ無カリシ時代アラズトノコトヲ論證セントスルニ止マル也。

思フニ如何ニ原始ノ人類ト雖モ其ノ子ノ保護ノ爲メニハ必ズ家族ヲ成シ居タルナラン。何トナレバ、子ニ對スル家族的保護ナクシテ今日ノ人類ヲ生ゼシモノトハ、吾輩ノ信ズル能ハザル所ナレバナリ。

蓋シ子ニ對スル親ノ保護ニシテ充分ナラザレバ、到底高等ナル動物ノ發生スベキ

道理ナキナリ。第一、子ニ對スル親ノ保護充分ナラザレバ、其ノ子ハ大半又ハ大部分成長スルヲ待タズシテ中途ニ死去スベキガ故ニ、其ノモノハ種屬保存ノ爲メ非常ニ多數ノ子ヲ産マザルベカラザルノ道理ナリ。現ニ魚類ニ就イテ調査セシ結果ト云フヲ見ルニ、全ク親ノ保護ナキモノ四十九種ノ平均産卵數ハ毎年一尾ノ雌ニ就キ百〇四萬ノ多キニ達セルガ、巢又ハ之ニ類似ノモノヲ作ル魚族ニアリテハ、其數減シテ一萬トナリ、又タ其ノ産卵ヲ放置セズシテ身體ノ一部ニ携フルモノニ至ッテハ、更ニ減シテ千トナリ、卵トシテ産ムニ非ズシテ子宮ニテ之ヲ育テ、活キタル子ヲ産ムモノニ至ッテハ、更ニ又タ減シテ五十六ト爲ルト云フ。其ノ外一般動物ニ就イテ見ルモ、親ノ保護ト産兒ノ數トハ凡テ正比例スルモノ、如ク、例ヘバ魚類中標準的ノモノ七十五種ヲ選ビテ其ノ産卵數ヲ平均スレバ六十四萬六千トナレド、兩棲屬ノ中二十種ノモノ、平均ハ四百四十一ニ過ギズ。而シテ爬虫類三十九種ノ平均ハ更ニ減ジテ七十七トナリ、鳥類中標準的ノモノ二千種ノ平均ハ五強トナリ、哺乳動物中標準的ノモノ八十二種ノ平均ハ三二一トナリ、高等ノ哺乳動物ニ在ッテハ愈々減ジテ一三トナリ、カノ類人猿ノ如キニ至ッテ遂ニ減ジテ一ケ年一以下ト

ナル。(註二)親ノ保護ノ有無厚薄ガ其ノ産兒數ト密接ナル關係ヲ有スルコト此ノ如シ。シカルニ此ノ産兒數ノ多少ト云フコトハ動物ノ生存競争上最モ緊要ナル關係ヲ有スル問題タリ。蓋シ産兒數ニシテ減少センカ、親ハ之ガ爲メ始メテ生殖作用以外ニ餘力ヲ得テ他方面ニ於ケル發達ヲ計リ得ベケレバナリ。カノ肉ニ附ク蠅ノ如キハ一度ニ二百萬ノ卵ヲ産ミ一週間ニハ百萬倍ニ増加スルノ生殖力ヲ有スト云ヘルガ、此ノ如キ動物ニ在ツテハ只ダ生殖作用ノ爲メニ生活スルニ過ギズシテ、到底他ノ方面ニ於イテ其ノ發展ヲ計ルコトヲ得ズ故ニ其ノ産兒數ノ減少ハ、高等動物發生ノ第一要件ト云ハザルベカラズ而シテ既ニ其ノ産兒數ニシテ減少センカ、子ニ對スル親ノ保護ハ益々厚キヲ加フルコトヲ得ベク、而シテ親ノ保護ニシテ益々厚キヲ加ヘンカ、其ノ子ハ始メテ長キ未成年時代ヲ有シ得ルニ至ルナリ。然ルニ又タ此ノ未成年時代ノ長キコトハ、動物進化ノ歴史ニ於イテ高等ナル動物ノ發生スルガ爲メ極メテ必要ナル條件ニシテ、動物ハ此ノ條件ヲ具フルコトニ依リテ出産後尙ホ其ノ發達ヲ繼續シ以テ比較的完全ナル組織構造ヲ有シ得ルノミナラズ發達ノ期間長キニ從フテ其間自ラ變種ヲ生ズルノ機會モ多カルベク、而シテ此ノ

如キ變種ノ發生アレバコソ自然淘汰ノ作用ニ依リテ又タ次第ニ進化發展スルコトヲ得ルナリ。(註二)コレ吾輩ガ子ニ對スル親ノ保護充分ナラザレバ、到底高等ナル動物ノ發生スベキ筈ナシト云フ第二ノ理由ナリ。

(註一) Sutherland, vol. I, pp. 40, 41, 100, 101.

(註二) The characteristic helplessness of the child, which at first thought appears to be a disadvantage, is in fact the source of human superiority, since the design of nature in providing this condition of helplessness is to afford a lapse of time sufficient for the growth of the very complex mechanism. (Thomas, The Adventitious Character of Woman, p. 32.—The American Journal of Sociology, vol. 12.)

子ニ對スル親ノ保護充分ナラザレバ、高等ナル動物ノ發生スベキ理由ナシト云フ所以ハ、以上述べル所ニ依リテ明カナラン。今マ其ノ子ニ對スル親ノ保護ニ就イテ觀察スルニ、初メハ母ノミノ保護ニ起リ、進歩スルニ從フテ父母共同ノ保護ト爲ルモノ、如シ。而シテ父母共同ノ保護ハ、殆ド凡テノ鳥類ニ於イテ吾人ノ既ニ實見スル所タリ。蓋シ鳥類ニアリテハ、子ハ先ヅ卵トシテ産マル、ガ故ニ、其ノ成育ノ爲メニハ母ハ間斷ナク自己ノ體温ニテ之ヲ温メ以テ常ニ平均ノ温度ヲ保タシムル必要アリ、從ツテ少クトモ其ノ孵化スルマデノ期間ニ於イテハ、母ハ常ニ父ノ補助ニ

依リテ、其食料ヲ得ルモノニシテ、即チ彼等兩親ハ子ノ成育保護ノ爲メニ共カスルモノト謂フベキナリ。之ニ反シ哺乳動物ニ在リテハ、母ノミノ保護ニ止ルモノ多シト雖モ、少クモ猿猴類ニ至ツテハ鳥類ト同ジク父母共同ノ保護既ニ發達シ、殊ニ「ゴリラ」及ビ猩々ニ在リテハ既ニ家族ヲ作リテ其ノ子ノ養育ニ從事シツ、アルハ有カナル學者ノ一致シテ證言スル所ナリ。註二此ノ如ク、既ニ「ゴリラ」及ビ猩々等ニシテ其ノ子ノ成育ニ對シ家族的保護ヲ缺カザルモノトセバ、生存競争上之ニ優ル所アリシ吾等人類ガ、嘗テ其ノ子ノ保護ニ對シ家族的保護ヲ爲サザリシモノトハ到底信ズベカラザルコトニ屬ス。是レ即チ吾輩ガ、如何ニ原始ノ人類ト雖モ、其ノ子ノ保護ノ爲メニハ必ズ家族ヲ成シ居タルベシト云フ所以ナリ。畢竟人類ノ歴史ニ於イテハ『結婚アツテ後チ家族アルニ非ズ、家族アツテ後チ結婚アリ』ト謂フベキ歟。註二

(註一) "All the best authorities agree that the Gorilla and the Chimpanzee live in families."—(Westermarck, The Origin, etc., vol. II, p. 189.)

「ゴリラ」ハ例外ナク家族ヲ成スモノナリトハ言ヒ難カルヘキモ、少クトモ彼等ノ間ニ家族ヲ成セルモノアルハ疑ナキカ如シ、即チ或ル者(Koppensbel)ハ妻子ト共棲シテ之カ保護ヲ爲シツツアル

ヲ見タリト云ヒ (Sutherland, The Origin and Growth of the Moral Instinct, vol. I, p. 173. Westermarck, The History, etc. p. 535.) 或ル者 (Lientenant de Crospigny) ハ雌雄ハ二匹ノ子ト共ニ家族ヲ成セルヲ見タリト云ヒ (Westermarck, p. 535.) 或ル者 (Hartmann) ハ雌雄ハ年齢ヲ異ニスル數多ノ子ト共ニ家族ヲ成シツツアルヲ見タリト云ヒ、又タ或ル者 (Du Chailie) ハアフリカノ熱帶地方ニ於イテハ『殆ト凡テ雌雄ハ一對的結合ヲ爲シテ共棲シツツアリ』ト云ヒ、更ニ或ル者 (Savage) ハ老ヒタル雌ノ周圍ニ二匹又ハ數匹ノ雌カ其ノ子ト共ニ集ツテ一ノ集合生活ヲ成シ居ルヲ見タリト云ヒ(以上 Sutherland, vol. I, p. 173.) 多少人ニ依リテ觀察ヲ異ニセルノミナラス、事實モ亦タ處ニ依リテ必スシモ同カラサルヘシト雖モ、要スルニ彼等ノ間ニハ既ニ家族ノ成立ヲ見ルモノトシテ差支ナカラン。

(註二) Marriage and family are thus intimately connected with each other: it is for the benefit of the young that male and female continue to live together. Marriage is therefore rooted in family, rather than family in marriage (Westermarck, The History, etc., pp. 22-23.)

以上吾輩ハ、原始人類ト雖モ男女ハ其ノ間ニ生レタル兒ノ保護ノ爲メニ一定ノ期間家族ヲ成シ居タルモノナラント云フコトヲ、動物進化ノ法則上ヨリ推論シタリ。以下吾輩ハ更ニ、諸人種ノ風俗習慣中、子ノ養育保護ガ婚姻ノ原因タルコトヲ示スベキモノ多キヲ述べ、進ンデハ又タ子ノ養育保護ノ爲メニ兩親ノ婚姻セザル場合ニハ遂ニ其ノ種族ノ滅亡ヲ來セル實例少カラザルコトヲ述べ、以テ以上ノ推論ガ

決シテ架空ノ説ニ非ラザル所以ヲ確メント欲ス。

子ノ養育保護ガ婚姻ノ原因タルコトヲ示スベキ風俗習慣中、其ノ主要ナルモノトシテ吾輩ハ茲ニ四種ノ事例ヲ擧ゲントス。第一ハ、女子ガ妊娠スルカ又ハ兒女ヲ分娩シタル後カニ非ザレバ、男女ハ眞ニ婚姻ノ關係ヲ結ビタルモノニ非ズトスルノ風俗ナリ。第二ハ、女子モシ妊娠スルカ又ハ兒女ヲ分娩シタル時ハ、其ノ對手タリシ男子ハ之ト結婚スルノ義務アリトスルノ風俗ナリ。猶ホ第三ニハ、子ノ哺乳期ニシテ經過シナバ、夫婦ハ離婚スルヲ常トスルノ風俗アルコトヲ擧グルヲ得ベク、而シテ第四ニハ、子ヲ産ムコトヲ以テ妻タルベキモノノ一資格ト爲ス風俗アルコトモ類似ノ一例トシテ數フルヲ得ンカ。以下少シク其ノ實例ヲ述ベン。

先ヅ女子ガ妊娠スルカ又ハ兒女ヲ分娩シタル後カニ非ザレバ、眞ニ婚姻ハ成立セザルモノト看做ス風俗ニ就イテ、試ニ三四ノ實例ヲ述ベンニ、アメリカノインド族ニアリテハ、『男子ハ其ノ結婚セントスル女子ノ父母ノ家ニ行キテ共棲スト雖モ、子ノ生マル、迄ハ全クノ他人トシテ取扱ハル。』(註二)其ノ他、東部グリーンランドノ土人フュジアン族、シャワン族、アビボン族、キエン族、アイヌ族、アトカ、アレント族等ニ在

リテモ、凡テ兒女ノ出産ヲ以テ婚姻完結ノ條件ト爲スモノ、如シ(註三)又タヤーガ族ニアリテハ、女子ハ結婚後ト雖モ依然父ノ家ニ止リ、時々其夫タルベキ人ヲ訪問スルニ過ギズト雖モ、妊娠スルニ至ラバ父ノ家ヲ去リテ夫ノ家族トナル。(註三)シナイ山中ノベドゥイン族、バニール族、南インドノベダーグ族、ルゾン島ノイゴロト族等ニ在リテモ、凡テ女子ノ妊娠ヲ以テ婚姻完結ノ條件ト爲スモノ、如シ(註四)

(註一) Thomas, Sex and Society, p. 75.

(註二) Westernark, History, etc., p. 23 sqq.

(註三) Parsons, The Family, p. 36.

(註四) Westernark p. 23 sqq.

又タ男女ノ關係ノ甚シク紊亂シ居ル種族ニアリテモ、女子ニシテ妊娠スルカ又ハ兒女ヲ分娩スル時ハ、其ノ對手タリシ男女ハ之ト結婚スルノ義務アリト爲スノ風俗ヲ有スルモノ少カラズ。例ヘバ中央アフリカノマヂ族、ボルネオノ蠻族、カレン族ノ或ル者、インドノチッタゴング山中ノチッペラー族、ロシアノウクレーン地方ノ住民等ニ在リテハ、女子ニシテ妊娠セバ其ノ對手タリシ男子ハ必ズ之ト結婚セザルベカラズ。(註二)又タタヒチ族ニアリテハ、父ガ其ノ私生兒ヲ殺スノ權利アレドモ若シ

之ヲ殺スコトヲ欲セザレバ、其ノ母ト結婚セザルベカラズ。(註二)其ノ外、カノ最下等ノ蠻人ト稱セラル、アンダマン嶋ノ土人ニアリテモ、男女ノ關係ハ平生紊亂セルモ、一旦女子ニシテ子ヲ産マンカ、男女ハ始メテ結婚ノ關係ヲ結ブト云フ。(註三)

(註一) (註二) Westmarck, History, etc., p. 25 sqq.

(註三) Sutherland, vol. I, p. 174.

アンダマン島ノ土人ガ、兒女分娩ノ際、男女始メテ結婚スルコトハ、今マ述ベタル如クナルガ、茲ニ最モ興味アルコトハ、其ノ子ノ哺乳期ニシテ過グレバ、男女ハ茲ニ離婚シテ、各々新タニ其ノ對手ヲ作ルコトナリ。(註二)結婚ガ子ノ保育ヲ目的トシテ行ハル、モノナルヲ示スニ於イテ、誠ニ是レ適例ト云フベキモノナリ。

(註一) Lubbock, The Origin, etc., p. 86.

若シ夫レ、妻ニシテ子ナキ時ハ夫ハ之ヲ離縁スルノ權利アル習慣、及ビ妻ニシテ既ニ子アラバ夫ノ離縁請求ヲ拒絕スルノ權利アル習慣等ハ、人ノ能ク知ル所、茲ニ縷説スルヲ要セザルベシ。只ダ之ト類似ノ習慣ニシテ、多少ノ興味アル事例ヲ添ヘヨトナラバ、吾輩ハ、新郎ガ其ノ新婦タルモノ、一資格トシテ嘗テ子ヲ産ミタルコト

ヲ要求スルノ奇風ヲ擧グルヲ得ベシ。例ヘバアフリカノ或ル部分ニ於イテハ、女子ハ子ヲ産ミタル後ニ非ザレバ何人ト雖モ之ト結婚スルモノナシト云ヒ、ヴォチャク族ニアリテハ、女子ハ子サヘ産マバ人争フテ之ヲ妻ルト云ヒ、インガリーク族ニアリテハ「女子ハ未ダ嫁セザル以前ヨリ頻リニ子ヲ得ンコトヲ希望ス」ト云フ。(註一)スーサンランドノ言フ所ニ據レバ、新婦タルモノ、一資格トシテ嘗テ子ヲ産ミタルコトヲ要求スルノ風ヲ有スル人種ハ、凡ソ五六十二上ルト云フ。(註二)

(註一) Westmarck, History, etc., p. 377 seq.

(註二) Sutherland, vol. II, p. 131.

以上列擧シタル事例ハ、結婚ガ子ノ養育保護ノ爲メニ起リタルモノナリト云フ説ヲ證據立ツル爲メ多少ノ力アルモノト思フガ、吾輩ハ更ニ進ミテ、子ノ養育保護ノ爲メニ兩親ノ婚姻セザル場合ニハ其ノ種族ハ遂ニ滅亡スルモノナルコトヲ、二三ノ實例ニヨリテ證據立テント欲ス。

吾輩ハ今マ其ノ適例ノ一トシテビクトリアノ蠻人ガ滅亡スルニ至リタル原因ヲ説カン。ビクトリアノ地タル今ハ約百二十五萬ノ人口ヲ收容シツ、アリト云ヘド

モ、其ノ先住者タリシ蠻人ニ取リテハ、恐ラクハ七千内外ノ人口ガ其ノ收容シ得ル最大限タリシナラン。蠻人ハ農業牧畜ヲ解セザルガ故ニ、其ノ生活ニ廣大ノ面積ヲ要スルモノナルコトハ、吾輩ノ後ニ説ク所ナリ。然リ彼等ノ如キ幼稚ナル文明ノ程度ニ止ルモノニトリテハ、ソレ以上ニ人口ヲ増加スルコト恐ラク不可能ナリシナラン。從ツテ彼等ノ間ニハ、殺兒ノ習慣久シキ以前ヨリ行ハレ居タリシモ、因襲ノ久シキ自然ノ結果トシテ其ノ殺兒ハ常ニ相應ノ程度ニ於イテ行ハレ、之ニ依リテ人口ハ増加スルコトモ無ク、又タ減少スルコトモ無ク、巧妙ニ其ノ經濟狀態ト一定ノ平均ヲ保チツ、アリシ也。然ルニ其ノ平均ヲ紊亂セシモノヲ白人ノ移住ト爲ス。凡ソ未開地方ニ向フ最初ノ移住者ガ、品性高カラザルノミナラズ、無妻者ノ多キハ普通ノ現象ナルガ、今マビクトリアニ移住シ來リシ白人モ之ガ例ニ漏ル、コト能ハズ。從テ彼等ハ盛ニ是等蠻人ノ女子ト相通ズルニ至リタリ。殊ニ是等ノ蠻人ハ、他ノ多クノ蠻人ト同ジク、所謂女性饗應ノ習慣ヲ有シ、外人來レバ其ノ歡迎ノ爲メニ、父ハ其ノ娘ヲ、夫ハ其ノ妻ヲ客人ニ侍セシムルノ風行ハレ居タリシカバ、最初移住シ來リシ白人ハ、此ノ習慣ヲ奇貨ト爲シテ、或ハ煙草或ハ小刀等ヲ與ヘテ、盛ニ蠻族ノ

女子ヲ耻シメシモノトス。然ルニ其ノ結果トシテ恐ルベキ現象二個ヲ生ジタリ。其一ハ、蠻人ト白人トノ間ニ生ジタリシ子ハ、所謂混血兒タルノ故ヲ以テ、一モ二モナク凡テ壓殺セラレ、是ガ爲メ俄ニ育兒ノ數ヲ減少スルニ至リタルコト也。而シテ其ノ二ハ、所謂女性饗應ノ習慣過度ニ害用サレタル爲メ、蠻人相互ノ結婚數ヲ減少シ、一部ノ女子ヲシテ全ク亂婚ノ状態ニ陥ラシメシコト也。此ノ如クニシテ、一方ニハ其ノ育兒ノ數ヲ減ジタリシト共ニ、他方ニハ其ノ結婚ノ數ヲ減ジタリシヲ以テ、此ノ蠻族ハ遂ニ年ヲ經テ衰亡スルニ至リタリ。要スルニビクトリアノ蠻人ハ、俄ニ文明ノ程度ヲ異ニセル異人種ト接觸シ、之ト生殖的關係ヲ結ビ乍ラ而カモ結婚スルコト能ハザリシガ故ニ、遂ニ衰亡スルニ至リシモノトス。思フニ或ル人種ガ亂婚ノ状態ニ陥ル原因ニ至ツテハ必ズシモ一ナラザルベシト雖モ、兎モ角、亂婚ガ育兒ノ數ヲ減ジ、從ツテ人口ノ増殖ヲ妨ゲ、甚シキハ其ノ減少ヲ招キ、遂ニハ其ノ種族ノ滅亡ヲ來スニ至ル原因タルハ爭フベカラズ。今マ更ニ例ヲ舉グレバ、カノタスマニア族ノ衰亡セシ所以ハ、放肆ナル女子ノ習慣ヨリ生ズル小兒出産數ノ減少ニアリト云ヒ、又タ北アメリカノインド族ノ衰亡セシ所以モ「強キ酒ノ爲メニモアラズ、輸

入サレタル病毒ノ爲メニモアラズ、全ク男女間ニ於ケル放肆ノ自然的結果タルニ過ギス』ト云ヒ、其ノ他ニュージールランドノマリオ族、タヒチアン族、ハワイ族等ノ衰亡セシ所以モ、亦タ等シク是ニ原因スト云フ。(註二)婚姻ノ伴ハザル生殖的交通ガ如何ニ種族滅亡ノ原因タルカハ、之ニ依リテ明カナラン。是ノ故ニ、吾輩ハ、原始時代ノ人類ト雖モ子ノ保護養育ノ爲メニハ、父母ハ一定ノ期間婚姻關係ヲ持續シテ所謂家族ナルモノヲ成シ居タリシニ相違ナシト信ズルナリ。固ヨリ或ル人種ハ亂婚ノ状態ヲ有セシコトアラン。又タ或ル時代ニ於イテ亂婚ノ状態ニ陥リシモノモアラン。乍併、凡テ是等ノ人種ハ相次イテ衰亡セシニ相違ナク、少クトモ今日ノ人類アル所以ハ人類ガ婚姻ヲ爲シ家族ヲ作り以テ子ノ養育保護ヲ怠ラザリシ結果ト爲サザル可ラズ。是レ吾輩ガ、人類ノ歴史ニハ嘗テ家族ナキ時代アリシト云フコトナシト斷定スル所以ナリ。

(註一) 委シク、Sutherland, vol. I, pp. 120-124. ナ参照セヨ。

以上ヲ以テ第一段ノ議論ハ略ボ盡キタレドモ、猶ホ終ニ臨ンデ一言ヲ附加シ置キタキハ、何故ニ人類ハ子ノ保護養育ノ爲メニ婚姻ヲ爲シ家族ヲ成スニ至リシヤト

云フコト也。現ニ子ヲ産ミタル母ガ其ノ保護養育ニ從事スルハ、自然ノ理トシテ姑ク疑フヲ須ヒズトスルモ、何故ニ父ガ其ノ保護養育ニ協力スルカハ、何人ニモ疑問タルヲ値ヒスベシ。今マ是等ノ問題ヲ詳論スルコトハ、本著ノ目的ニ非ザルガ故ニ、敢テスルコトヲ得ズト雖モ、多少ハ經濟行爲ノ發展ノ原因ヲ説キシ處ト照應スル所アルガ故ニ、極メテ簡單ニ之ヲ一言シ置カント思フナリ。

何故ニ父ハ母ト共ニ子ノ保護養育ニ協力スルカ。思フニ幼稚ナル蠻人ハ既ニ述ベタル如ク、原因結果ノ關係ヲ了解スル能ハザル程ノモノナルガ故ニ、子ノ産マル、生理上ノ原因ナド了解シ得ベキ道理ナク、現ニメラニシア族ノ如キ子ノ産マル、原因ヲバ椰子、穀類等ノ働キニ歸セシメツツアル程ナレバ、(註二)太古原始ノ人類ニ在ツテハ、父ハ其ノ子ヲ以テ自己ノ子ナリト意識スル能力サヘ有シ能ハザリシナルベク、從ツテ何ノ爲メニ之ヲ愛育セシカ殆ンド了解ニ苦ムト云ハザルヲ得ザルガ、畢竟ハ何ノ理由モナク、眞ニ其ノ天性ヨリ愛育センガ爲メニ愛育セシニ外ナラザラン。既ニ述ベタル如ク、人類ノ經濟的性質ノ如キハ全ク其ノ習慣性ニ出ヅト雖モ、此ノ子ニ對スル愛情ノ如キハ、之ト異リ主トシテ其ノ天性ニ出デシモノト考ヘ

ラル。蓋シ人類ハ自然淘汰ノ結果トシテ、子ヲ愛育シテ樂ムト云フ天性ヲ有スルニ至リシモノニテ、是ガ爲メ育兒ハ彼等ニトリテ勞働タラズ、苦痛タラズ、經濟行爲タラズシテ、育兒ソノコトガ、娛樂タリ、慰藉タリ、充慾行爲タリシモノナラン。若シ果シテ然リトセバ、家畜ノ飼養其ノ他凡テ經濟行爲ノ起源ガ充慾行爲ニ歸スルト同ジク、小兒ノ養育モ亦タ等シク其ノ起源ヲ娛樂ニ發スルコトヲ知リ得ルト同時ニ、猶ホ又タ衣服ノ起源ガ皮膚ノ彩色ニ歸シ、其ノ他凡テ財物ノ起源ガ常ニ人ニ歸スルト同ジク、茲ニモ亦タ、賞翫動物ノ起源ガ遂ニ小兒ニ歸スルノ事實ヲ發見シタリト謂フベキ也。

(註一) Hobhouse, Moral in Evolution, vol. I, p. 163.

(二)

吾輩ハ以上ヲ以テ、原始人類ト雖モ既ニ婚姻ヲ爲シ家族ヲ成セシモノナルコトヲ述ベタリ。然ラバ敢テ問フ、既ニ婚姻アリ又タ既ニ家族アル上ノ社會的生活ハ如何吾輩ハ今マ之ニ答ヘテ、嘗テ家族ノミ唯一ノ社會的團結タリシ時代アリ、而シテ數多ノ家族相集ツテ一ノ部落ヲ成スニ至リシハ文明ノ稍々進歩シタル後ノコトナ

リト云ハントス。而シテ其ノ爾カ云フ所以ヲ論證スルガ、以下第二段ノ目的トスル所ナリ。

人類ハ既ニ家族ヲ成スニ至ルモ、猶ホ家族ノ集合體タル部落ヲ成スニ至リ得ザル時代ハ、蓋シ甚ダ久シキモノアラン。吾輩ハ之ヲ事實ニ徵シ、現時ニ於ケル蠻民中、此ノ如キ状態ニ停滯セルモノアルヲ以テ、其ノ第一ノ論據ト爲ス。次ギニ之ヲ理論ニ訴ヘテ考フルニ、經濟状態ノ甚ダ幼稚ナル時代ニ於イテ、多數ノ人類ガ一定ノ面積上ニ群住スルコトハ本來不可能ナルガ故ニ、太古原始ノ人類ガ當初ヨリシテ、既ニ家族以上ノ集合體ヲ組成シ居タリシモノト信ズル能ハズ。是レ其ノ第二ノ論據ナリ。

今マ先ヅ之ヲ事實ニ徵センニ、現時ニ於ケル蠻民中、纔ニ家族ヲ成スニ止マリ、家族ソノモノ、集合體ニ至ツテハ殆ド之ヲ有セズト謂ツテ不可ナキモノ少カラズ。例ヘバセーロン島ノエッター族ハ最下等ノ蠻民ナルガ、今マ其ノ社會状態ヲ誌セシモノヲ見ルニ、ブライドハムハ曰ク、彼等ハ夫婦ニシテ共棲スルニ過ギズ、而シテ多數人ノ集合ヲ見ルハ極メテ稀ナリト。(註二) ベイレールハ曰ク、彼等ハ家族ヲ成シテ各地

ニ散在ス、而シテ散在セル是等家族ノ間ニハ殆ド何等ノ交通アルコトナシト。(註二) サラシンハ曰ク、彼等ハ家族ヲ成シテ各地ニ散在シ、狩獵ニ依リテ生活ス。男子ハ其ノ妻子ト共ニ一定ノ狩場ヲ有シ、晴天ニハ共ニ其ノ狩場ニ出デテ互ニ狩獵ニ從事シ、雨天ニ際シテハ二三ノ狩場ノ中央ニ當レル丘ノ上ニ其等ノ狩場ヲ占有シツ、アル二三ノ家族相集リ、共ニ一ノ洞穴ニ入りテ雨ヲ避ク。而シテ時トシテハ、是等家族ノ集合ハ暫ク繼續セラル、コトアリ。乍併、縦ヒ是等家族ノ集合ニシテ暫時繼續セラル、コトアルモ、其ノ集合體ニハ殆ド組織ト稱スベキモノ無ク、其ノ職分ト稱スベキモノモ亦タ殆ドコレアルコトナシ。要スルニ、彼等ハ家族ト云ヘル狭キ範圍ノ外ニハ殆ド何等ノ組織的共同生活ヲ解セズ。各家族ハ各々孤立ノ状態ニアリト。(註三) ヤーガン族ノ社會状態モ亦タ、エッター族ト大差アルコトナシ。コノ蠻族ハ漁撈的彷徨生活ヲ爲シツ、アルガ、其ノ彷徨ガ凡ソ一定ノ範圍ヲ有スルハ、先キニ述ベタルエッター族ガ一定ノ狩場ヲ有スルト相似タリ。彼等ハ丸木舟ニ乗ジテ、其ノ漁場トセル範圍ヲバ、灣ヨリ灣ニ、島ヨリ島ニト漂泊シテ生活スルモノナルガ、其ノ漂泊ニ當リテハ更ニ秩序アルコト無ク、偶々全部落ノモノ一處ニ集合スルコトアル

モ、其ノ機會ハ極メテ稀ニシテ且ツ多クハ偶然ノ出來事タルニ過ギズ。(註四) 猶ホ此ノ如キ例ハ甚ダ多シ。(註五)

(註一) Pritham, Account of Ceylon. (Westernarek, History, etc., p. 43. ニ引ク所)。

(註二) Bailey, The Wild Tribes of the Veddahs of Ceylon, (同上)

(註三) Sarasin, Ergebnisse naturwissenschaftlicher Forschung auf Ceylon in den Jahren 1884-86. (Hobhouse, vol. I, p. 43. ニ引ク所)。

(註四) プライダスガウエスターマーケニ報告セシ所(前掲書四五頁)及ヒ Hyades and Deniker, Mission Scientifique du Cap Horn, 1891. (ホップハウス前掲書四五頁)ニ引ク所ニ據ル。

(註五) Thomas, p. 68. Hobhouse, vol. I, p. 43 et seq. Hall, Crime in its Relations to Social Progress, pp. 51-54. Westernarek, p. 43 et seq. 等ヲ參照セヨ。今マ試ニ其ノ數例ヲ更ニ附記シ置カバ、例ヘバフエジアン族ノ如キモ家族ヲ成シ居ルノミニテ、家族以上ノ團結ヲ有セズ、只々纒ニ共同防衛ノ必要ヲ生ジタル際ノミ時々數家族ノ集合ヲ見ルコトアレドモ、依然酋長ヲ認ムニ至ラズ。プツシユマン族モ殆ド家族以上ノ團體ヲ有セズ。時トシテ數家族ノ集合ヲ見ルコトアレドモ、ソレハ殆ド偶然ノ出來事ニシテ決シテ之ヲ支配スベキ規則アルコトナシ。ブラジルニ於ケル蠻民ノ状態モ亦々之ニ類スルモノ多シ。例ヘバカノボトクド一族ノ如キ、是等ノ蠻民ヲ互ニ結合セシムル者ハ只ダ家族ト云ヘル連鎖アルノミト稱セラル。ウード、インヂアンモ一ノ家族ハ他ノ家族ヨリ遠ク距リテ生活ス』ト云ヘリ。コロアド一族モ亦々『何等ノ社會的團結ヲ有セズ、家族ノ連絡サヘ甚ダ疎ナル程ナリ』ト云フ。又タエスキモ一族ノ一種ナルトギアガムト一族ノ如キモ『各家族ハ互ニ最モ完全ナル獨立ノ状態

ヲ保チツ、アリテ、其ノ間ニハ交通往來サヘ絶ヘテ是レ無キモノ、如シト云ヘリ。

以上記述セルガ如ク、之ヲ事實ニ徴スルニ、現存セル蠻民中、纔ニ家族ヲ成スニ止マリ、未ダ家族ソノモノ、集合體ヲ成スニ至ラザルモノ少シトセズ。而シテ今マ之ヲ理論ニ訴ヘテ考フルモ幼稚ナル人類ノ社會狀態ハ、理正ニ此ノ如クナラザルベカラザル所以アリ。蓋シ文明ノ程度低ケレバ低キホド、其ノ生活資料ハ益々之ヲ天與ノ產物ニ依頼スルモノナレバ、一定ノ面積ノ上ニ生活シ得ル人口ハ、文明ノ程度ノ後ル、ニ從フテ減少スベキモノナリ。ラッツェルノ云フ所(註二)ニ據レバ、草原ノ狩獵民ガ一平方哩ノ面積ノ上ニ住ミ得ル人口數ハ、十分ノ一乃至十分ノ五人ナリト云ヘリ。換言スレバ、其ノ一人ノ生活ヲ支フルニ必要ナル土地ハ二平方哩乃至十平方哩ノ面積ヲ有セザルベカラズ。然ラバ假リニ一家族ノ人口五人トセバ、其ノ一家族ノ生活ヲ支フルニ必要ナル土地ハ、十平方哩乃至五十方哩ノ面積ヲ有セザルベカラズ。即チ此ノ如キ狩獵民ニアリテハ、十平方哩乃至五十方哩毎ニ一家族宛ノ散在ヲ見ルノ道理ナリ。此ノ如ク彼等ハ廣大ノ面積ニ散布シツ、而カモ殆ド何等ノ交通機關ヲ有セザルコトナレバ、十數乃至數十ノ家族ガ一定ノ組織ノ下ニ一ノ部落

ヲ成シテ共同ノ生活ヲ營ミ得ザルハ勿論、一定ノ地域ニ集住スルコト其レ自身モ亦タ不可能ノコト、云ハザルベカラズ。今マ前ニ掲ゲタルエッダー、ブッシュマン等ノ諸族ハ、即チ此ノ如キ程度ニ停滯セル蠻民ニ過ギザレバ、彼等ガ纔ニ家族ヲ成スニ止リ、未ダ以テ家族以上ノ集合體ヲ成スニ至リ得ザルハ、當然ノ現象、必致ノ狀態ト爲サザルベカラザルナリ。

(註一) 文明ノ進歩ニ伴フテ、一定ノ面積ノ上ニ生活シ得ル人口ノ數ハ次第ニ増加ス、今マラッツェルノ研究ニ據レバ、其ノ關係大要左表ノ如シト云フ。

	一平方哩ニ住 ミ得ル人口數	一平方 ルニ住 ミ得ル人口數
北方ノ狩獵民及ヒ漁撈民	〇一—〇三	〇〇〇—〇〇〇五三
草原ノ狩獵民	〇一—〇五	〇〇〇—〇一七〇〇〇八八
多少ノ手鋤耕作乃至農耕ヲ解セル狩獵民	一〇—四〇	〇一七—〇七〇
海岸、河流、島嶼ニ於ケル漁撈民	一〇〇	一七七
遊牧民	四〇—一〇〇	〇七〇—一七七
多少ノ工藝及ヒ交易ヲ解セル農耕民	一〇〇—三〇〇	一七—五三
農耕ニ從事セル熱帶地方ノ遊牧民	二〇〇—五〇〇	三四—八九
基督降誕前農耕及ヒ牧畜ニ從事セシ地方 ノインドゲルマン人種	二八二—六七五	五—一二

人類原始ノ生活

手鋤耕作及ビ農耕ヲ副業トセル熱帶地方ノ漁民	五〇〇	八九
歐洲風ノ耕作ニ從事セル未開人又ハ歐洲中氣候不長ナル部分ノ農民	五〇〇	八九
三國農業又ハ之ニ類似ノ農業ニ從事セル中央及ヒ南方歐洲ノ住民	一〇〇〇—一五〇〇	一七七—二六六
紀元後百年ニ至ル中部歐洲ノ住民等	一〇〇〇—一五〇〇	一七七—二六六
千六百年ヨリ千八百五十年ニ至ル間農業ノ外既ニ工業ノ發達ヲ見ルニ至リシ頃ノ歐洲中部ノ住民	一五〇〇—二〇〇〇	二六—三五
現時ニ於ケル南方歐洲ノ農業地方ノ住民	四〇〇〇	七〇
現時ニ於ケル中部歐洲ノ農工地方ノ住民	四〇〇〇—六〇〇〇	七〇—一〇六
インド、ジャバ、支那ニ於ケル現時ノ集約的農民	一〇〇〇〇	七一七
歐洲ニ於ケル大工業地方及ヒ大商業都市	一五〇〇〇	二六六

右ノ一表ハ Schnoller, Grundriss der allgemeinen Volkswirtschaftslehre, S. 183. ニ掲載セル所ヲ譯出セシモノナルガ、或ハ譯字ノ穩當ナラザルモアラシク、讀者精確ノ智識ヲ欲セラル、時ハ、必ス原本ニ就イテ對照セラルベシ。

太古原始ノ人類ガ何ヲ以テ其ノ生活資料トセシヤハ今明カナラズ。併シ乍ラ其生活ノ資料ハ殆ド全ク之ヲ天與ノ產物ニ仰ギタルモノナルハ疑ヲ容レズ。從フテ一家族ノ人口ヲ養フニ要シタル土地ノ面積ハ頗ル廣大ナリシニ相違ナク、其ノ必然

ノ結果トシテ、彼等ガ到底家族以上ノ集合體ヲ成シ能ハザリシヤハ亦タ論ヲ待タズ。今マ太古原始ノ人類ガ、假リニ植物性ノ食料ヲ以テ其ノ生活資料ト爲シタリトセンカ、其ノ生活狀態ハ現時ニ於ケル類人猿ノソレノ如カリシナラン。凡テノ植物ハ未ダ曾テ人爲ノ淘汰ヲ經ザルガ故ニ、縦ヒ如何ニ多ク繁茂シ居タリトスルモ人類ノ用ニ供スベキ部分ハ極メテ僅ナリシニ相違ナク、從ツテ僅ニ一人ノ生活資料ニ充ツベキ草根木實ヲ得ルガ爲メニモ、極メテ廣大ノ面積ヲ必要トシタリシニ相違ナシ。彼等如何デカ家族以上ノ部落ヲ成シテ一定ノ地域内ニ集住スルコトヲ得ン。現ニ類人猿ノ如キ、其ノ或ル者ハ菓實ノ成熟スル時ヲ待ツテ始メテ群住スルヲ見ルト云フ(註二)思フニ太古原始ノ人類モ恐ラク亦タ此ノ如クナリシナラン。假リニ又タ、太古原始ノ人類ガ動物性食料ヲ以テ其ノ生活資料ト爲シタルモノトセンカ、是等ノ動物ソレ自身ガ既ニ各地ニ散在セシモノナルガ故ニ、之ヲ食料トセル人類モ亦タ各地ニ散住セザルヲ得ザルナリ。況ンヤ其ノ狩獵ノ方法ハ極メテ幼稚ニシテ武器ノ使用モ亦タ是レアラザリシナルベク、或ハ圈套ヲ用ヒ、或ハ密ニ其ノ獸類ニ近接スル等ノコトニ依リテ、纔ニ之ヲ捕ヘ得タルモノナルベキヲ以テ、多數人

集合シテ狩獵ニ從事スルガ如キハ其ノ最モ不便トセシ所タルヤ疑ナシ(註二)要スルニ如何ナル點ヨリ考フルモ太古原始ノ人類ガ家族以上ノ團體ヲ成シテ生活シ居タリシモノトハ吾人ノ殆ド想像スルヲ得ザル所ナリ。

(註一) Westermarck, The Origin and Development of the Moral Ideas, vol. II, p. 195.

(註二) Spencer, Principles of Psychology, vol. p. 558.

(三)

以上ヲ以テ吾輩ハ家族ガ最原始時代ニ於ケル人類唯一ノ共同的生活團體ナリト云フ所以ヲ論ジタリ。今マ此ノ如キ時代ヲ以テ經濟前史ノ第一期ト爲ス。而シテ第二期ニ入ルニ及ンデハ其ノ狀態稍々變化シ來ル。思フニ前ニ述ベタル如キノ家族ガ如何ナル條件ヲ具ヘ如何ナル經過ヲ踏ムコトニ依ツテ、數百數千ノ家族ヲ包括スル一ノ社會的團體ヲ爲スニ至ルモノナルカハ、茲ニ之ヲ詳説スルコトヲ得ズト雖モ、而カモ經濟的生活ノ發達及ビ之ニ伴フ精神的生活ノ發達ニ伴フテ、數十數百ノ家族次第ニ一定ノ地域ニ集住スルニ至ルハ疑フベカラズ。而シテ其ノ集住セル家族ノ數ハ、文明ノ進歩ニ伴フテ徐々ニ増加スルト同時ニ、其ノ間ニ於イテ組織ト

稱スベキモノ又々漸々ニ發生スルヲ見ル。コレ吾輩ノ所謂第二期以後ノ時代ニ於ケル社會的状態ナリ。

野蠻民族ガ家族以上ノ團體ヲ有セザル證據トシテ、吾輩ハ先キニ二三ノ實例ヲ掲ゲ置キタリ。乍併、是等蠻民ノ社會状態ニ徴スルモ、數家族ノ集合體ハ既ニ其ノ萌芽ヲ發シツ、アルヲ見ル。例ヘバエッダー族ノ如キハ、既ニ述ベタルガ如ク時トシテ二三ノ家族一處ニ集合シテ生活スルコトアリ。或ハ曰フ、其ノ集合體ノ人員ハ六十ヲ數フニ至ルモノアリト。(註一)乍併、是等ノ集合體ハ眞ニ單純ナル集合ニシテ殆ド何等ノ組織ヲ有セズ又々殆ド何等ノ職分ヲ有セザルモノナルコトハ、既ニ述ベタルガ如シ。又々次ギニ舉ゲタルヤーガン族ノ如キモ、時トシテハ一個ノ小舎ノ中ニ多數ノ家族集合シテ生活セルコトアリ。或ハ曰フ、其ノ集合體ハ二家族ヲ以テ普通トスルモ、時トシテハ五家族ニ上ルコトアリト。(註二)或ハ曰フ、三家族又ハ四家族ヲ以テ普通トスト。(註三)又タブッシュマン族ノ如キモ、時トシテハ數家族集合シテ一體ヲ爲スコトアリトハ既ニ述ベタル所ナルガ、其ノ集合體ハ或ハ平均二十五家族ヨリ成ルト云フモノアリ。(註四)或ハ十四人乃至四十人ヨリ成ルト云フモノアリ。(註五)其

ノ他ネグリト族ニ在ツテハ其ノ集合體ノ人員約二十五人ヲ普通トシ、時ニ五十人ニ上ルコトアリ。(註六)マレー半島ノセマング族ノ如キ、其ノ集合體ハ二十人乃至八十人ニ及ベリ。(註七)今マースーランドハ是等最下等ノ蠻民間ニ發見セラル、集合體ノ人員ヲ、八人種ニ關スル材料ヲ基礎トシテ平均四十人ト算定シタリ。(註八)

(註一) Sutherland, The Origin, etc., vol. I, p. 360.

(註二) (註三) Westermarck, The History, etc., p. 44.

(註三) Barrow, Travels into the Interior of Southern Africa, 1801, vol. I, p. 275—Hall, Crime and Social Progress, p. 52. 11

引ク所。

(註四) (註五) (註六) (註七) (註八) Sutherland, The Origin, etc., vol. I, p. 360 et seq.

更ニ進んで蠻民中稍々進歩シタルモノ、集合體ヲ檢スルニ、タスマニア人ノ如キハ千八百三十年始メテ歐人ニ依ツテ發見サレタル頃、約三百人ヨリ成レル集合體ヲ有シ居タリト云ヘド、(註一)フュリアン人ニアツテハ數家族ノ集合ヲ見シノミニテ(註二)其ノ人員四十ヲ超ユルモノ殆ドコレナカリシト云フ。(註三)濠洲ノ黑人ハ約百五十人ヨリ成ル集合體ヲ有セシト云フモ、(註四)其ノ集合體ニハ何等ノ組織アルコトナク、其ノ團體ヲ指揮スベキ者ハ全ク之ヲ缺如セシト云フ。(註五)猶ホホッテント

ト人ハ其ノ始メテ發見セラレシ時、既ニ百人乃至四人ヨリ成レル集族體ヲ有シ、ラジルノ蠻民ハ同ジク百人ヨリ三百人ニ至ル集合體ヲ有セルモノアリタリト云フ。(註六)スーサーランドハ是等中等蠻民間ニ於イテ發見セラル、集合體ノ人員ヲ平均シテ、平均百五十ト算定シタリ。(註七)

(註一) (註三) (註四) (註六) (註七) Sutherland, vol. I, p. 360 et seq.

(註二) Westermarck, The History, etc., p. 44 et seq.

(註五) Carr, The Australian Race, 1886, vol. I, p. 60. ホール前掲書ニ引ク所。

此ノ如ク最下等ノ蠻民及ビ中等蠻民間ニ在ツテモ、文明ノ進歩ニ伴フテ數家族又ハ數十ノ家族ノ集住ヲ見ルト雖モ、茲ニ注意スベキハ、是等家族ノ集合體ハ眞ニ單純ナル集合體ニシテ、之ヲ支配スベキ酋長ナキハ勿論、其ノ集合體ニハ殆ド何等ノ組織又ハ職分ト稱スベキモノナキコト是レナリ。(此ノ事ハ既ニ其ノ實例ヲ掲グル際、間々注意シ置キタレドモ、猶ホ茲ニ纏メテ讀者ノ注意ヲ要求シ置クナリ)是ノ故ニ、縦ヒ數十ノ家族既ニ一定ノ地域ニ集住スト云ヘドモ、之ヲ以テ一ノ社會的團體ト看做スベカラズ。蓋シ社會的團體ト云フ時ハ、單純ナル人ノ集合ヲ指スニ非ラ

ズシテ、一定ノ目的ヲ共同シテ遂行センガ爲メニ生ジタル組織的團體ヲ指スモノナリ。今マ此ノ如キ團體ヲ以テ、最下等ノ蠻民乃至中等蠻民ノ間ニ存在スト爲スコト勿レ。

若シ進ミテ高等蠻民ノ社會狀態ヲ檢センカ、其ノ集合體ノ人員ハ愈々増加シテ數百數千ニ及ブト同時ニ、酋長ナルモノ漸ク定マリ、其ノ集合體ハ稍々組織的團結タルノ色彩ヲ帶ビ來ルノミナラズ、一ノ集合體ト他ノ集合體トノ間ニ於テ一定ノ社會的關係ヲサヘ生ジ來ルモノナリ。例ヘババタゴニア人及ビアラッカニア人ノ如キ、數百人ヨリ成レル團體ヲ以テ漂泊的生活ヲ爲シツ、アルガ、是等ノ團體ハ時ニ聯合シテ平均約三千人ノ集團ヲ成スコトアリト云フ。スーサランドハ此ノ程度ニ屬セル蠻民三十三種ニ就キ、其ノ集合體ノ人員ヲ平均シテ約三百六十人ト算定シタリ。(註二)

(註一) Sutherland, vol. I, p. 369 et seq.

此ノ如ク高等蠻民ノ間ニ於ケル集合體ハ、既ニ稍々組織的團結タルノ色彩ヲ帶ビ來ルト雖モ、而カモ其ノ秩序アリ、組織アリ、明確ニ社會的團結タルノ性質ヲ完備ス

ルハ、是等ノ蠻民ガ土地ニ定着スルニ至リタル後ノコト也。蓋シ人類ノ土着ハ、ソガ歴史上ニ於ケル一大階段ト云フヲ妨グズ、此ノ階段ヲ經ルコトニ依リテ、食料ノ採取ハ變ジテ育成トナリ、集合體ノ人員ハ俄ニ増加シ、蠻民ハ進シテ未開人トナリ、所謂祖先崇拜テフ宗教的信仰ノ萌芽ハ茲ニ始メテ彼等ノ思想上ニ發生シ來ル。而シテ一タビ祖先崇拜ノ思想ニシテ發生センカ、祖先ヲ同ウセル(及ビ同ウスト信セル)數百數千ノ家族ハ、茲ニ始メテ共同ノ思想、共同ノ目的ノ下ニ、相集ツテ所謂血族的團體ヲ組成スルニ至ル。是レ即チ今日謂フ所ノ國家ナルモノ、淵源ニシテ、此ノ血族的團體アルニ至ツテ人類ハ始メテ家族以上ノ社會的團結ヲ有スルニ至ルモノトス。

是ノ故ニ、吾輩ハ曰フ、家族先ヅアリ、而シテ後漸クニシテ部落ヲ生ズ、既ニ部落生ズト雖モ、未ダ以テ組織的社會團體タルコトヲ得ズ、極メテ長キ進化ノ過程ヲ經テ、後漸クニシテ數百數千ノ家族ヲ包括スル組織的社會團體ノ發生ヲ見ルト。若シ夫レ人類ノ土着以後ニ於ケル社會的團體ノ歴史ニ至ツテハ、本論範圍ノ外ニアリ。故ニ本章社會的團體ノ發展ヲ説クコト、茲ニ之ヲ以テ終リト爲ス。

第六章 人類原始ノ男女關係

吾輩ハ本章ニ於イテ、原始時代ニ於ケル男女ノ經濟的關係ヲ説カントス。今マ吾輩ノ見ル所ニ據レバ、人類ノ歴史ノ第一期ニ於イテモ、少クモ家族ヲ成セル男女ノ間ニハ仕事ノ分擔既ニ行ハレタルモノニテ、更ニ進ミテ第二期ニ入ランカ、男女ノ分業ハ廣ク社會ヲ通ジテ行ハレタルモノト信ズ、而シテ爾カ云フ所以ヲ論證スルガ、以下本章ノ目的トスル所ナリ。

(一)

如何ニ幼稚ナル人類ト雖モ、其ノ子ノ養育保護ノ爲メニハ必ズ婚姻ヲ爲シ家族ヲ成スモノナルコトハ、吾輩ノ既ニ前章ニ於イテ述べタル所ナリ。故ニ如何ニ最原始ノ時代ト雖モ、少クトモ婚姻ヲ爲セル男女ノ間ニハ、少クトモ其ノ婚姻關係ノ繼續セラル、限リ、一定ノ共同生活ヲ營ミシモノタルニ相違ナキナリ。ブユッヘルハ經濟發生以前ノ時代ヲ名ケテ個人的食料探索ノ時代ト爲シタリキ。(註一)ゲニ氏ノ云ヘルガ如ク、人類原始ノ状態ハ之ヲ名ケテ個人的ト云フモ多ク妨ゲナキ也。例ヘバマレール半島ノ蠻人タルマントラ族ニアリテハ、『自由ハ彼等ノ生存ノ爲メ實ニ必要ナル者ノ如ク、各個人ハ眞ニ唯我獨存ノ生活ヲ爲シツ、アリ』(註二)ト云ヒ、又タ

ホルネヲ内地ノ蠻人ハ『毫モ他人ト共同スルコトナシ』(註三)ト云フガ如キハ、即チ其ノ生活状態ノ一斑ヲ示スニ足ルモノナリ。乍併、如何ニ個人孤獨ノ生活ヲ送リツツアル蠻人ト雖モ、既ニ男女アリテ子ヲ舉グルニ至ラバ、彼等ハ其ノ子ノ養育保護ノ爲メニ多クハ婚姻ヲ爲シ家族ヲ成ス者ナルガ故ニ、各個人ガ凡テ孤立自營ノ状態ヲ保チシ時代ハ、人類ノ歴史ニ於イテ嘗テコレアリシニ非ズ。サレバ、原始時代ヲ名ケテ個人的食料探索ノ時代ト云フ、必ズジモ不可アルナシト雖モ、而カモ既ニ家族アリシ以上、是等家族ノ各員ハ、多少ノ程度ニ於イテ早ク既ニ共同的食料探索ニ従事シ居タルコトアルヲ忘ルベカラズ。

(註一) Bücher, Entstehung der Volkswirtschaft, S. 27.

(註二) Spencer, Principle of Sociology, vol. I, p. 61 et seq.

然ラバ敢テ問フ、是等家族間ニ於ケル男女ノ經濟的關係ハ如何。今マ此ノ問題ニ答フルガ爲メニハ、吾等ハ男女間ニ於ケル生理的差異如何ヲ一瞥スルノ必要アリ。原始時代ニ於ケル男女間ノ生理的差異如何ハ、今マ詳細ニ之ヲ知ルヲ得ズト雖モ、少クトモ女子ハ子ヲ産ミ男子ハ然ラズト云フノ差異アリシハ固ヨリ疑フヲ須ヒ

ズ。而シテ吾輩ハ此ノ妊娠分娩ノ有無ヲ以テ、男女間ニ於ケル生理的差異ノ根源タリ、引イテハ又其ノ精神的乃至社會的差異ノ根源タリシモノト信ズ。言葉ヲ切ニシテ之ヲ言ハ、男女間ニ於ケル一切ノ差異、一切ノ關係ハ、其ノ生殖器ヲ異ニスト云フノ一事ニ、之ガ根源ヲ發スト云ヒテ不可ナカルベシ。現ニ女子ニシテ其ノ卵巢ヲ切除セシガ爲メニ、男性的性質ヲ有スルニ至リタルノ例少カラザルノミナラズ、嘗テ牝鹿ノ卵巢ヲ切除セシニ、牡鹿ノ如キ角ヲ生ズルニ至リタリト云フガ如キ例アルハ、如何ニ生殖器ノ相違ガ、其ノ男女間ニ於ケル一切ノ差異ノ根源ヲ爲スヤラ證スルニ足ルモノナリ。

男女間ニ於ケル生理的差異ノ最モ著シモノハ、男子ハ女子ニ比シテ筋肉ニ富ミ、女子ハ男子ニ比シテ脂肪ニ富ムト云フノ點ニアリ。例ヘバビシヨップガ災害ノ爲メニ死シタル健康體ノ男女男子三十三人、女子二十二人及小兒十六人ヲ解剖シテ得タル結果ト云フヲ見ルニ、男女間ニ於ケル筋肉脂肪ノ割合ハ左ノ如クナリシト云フ。

(註一)

筋力	男子	女子	小兒
	四一、一八	三五、八	四四、二

脂肪 一八二 二八二 一三、九

更ニエール大學ニ於イテ二千三百人ノ學生ニ就キ調査シタルモノト、オーヴァーリ
ン専門學校ニ於イテ千六百人ノ女學生ニ就キ調査シタルモノトヲ材料トシテ、男女兩性間ニ於ケル筋肉ノ強弱ヲ比較スレバ、體重ノ差異ヲ差引クモ猶ホ男子ノ筋肉ハ女子ノ筋肉ニ比シ二倍以上ノ強サヲ有シタリト云フ。(註三)此ノ如キ例ハ猶ホ少カラザルベク、(註三)要スルニ男子ハ筋肉ニ富ミ女子ハ脂肪ニ富ムト云フコトガ、男女間ニ於ケル生理上ノ差異ノ著シキモノタルハ、多クノ學者ノ認ムル所ニシテ疑ヲ容レザルノ事實ナリ。(註四)

(註一) Thomas, Sex and Society, p. 30.

(註二) (註三) *Zeit.*, p. 22, et seq.

(註四) Die Muskelfaser des Mannes ist straffer als die des Weibes; die Gesamtstruktur der normalentwickelten Weibes erreicht nicht ein Drittel des ganzen Körpergewichtes, während sie bei dem erwachsenen Manne durchschnittlich über ein Drittel hinausgeht. (Rösler, Die Frauenfrage, S. 19ff.) 『筋力ト云フモノハ……男子ノ方が優レテ丈夫デ大キク出來テ居ル……脂肪ノ部分ハ……女ノ方が優レテ、男子ヨリ遙ニ女子ノ方が餘計デアアル』(三宅醫學博士) 猶ホ東洋學藝雜誌、二五六、七八號連載、同博士ノ講演速記、『身體上男女ノ別ニ就イテ』ノ一篇ハ、吾等門外漢ヲ益スルコト最モ多シ。本章ニ記述セル以上ノ智識ヲ、最モ簡單ニ得ント欲セ

ラル、讀者ハ先ヅ右ノ講演速記ヲ一讀セラルベシ

今マ何ガ故ニ、男子ニハ筋肉多クシテ脂肪少ク、女子ニハ脂肪多クシテ筋肉少キヤト云フニ、吾輩ノ既ニ述ベタルガ如ク、女子ニハ妊娠分娩ト云フコトアリテ男子ニハ是レナキコトガ、此ノ如キ差異ヲ生ズルニ至リタル根本ノ原因ナリト信ズ。蓋シ女子ハ自己ノ生活ヲ維持スルノ必要アルノミナラズ、妊娠中ハ子ヲ胎内ニ養育シ出産後ハ又タ授乳シテ之ヲ養育スルノ必要アルガ故ニ、女子ノ體質ハ脂肪多カラザルヲ得ザルト同時ニ、既ニ脂肪多カラザルヲ得ザルガ故ニ、其ノ筋肉ハ充分ニ發達スルコトヲ得ザルナリ。(註一)

(註一) 『脂肪ガ男ノ身體ニ少クテ女ノ身體ニ餘計有ルト云フノハ何ノ爲デアラウカ、其理由ハ附ケ難イデアリマスケレドモ、強イテ論ズレバ、先ヅ女ト云フモノハ子供ヲ育テルノガ天職デアルトシテ見マス、脂肪チ女ノ身體テ餘計製造スルト云フコトガ、天カラ授ゲラレテ居ラナケレバ子供ヲ育テルコトガ出来ナイ、誰モ怪シマズニ居マスケレドモ、子供ノ飲ンデ居ル乳ト云フモノハ専ラ脂肪デアル、アノ子供ヲ育テルダケノ脂肪チ類ニ製造シテ、サウシテ我子ヲ養ツテ居ル、身體ノ中ニ大脂肪製造所ヲ持ツテ居リマセヌケレバ、男ト違ツテ子供ヲ育テ、行クコトガ出来マセヌ(三宅醫學博士、前掲講演參照)

思フニ事物ノ特化ハ凡テ進化ノ産物ニ外ナラザルガ故ニ、現時ニ於ケル男女間ノ

生理的差異ハ、古ニ遡ルニ從フテ次第ニ其ノ範圍ト程度トヲ減少スルニ相違ナク、即チ原始時代ニ於ケル男女ハ互ニ相酷似シタリシニハ相違ナキモ、而カモ既ニ述ブルガ如ク、筋肉及ビ脂肪ノ多少ハ男女ソノモノニ固有セル生殖器ノ差異ニ原因スト認ムベキモノナルガ故ニ、其ノ差異ノ程度ハ如何ニ少クトモ、兎モ角、此ノ如キ差異ハ原始人類ニモ亦タ存在シタルニ相違ナシ。若シ果シテ然リトセバ、男子ハ活動的ニシテ女子ハ静止的ナリ。(註二)男子ハ消費的ニシテ女子ハ貯蓄的ナリ。(註三)男子ハ動物的ニシテ女子ハ植物的ナリ。(註三)ト云フガ如キ、種々ノ言葉ニテ言ヒ表ハサル、男女間ノ一切ノ差異ハ、其ノ程度コソ異レ、古ヘモ猶ホ今ノ如カリシナルベシ。

(註一) 筋肉ニ富ム男子ガ活動的ニシテ、脂肪ニ富ム女子ガ静止的ナルハ言ヲ待タザレドモ、其ノ外男女ハ其ノ血液ノ性質ヲ異ニスルコトモ亦タ、男子ハ活動的ニシテ女子ハ静止的ナリト云フ主要ノ一原因ナランガ、只ダ太古原始ノ人類ガ如何ナル血液ヲ有セシヤノ確ナラザルガ爲メ、本文ニハ特ニ之ヲ省略シ置キタリ。三宅醫學博士曰ク『男ノ血ハ濃ク、女ノ血ハ稀イ、男子ノ血液ハ千分中ニ水分七百八十四ヲ含メドモ女子ノ血液ハ水分八百八分ヲ含ミマス、……男ノ筋肉ハ丈夫ニ出来テ居ル上ニ、之ヲ養フ血ガ養分ニ富ンダ濃イ血デアルカラ、ソレ故男ノ方ガ勞力ニ久シク

耐ヘル、血液ノ濃淡ノ差ハ凡テノ相異ノ原ニナツテ行ク『東洋學藝雜誌二五七號。尙ホトーマスハ男子ノ血液ハ女子ノ血液ニ比シ血球ニ富ムコト、比重ノ重キコト等ニ就イテ種々ノ學者ノ調査ノ結果ヲ列擧シ、rich, red blood chara-terizes the forms of life fitted for activity and bursts of energy』ト論シタリ。委細ハ Thomas, Sex and Society, p. 30 et seq. ヲ見ヨ。スレルモ亦々等シク男女間ニ血液ノ差異アルコトヲ指摘シタリ。(Rösler, S. 20)

註二) 男子ノ方、體力消費ノ大ナルコトハ、其ノ尿ノ排泄量ニ依リテモ一斑ヲ知ルコトヲ得ベシ。即チ男子ノ平均一日ノ排尿量ハ千「グラム」ヨリ二千「グラム」ナレドモ、女子ニアツテハ千「グラム」ヨリ千四百「グラム」ニ過ギズト云フ。(Thomas, p. 34.) 其ノ外、女子ガ好ンテ粉質糖分ヲ其ノ食料トスルコトモ注意スルニ値ス。『何故ニ粉質ヤ糖分ヲ好ンテ食ベルカト云フニ、女子ハ身體ニ脂肪ヲ貯蓄シナケレバナラヌ、成ルベク脂肪ヲ儉約シテ身體ニアル脂肪ヲ費サナイヤウ脂肪ヲ蓄ヘル爲ニ適當ナ物ヲ食ベナケレバナラヌカラ、粉質糖分ヲ喜ンテ食ベル……凡テ女子ハ萬事ニ約ヤカデ……自分ノ飲食シタ物ニ付テモ貯蓄的テ可成消費シナイ、之ニ反シテ男子ハ消費的ノ性質ヲ持テ居ル』前掲講演速記、參照。

(註三) "maleness and femaleness are merely a repetition of the contrast between the animal and the plant" (Thomas, p. 1.)

原始人類ニ在リテモ、男子ト女子トハ、先天的ニ此ノ如キ差異ヲ有シ、而シテ此ノ如キ差異ヲ有スル男女ガ、又々其ノ天性ニ本キ、子ノ養育保護ヲ中心トシ、相結合シテ家族ヲ成セシモノタルハ、既ニ述ベシガ如シ。是ノ故ニ、若シ分業ト云フ言葉ヲ、共同

生活ニ必要ナル仕事ヲ分擔スルノ意ニ解セバ、分業ノ起源ハ、遠ク原始時代ニ於ケル夫婦ノ間ニ始マレリト謂フヲ得ベク、而シテ其ノ所謂分業ノ基礎ガ、先キニ云フ所ノ男女間ニ於ケル生理的差異ニ本キシヤ言ヲ待タズ。即チ男子ハ外ニ出デ、猛獸乃至敵人ノ殺戮ニ從事シ、其ノ結果ハ家族ニ對スル食料ノ供給トナル、女子ハ内ニ在リテ幼兒ノ保育ニ從事シタリシ也。換言スレバ、男子ハ武事ニ從ヒ、女子ハ育兒ニ從フ、是レ即チ家族間ニ於ケル最原始ノ男女分業ナリ。(註一)(註二)猶ホ之ニ關聯シテ、生産的方面ニ於ケル人類ノ特徴タル道具ノ製造ハ、恐ラク主トシテ男子ニ依ツテ分擔サレタルナルベク、(最原始ノ道具ハ武器ト分化セザルガ故ニ斯ク云フ)、又タ消費的方面ニ於ケル人類ノ特徴タル火ノ使用ハ、恐ラク主トシテ女子ニ依ツテ分擔サレタルナラン。(原始時代ニ於イテハ發火ノ法ヲ知ラズ、又タ縱ヒ發火ノ法ヲ知ルト雖モ、其ノ方法ハ極メテ多クノ勞力ヲ要シタルモノナルガ故ニ、凡テ蠻人社會ニアリテハ、一旦火ヲ得ルトキハ之ヲ消サヌ様常ニ燃續シタルモノナリ、而シテ此ノ如キ注意ヲ爲スハ、當然靜止的狀態ヲ保テル女子ノ任務タルベキガ故ニ斯ク云フ)(註三)若シ夫レ是等最原始ノ分業以外ノモノニ至ツテハ、後段分業ノ變遷ヲ説

クノ條下ニ於イテ之ヲ述ブルノ機會アルベシ。

(註一) 'There is one duty so universal and obvious that it is seldom mentioned: the mother's duty to rear her children, provided that they are suffered to live. Another duty equally primitive, I believe, in the human race is incumbent on married man: the protection and support of his family.' (Westermarck, The Origin and Development of the Moral Ideas, vol. II, p. 526.)

(註二) 此ノ人類最原始ノ分業ニ在ツテ、男子ガ同類ノ絶滅殺戮ニ從事スルノ傍ヲ、女子ハ其ノ保育繁殖ニ從事スト云フガ如ク、其ノ分業ノ方面全ク相反シテ對立スルノ一事ハ、吾人ノ最も興味ヲ感ズル所ナリ。古人ハ人ヲ以テ小天地ト云ヘリシガ、此ノ點ニ於イテ、人類ハ實ニ有機界ノ縮圖ト謂フベキカ。例ヘバ動物ガ所謂酸化作用ヲ以テ其ノ特徴トシ、一切ノモノヲ燒キ盡スヲ任トスルニ反シ、植物ハ所謂類化作用ヲ以テ其ノ特徴トシ、一切ノモノヲ還元シテ更ニ薪ト爲スヲ任トスルガ如ク、原始以來、男子ハ人類界ノ動物トシテ常ニ破壊ノ方面ニ從事シ、女子ハ人類界ノ植物トシテ常ニ保成ノ方面ニ從事シ、斯クテ酸化ニ次グニ類化ヲ以テシ、類化ニ次グニ酸化ヲ以テシ、循環已ムコトナク、以テ進化ノ大業ヲ日ニ新タニシツ、アル也。

(註三) 'The Anthropological Series'ノ編纂者タルフレデリック、スタール教授ハ其ノ叢書ノ一ナル Woman's Share in Primitive Cultureニ序シテ曰ク『分業ハ發火法ノ發明ト共ニ起リ、而シテ其ノ分業ハ先ツ男女テフ性ノ上ニ行ハレタリ。男子ガ狩獵ノ爲メ野又ハ森ニ出デシ間ニ、女子ハ居残りテ火ヲ絶ヤサヌ様注意ヲ爲シ居タルモノニテ、其ノ時其ノ處ニ、世界ノ産業ト軍事トハ分レ出デタル也。男子ハ專ラ野獸及ビ其ノ同胞ヲ殺戮スルノ手段ニ熱心シ、カクテ凡テノ種類ノ殺戮的技術ノ發明者トナリ、女子ハ又タ爐邊ニ在ツテ、責任ノ負擔者トナリ、籃ヲ製造シ、織物ヲ織リ、陶器ヲ作り、農耕ヲ營

ミ、家畜ヲ馴致スル等ノコトヲ發明シ、カクテ一言ニシテ蔽ハレ、凡テ平和的技術ノ發明者ト爲ルニ至レリ。』

學者或ハ、男女間ニ於ケル生理上ノ差異ヲ以テ分業ノ結果ナリト爲シ、之ヲ以テ其ノ原因トスルヲ非難スルモノアリ。(註二) 思フニ吾輩ノ既ニ一言シ置キタルガ如ク、男女間ニ於ケル分業ノ結果トシテ、其ノ生理的差異ノ益々著シキヲ加ヘタルハ疑ヒナシ。乍併既ニ男女ト云フ以上ハ、如何ニ原始時代ノ人類ト雖モ、必ズ其ノ間ニ一定ノ生理的差異アリシニ相違ナキガ故ニ、吾輩ハ、即チ其ノ生理的差異ヲ以テ分業ノ起因トナス、而シテ既ニ分業起ラバ、其ノ分業ハ更ニ生理的差異ヲ生ズル原因トナリ、斯クテ分業ト生理的差異ト、其ニ原因結果ノ相互的關係ヲ有シ、一毫ノ差千里ノ差ヲ生ジテ以テ遂ニ今日ノ状態ニ至リシモノト信ズ。

(註一) ゲルソン (Gerson, Die physiologischen Grundlagen der Arbeitsteilung.—Zeitschrift für Socialwissenschaft, X, S. 679 中)ハ即チ其ノ一例ナリ。氏曰ク

In den Kulturvölkern der Gegenwart, wo infolge jahrtausendelanger Differenzierung das Weib körperlich ganz anders gearbetet ist als der Mann, mag das Weib allerdings für gewisse Männerberufe ganz und gar unfähig sein; aber auf den niedrigen Kulturstufen und noch in unserem Landvolk ist der körperliche Unterschied zwischen Mann und Weib—abgesehen von den gesch-

leichtlich charakterisierten Organen — nicht so bedeutend.

實ニ氏ノ言フガ如ク、原始時代ノ男女ハ今日ノ男女ノ如ク、著シキ生理上ノ差異ヲ有セシモノニハ非ザラン。乍併既ニ本文ニテ述ベタル如ク、苟クモ男女アリト云フ以上ハ、必ズ生殖器ノ相違ナルベカラズ、而シテ既ニ生殖器ノ相違アラバ、其ノ事ガ原因トナリテ、男女兩性ノ間ニハ、程度ノ大小コソアレ、兎モ角、種々ノ生理的乃至精神的差異ヲ併發セズンバ、已マザルモノナリ。然ルニ氏ガ『姑ク此ノ生殖器ノ差異ヲ舍イテ』論ゼントスルハ、吾輩ノ採ラザル所ナリ。

此ノ如ク氏ハ男女間ニ於ケル原始的分業ヲ以テ其ノ生理上ノ差異ニ起因スルニ非ズト爲スガ故ニ、已ムナク之ヲ習慣ニ起因スト爲シ、而シテ此ノ如キ習慣ヲ有スル人種、即チ男子ガ狩獵戰闘ニ従事スル人種ニアリテハ、其ノ習慣ノ爲メ益々戰闘力ヲ強メ遂ニ生存競争上ノ優者トナルニ反シ、此ノ如キ習慣ヲ有セザルモノハ、其ノ戰闘力發達セザルガ爲メニ、遂ニ生存競争上ノ敗者トナリシモノナリト説ケリ。其ノ言ニ曰ク、

Es können demnach nicht körperliche oder geistige Unterschiede sein, die die Arbeitsteilung zwischen Mann und Weib in den Anfängen der Kultur durchsetzen; die entscheidende Macht übt vielmehr die Sitte aus..... Wir greifen wohl nicht fehl, wenn wir den Grund für den geschichteten Urzustand der Arbeitsteilung darin erblicken, dass durch die ausschliessliche Beschäftigung des Mannes mit Jagd und Krieg dessen Wehrfähigkeit gesteigert wird, und dass umgekehrt durch die Beschäftigung des Mannes mit hauswirtschaftlichen und gewerblichen Arbeiten seine Wehrfähigkeit gemindert wird. Dass im Kampfe ums Dasein diejenigen Völker erhalten bleiben, deren Menschheit die grösste Wehrfähigkeit besass und dass die Sitte demnach jene Lebensweise und Betätigung des Mannes sanktionieren musste, bei welcher seine Wehrfähigkeit wuchs,

ist klar.

吾輩ト雖モ、男子ガ狩獵ニ従事スルコトニ依リテ大ニ其ノ戰闘力ヲ養成セシコトヲ認ム。現ニ吾國ノ封建時代ニ於イテハ、狩獵ハ武士ガ武ヲ鍊ル爲メノ遊戯トシテ屢々行ハレタルノミナラズ、今モ猶ホ尙武ノ氣象ヲ養成スト云フ目的ニ依リテ毎年御獵ノ御催アルガ如シ。乍併、何故ニ武ヲ鍊ルコトガ主トシテ男子ノ職務トナリシカト云ヘバ、ソハ生理上ニ於ケル男子ノ特徴ニ歸セザルベカラズ。殊ニ吾輩ノ注意スベキハ、一ニノ蠻人社會ニ於イテハ、女子ガ戰闘ニ従事スル例モアレド、シカモ是等ノ女子ハ凡テ夫ヲ持タザルモノ、即チ女子ノ生理上ニ於ケル天職ヲ守ラザルモノニ限ラル、事ナリ。子ヲ産ミ子ヲ育ツルノ女子ハ生理上戰闘ニ適當セザルモノナルコト、之ニ依リテ知ルベシ。

學者或ハ又タ、原始時代ニ於ケル男女ノ關係ヲ説明シテ、彼等ノ生産ト消費ハ互ニ全ク相獨立シ、男子ハ其ノ生産セシモノヲ自ラ消費セシト同時ニ、女子モ亦タ自己ノ生産セシモノヲ其ノ消費ニ充テタリト爲スモノアリ。(註一)乍併、少クトモ家族間ニ於ケル男女ノ分業ニ就イテハ、此ノ説ヲ以テ當レリト爲ス能ハズ。何トナレバ、男子ガ其ノ活動ニ依ツテ得タル所ノ食料ヲ以テ自己ノ妻子ヲ養フノ習慣ハ、既ニ原始時代ヨリシテ廣ク行ハレタルガ如クナルヲ以テナリ。蓋シ前ニ述べタル如ク、既ニ原始時代ノ人類ニシテ子ノ保護養育ヲ目的トシテ家族ヲ作り居タリシモノト

セバ、夫タルモノガ其ノ妻子ニ向ツテ食料ノ補助ヲ爲セシコト、固ヨリ當然ノ事ト云ハザルベカラザルガ、今マ之ヲ蠻人社會ノ状態ニ徴シ見ルモ、凡テ皆ナ然ラザルハナシ。例ヘバ、イロクオイ族ニアリテハ、男子ガ狩獵ニ依ツテ獲タル産物ハ結婚後一年間ハ凡テ之ヲ妻ニ與ヘ、一年ヲ經過シタル後モ、妻ガ狩獵ニ同伴セシト否トニ拘ラズ、必ズ其ノ獲物ノ半バヲ之ニ與フモノトス。(註二)又タカリフォルニアノ蠻人タルバトキン族ハ、最下等ノ蠻人ナルベシト云ヘルガ、而カモ夫ガ妻ニ對シ食料ヲ給與スルノ義務アリト爲セル感情ハ、吾等ノ社會ニ於ケルヨリモ強シト云ヘリ。(註三)同ジク最下等ノ蠻人タルフュジアン族ニアリテモ、青年ニシテ妻ヲ得ント欲スルモノハ、漁撈及ビ捕禽ニ熟達シタル後ナルコトヲ要シ、若シ然ラザランニハ女子ノ家族ハ決シテ其ノ婚姻ヲ許サザル習ヒナリ。(註四)又タ南濠洲ノクルナイ族ニアリテハ『男子ハ家族ノ爲メニ食料ノ供給ヲ爲シ、妻モ亦タ之ヲ助ク、男子ノ分擔ハ食料ヲ得ルガ爲メニ狩獵ヲ爲シ、且ツ家族ノ保護ノ爲メ戰闘ニ從フニ在リ』(註五)中央濠洲ノ蠻人ニアリテハ『若シ食料ノ缺乏ナカラシカ、夫婦ハ只ダ遊惰ニ日ヲ暮ラシ、小兒等ハ嬉々トシテ其ノ傍ニ遊戯スルノミナレド、若シ食料ヲ得ルノ必要アラシカ、妻ハ

其ノ子ト共ニ木片等ヲ携ヘテ叢林ニ入り、蜥蜴其ノ他小サナル穴居動物ノ探索ニ從事シ、男子ハ武器ヲ携ヘテ山林ニ入り、駝鳥「カンガル」等大キナル禽獸ノ狩獵ニ從事ス。而シテ得タル所ノ食料ハ、彼等互ニ相分チテ之ヲ食フ。(註五)中央エスキモー族ニアリテモ『男子ハ狩獵ニヨリテ、其ノ家族ヲ養フノ義務アリ』(註六)猶ホ其ノ外セーロンノヴエダ族、ナイル族、ボルネヲノ東南部バリト地方ノ蠻人等ニ關シテ亦タ同様ノ記事アリ。(註八)扱テ以上列舉シ來リシ蠻人ハ必ズシモ最野蠻ノ人種ニノミ限レルニ非ズト雖モ、シカモ是等ノ事例ニ依リテ見ル時ハ、如何ニ幼稚ナル人種ニ在リテモ、男子ハ其ノ活動ニ依ツテ得タル所ヲ以テ其ノ妻子ヲ養フノ義務ヲ有スルコト殆ンド疑フベカラズ。固ヨリ彼等ハ未ダ經濟ノ何物タルヲ解セルニ非ザルガ故ニ、彼等ヲ以テ既ニ統一的家族經濟ノ状態ニ達セルモノト爲スヲ得ザルヤ言ヲ待タズト雖モ、而カモ彼等ガ既ニ或ル程度ニ於イテ共同ノ消費ヲ解シ、而シテ其ノ共同ノ消費ノ爲メニ男女各々一定ノ負擔ヲ分ツ所アリシハ疑ヒナキ也。

(註二)『方今家内經濟ノ状態ニアリテハ、分業ハ所謂横割ニシテ、男子ハ専ラ生産ニ從事シ、女子ハ専ラ消費ヲ支配スルヲ常トスト雖モ、低度ノ人種ニアリテハ、分業ハ全ク縦割ニシテ、即チ男女各々

生産ニ從事シ、而シテ其ノ消費モ亦々往々ニシテ各自特別ノ限界ヲ存シ、時トシテハ其ノ家族經濟タル、全ク男經濟ト女經濟トヨリ成ルト云フモ妨ガザルモノアリ』Bichey, S. 31.

(註二) (註三) (註四) (註五) Westermarck, The Origin, etc., vol. I, pp. 526, 527, 528.

(註六) (註七) Parson, Family, pp. 231, 232.

(註八) Westermarck, vol. I, p. 527.

猶ホ茲ニ一言ヲ加ヘ置クベキハ、原始時代ニ於ケル女子ハ男子ト殆ド對等ノ關係ニアリタリシコトナリ。原始時代ノ女子ハ多クノ學者ノ想像スル如ク、(註一)男子ニ比シ決シテ劣等ノ地位ニアリタリシニ非ズ。現ニ之ヲ各地蠻人ノ狀態ニ徴シテ考フルモ皆ナ然リ。人或ハ、低度ノ人種ニアリテハ女子ハ一般ニ殆ンド絶對的服從ノ地位ニアリト爲セドモ、コハ明カニ誤謬ナリトシテ吾人ノ排斥セザルヲ得ザル所ナリ。(註二)或ハ又タ『女子ノ地位如何ニ依ツテ文明ノ程度ヲ計リ得ベシト云フモノアレド、シカモ少クモ文明ノ初期ニ於イテハ、此ノ如キ說ハ全ク事實ト相容レザルモノナリ。ヴェッダー族、アンダマン島ノ土人、ブッシュマン族等ノ如キ最下等ノ蠻人ニアツテハ、多數ノ高等蠻人及ビ未開人ニ於ケルヨリモ却テ其ノ女性ヲ優遇ス』(註三)是ノ故ニ吾輩ハ、最原始ノ時代ニ於イテハ、女子ハ却テ男子ト對等ノ地位ニア

リタリシモノト推定スルナリ。而シテ其ノ原因如何ハ固ヨリ容易ニ斷定シ難シト雖モ、姑ク吾輩ノ見ル所ヲ一言シ置カバ、男子ノ情慾ハ女子ノソレニ比シテ遙ニ強カリシコト、自ラ女子ノ消極的強味トナリ、之ニ依ツテ腕力ニ於イテ劣ル所アルノ弱點ヲ補ヒ得タルモノ也ト信ズ。文明人ニアツテ男子ノ情慾ガ女子ノソレニ比シテ遙ニ強キコトハ、生理學者等ノ凡テ一致スル所ナルガ、(註四)原始時代ノ人類モ恐ラクハ亦タ男女ノ間ニ於イテ此ノ如キ差異ヲ存セシコトナラン。博物學者ノ說ニ據レバ、植物ノ生殖細胞中、男性的細胞ハ進ミテ積極的ニ結合スト雖モ、女性的細胞ハ之ニ反シ常ニ消極的ナリト云ヘルガ、此ノ如キ原則ハ凡テノ動物ニ於イテ亦タ見ルヲ得ベキガ如シ。即チ一定ノ場處ニ固定セル下等動物ニ在リテハ、男性的分子ハ絶ヘズ女性的分子ニ近クヲ見ルノミナラズ、動物ノ種類ニヨリテハ女性ハ固定シテ動クコトヲ得ズ、男性ノミ女性ヲ求メテ之ニ近寄ルモノモアリ。更ニ進ミテ男女兩性共ニ動キ得ルモノニアリテモ、男性先ヅ女性ニ近ヅクヲ以テ普通ノ現象ト爲ス。(註五)現ニ生殖ノ季節ニ際スルトキハ、平生最モ怯懦ナル種類ノ動物ト雖モ、女性ノ爭奪ノ爲メニハ激烈ナル爭鬪ヲ敢テスルコトアリ。(註六)サレバ原始人類ト雖

モ必ズ此ノ例ニハ漏レザリシナルベク、殊ニ蠻人社會ニ於テ男子ガ女子ニ比シ
常ニ其ノ裝飾ニ熱心ナルガ如キハ、其ノ證據ノ一トスルコトヲ得ベシ。(註七)此ノ如
ク男子ハ女子ニ比シ強キ情慾ヲ有スルノ弱點ヲ有セシガ故ニ、此ノ弱點ノ爲メ、彼
等ハ女子ニ對シ殆ド對等以上ノ勢力ヲ占メ得ザリシ也。

(註一) 原始時代乃至野蠻社會ニアリテハ、女子ハ男子ノ爲メニ非常ナル逆待ヲ蒙ルモナルカ
ニ説明セル學者多シ。例ヘバゲルソンノ如キハ次ノ如ク説明シタリ。

Der Mann arbeitet..... nur in aussergewöhnlichen Fällen; Jagd und Krieg treibt er nicht als Arbeit, sondern als ein heiliges
Spiel:..... Das Weib hat keine Zeit zu Vergnügungen; denn vom frühen Morgen bis in die späte Nacht plügt sie die
Sorge für den Unterhalt der Familie. (Gerson, S. 679.)

氏ノ云フガ如ク初期ノ狩獵ガ一ノ遊戲ニシテ勞働ニ非ザルコトハ、吾輩ノ既ニ他章ニ於テ述
ベタル所ナリ。乍併、男子ハ此ノ如キ遊戲ニ耽リシ、アル傍ラ、女子ハ朝ヨリ夕ニ至ル迄、寸暇モナ
ク勞働ニ服シシ、アルモノ、如ク老フルハ、氏ノ誤解ナリ。猶ホ幼稚ナル社會ニ於ケル女子ノ地
位ニ就イテ詳細ヲ知ラント欲セバ、Westermarck, On the Position of Woman in Early Civilization. (Sociological
Papers, vol. I, pp. 145—160) *Iidem*, The Origin and Development of the Moral Ideas, vol. I, chap. XXI. 參照セヨ。

(註二) Westermarck, The Origin, etc., vol. I, p. 638.

(註三) *Ibid.*, p. 646.

(註四) 詳細ハ Prof. Forel, Die Sexuelle Frage, Kap. IV, Der Geschlechtstrieb. Thomas, Sex and Society, p. 29. ナ見ヨ。猶

ホフォレル教授ガ擧ゲタル實例ノ一部ヲ原文ノマ、左ニ抄録シ置ク。

Fälle, wo in Prostitutionshäusern und auch sonst 10 bis 20 mal in einer Nacht der Begattungsakt vom dem gleichen
Manne vollzogen wird, gehören nicht einmal zu den grössten Seltenheiten, obwohl sie durch und durch zum Gebiet der
pathologischen Abnormität gehören. Ich weiss von einem Fall wo dies bis 30 mal geschah. Ich wurde einmal von einer 65
jährigen ganz runzliger Bauernfrau konsultiert, die sich bei mir über die fortgesetzte Libido und Potenz ihres 73 jährigen
Ehemannes beschwerte, der sie täglich früh morgens um 3 Uhr vor seinem Ganzz zur Arbeit aus dem Schlaf weckte, um von
ihr den Beischlaf zu fordern, damit aber nicht zufrieden, die Sache jeden Abend und oft sogar noch nach dem Mitagessen
wiederholte. (S. 80 ff.)

(註五) Darwin, The Descent of Man, vol. I, p. 313 et seq.

(註六) Westermarck, The Origin, etc., vol. I, p. 637.

(註七) *Iidem*, History of Human Marriage, pp. 182, 185. "For primitive man like the male animal, was distinguished by
ornament." (Thomas, Adventitious Character of woman, p. 35.)

(二)

以上述ブルガ如ク、原始時代ニアリテハ男女ハ殆ド對等ノ關係ニ立チシモノナリ。
乍併、文明ノ稍々進ムニ從ツテ、女子ノ地位ハ次第ニ下落シ、男子ト稍々著シキ懸隔
ヲ有スルニ至リタリ。吾輩ハ先キニ經濟行爲ノ發達ヲ標準トシテ、經濟前史ハ之ヲ
分チテ第一期ト第二期トニ區別シ得ベキヲ論ジタリシガ、今マ女子ノ地位ノ變遷

ニ就イテ見ルニ、恰モ彼ノ第一期ヲ經過シテ第二期ニ入ルニ及ビ、稍々著シキ變化ヲ爲スモノ、如ク思ハル。蓋シ男子ハ狩獵戰闘ト云フガ如ク幾分専門的ノ方面ニ專從シタリシガ故ニ、女子ガ育兒ヲ中心トシテ諸種ノ雜用ニ從事セシト異リ、武器ノ發明製造等技術ノ方面ニ於イテ稍々女子ニ優ル所アルニ至リタルノミナラズ、女子ガ家庭ニ靜居シテ多ク孤立的生活ヲ持續セルト異リ、狩獵戰闘ニ從事スルコトニ依リテ他人ト協力シテ事ヲ成スノ利益アルヲ知ルニ至リタルヲ以テ、共同的勞働ヲ爲スノ社交性ニ於イテ稍々女子ニ優ル所アルニ至リシナリ。斯クノ如クニシテ第一期ヲ經過シ第二期ニ入ルヤ、恰モ山野ノ禽獸ハ次第ニ滅滅スルニ至リタルヲ以テ、男子ハ從來専門トセシ狩獵ヲ棄ツルト同時ニ既ニ女子ノ發明ニ拘リシ養畜乃至農耕ニ從事スルニ至リタリ。而シテ既ニ養畜農耕ニ從事スルニ至ランカ、彼等ハ從來専門的ニ狩獵戰闘ニ從事スルコトニ依リテ養ヒ得タル所ノ技術及ビ社交性ヲ應用シテ、大ニ生産ノ増殖ヲ爲スニ至リタリ。是ニ於イテカ男子ハ新タニ經濟上ノ優者タルニ至リシモノニテ、即チ第二期ニ於ケル男女ノ間ニハ實ニ生理的差異ヲ存スルノミナラズ、更ニ加フルニ經濟的差異ヲ以テシ、從フテ女子ノ地位

ハ之ニ伴フテ既ニ一步ヲ下落シタルナリ。之ニ加フルニ、既ニ述ベシ如ク、第一期ニ於ケル人類ノ精神的發達ハ殆ド他ノ高等動物ト異ル所ナカリシニ、今ヤ第二期ニ入ルニ及ンデ稍々著シキ進化ヲ爲スニ至リタリ。然ルニ、女子ハ妊娠分娩ト云フ大任ヲ有スルガ爲メニ、他ノ精神上ノ進化ニ於イテモ、男子ニ比シテ多少劣ル所アルヲ免レザリシ也。(註一)此ノ如クニシテ第二期ニ於ケル男女ノ間ニハ、先キニ述ベタル經濟能力ノ差異ニ加フルニ、更ニ精神能力ノ差異ヲ以テスルニ至リタリ。コレ第二期ニ於ケル女子ノ地位ガ第一期ニ比シテ稍々劣ル所アルニ至リシ所以ナリ。サレバ第一期ニ於テハ、女子ハ其ノ夫ヲ撰擇スルニ非常ノ自由ヲ有シ、(註二)男子ハ女子ノ甘心ヲ買フガ爲メ化粧裝飾ニ熱心セザルヲ得ザルノ有様ナリシカド、今ヤ第二期ニ入ルニ及ビテハ、男子ノ財力ノ發展ニ伴フテ或ハ女子ノ購買サヘ行ハレ(所謂賣買婚是ニ於イテカ起ル)、從フテ女子ノ地位ハ漸ク財産又ハ奴隸ノ境遇ニ類似シ來レルト同時ニ、其ノ父ナルモノ、權力又タ次第ニ發展シ、カクテ所謂母權的乃至母系的家族ハ變ジテ所謂父權的乃至父系的家族トナルト共ニ、(註三)第二期ニ於ケル男女間ノ分業ハ、第一期ニ於ケル如ク單純ニ生理的差異ヲ根據トセル自然的

性質ノモノニ非ズシテ、更ニ經濟的及ビ精神的差異ノ影響ヲ蒙レル社會的性質ノモノニ變ジ來レル也。

(註一) 男子ノ腦力ハ女子ノソレニ優ルモノナリ。此ノ點ニ就イテハ、前ニ掲ゲタル三宅醫學博士ノ『身體上男女ノ差ニ就イテ』(東洋學藝雜誌、二五八號)ヲ見ヨ。猶ホ女子ハ妊娠分娩ノ大任ヲ有スルガ爲メ、種々ノ點ニ於イテ其ノ發達ハ男子ニ後レ、從ツテ女子ノ方男子ヨリモ種々ノ點ニ於イテ動物又ハ小兒ニ近キ傾向ヲ有ス。其ノ詳細ヲ知ラントセバトーマス『男女ト社會』ノ第一章ヲ見ヨ。

(註二) "Considerable liberty of selection allowed to women among the lower races." (Westermarck, History, etc, p. 215) "It was even greater in primitive times." (Ibid, p. 221) "Among existing savages their (women's) liberty of selection is very considerable, and under more primitive conditions——when every grown up individual earned his or her own living, when there was, strictly speaking, no labour, and when a daughter consequently was neither a slave nor an object of trade——woman was doubtless even more free in that respect than she is now among most of the lower races." (Ibid, p. 542)

(註三) 原始時代ニ於イテハ先ヅ母系主義行ハレタルナラント想像ス。而シテ母系主義ト母權制トノ同一義ニ非ザルヤ論ナケレドモ、假リニ母權ト云フ言葉ヲ子ニ對スル支配權ノ意ニ解セバ、吾輩ハ其ノ母權ヲ以テ父權ニ先テルモノト想像ス。但シ此ノ點ハ本著ノ範圍外ニ屬スルガ故ニ、茲ニ詳説セザル也。

以下吾輩ハ第一期ノ分業ト第二期ノ分業トヲ比較シテ、其ノ間ニ於ケル主要ノ差異ヲ指摘シ、以テ男女間ニ於ケル分業ノ變遷一班ヲ示サン。

第一期ニ於イテハ、既ニ述ベタル如ク、元ト労働ト稱スベキモノ殆ト是レアルニ非ズ。故ニ若シ分業ト云フ言葉ヲ解シテ労働ヲ分擔スルノ意ト爲サバ、元ト第一期ニ於イテハ所謂分業ナルモノ未ダ發生スルニ至ラズ。嚴格ナル意味ニ於ケル分業ハ實ニ第二期ニ入ルニ及ンデ始メテ發生セシモノトス。コレ分業變遷ノ第一ナリ。次ギニ第一期ニ於ケル分業ハ、既ニ述ベタル如ク、自然的性質ヲ有スルガ故ニ、縦ヒ人種ヲ異ニシ四圍ノ事情ヲ異ニスルモ、其ノ有様ハ殆ト一律ニシテ且ツ簡單ナリ。シカルニ第二期ノ分業ニ至ツテハ、稍々社會的性質ヲ具フルガ爲メニ、或ハ人種風俗ヲ異ニシ或ハ四圍ノ事情ヲ異ニスル等ニ從ツテ、其ノ狀態相同カラザルノミナラズ、其ノ性質ハ稍々複雑トナリ、男女ハ管ニ異レル仕事ニ從事スルノミナラズ、一ツ仕事ヲ分割シテ互ニ之ヲ負擔スルニ至ルモノトス。今マ之ヲ以テ分業變遷ノ第二點ト爲ス。試ニ其ノ一班ヲ述ベンカ。例ヘバ彼ノ狩獵ハ、既ニ述ベタル如ク、最原始ノ分業トシテ第一期ヨリ專ラ男子ノ分業ニ屬セシモノナレドモ、第二期ニ至テツハ、チツペワイエン族、コマンチ族、エスキモー族等ニ於ケルガ如ク、女子ハ男子ト共ニ狩獵ニ赴キ、男子ノ獲タル禽獸ヲ運搬シテ家ニ持チ還ルコトヲ分擔シ、(註二)或ハグ

ニアノインド族ノ如ク、女子ハ男子ガ狩獵ヨリ還ルヲ森ノ口ニテ待チ受ケ、其ノ獲物ヲ運搬シテ家ニ持チ還ルコトヲ分擔スト云フガ如ク、(註二)狩獵其ノモノニ就イテ男女間ニ分業ノ行ハル、如キ場合アリ。又タ漁撈ノ如キモ第一期ニ於イテハ主トシテ男子ノ分業ニ屬セシモノナレドモ、第二期ニ至ツテハ、女子ノ地位ノ下落スルニ伴ヒ、或ハ之ヲ以テ女子ノ分業ニ轉嫁セシムルノ種族モアリ。例ヘバヤীগ族ノ女子ガ、風浪ヲ冒シテ海上ニ出デ漁撈ヲ以テ其ノ分業トスルガ如シ。(註三)狩獵漁撈ニ必要ナル武器道具ノ製造ハ、當然原始的分業トシテ男子ニ專屬セシモノナレドモ、第二期ニ至ツテハ、カノヤীগ族及ビ既ニ滅亡セシタスマニア族ニ於ケル如ク、舟筏ノ製造ヲ以テ女子ノ分業トスルモノアルニ至ル。(註四)小舎ノ建築モ第一期ニ於イテハ、凡テ男子ノ分業ニ屬セシカド、第二期ニ至ツテハ、ベチアナス族、カッフアア族、ダマラ族、ニュー、グイニアノオータナ族、(註五)西部アフリカノシリマナ族、(註六)ニ於ケルガ如ク、或ハ之ヲ以テ女子ノ分業ニ轉嫁スルモノアリ。或ハカノバストー族ニ於ケル如ク、(註七)建築ノ一部即チ壁又ハ土臺ノ築造ヲ女子ノ分業トスルモノアリ。植物性食料ノ探索ハ勿論、簡易ナル農耕モ元ト第一期ニアリテハ女子

ノ分業ニ屬セシモノナレド、第二期ニ至ツテハ、例ヘバワカムバ族(註八)ニ於ケルガ如ク、新地開拓、樹木ノ伐採等腕力ヲ要スル部分ノ仕事ヲ男子ノ分業トスル者アリ、(註九)或ハマレー半島、キングスミル島、トンガ島、カロリン島ノ土人及ビガッラ族ニ於ケルガ如ク、(註一〇)凡テ農耕ヲ以テ男子ノ分業ニ轉嫁セルモノアリ。又タ家庭ノ雜用、例ヘバ水ヲ酌ミ薪ヲ採リ、食物ヲ調理シ、衣服ヲ洗濯スル等ノコトハ、第一期ニ於テハ凡テ女子ノ分業ニ屬セシモノナレドモ、第二期ニ至リテハ、例ヘバアピシニアノ土人ノ如ク、(註一一)衣服ノ洗濯ハ凡テ之ヲ男子ノ分業トナシ、女子ノ衣服ト雖モ男子ニ依リテ洗濯セラル、ガ如キ場合アリ。又タコロアド族ニアリテ食物ノ調理及ビ火ノ燃續ガ男子ノ分業ニ屬スルガ如キ、(註一二)サモア島ノ土人ニアリテハ、會長ヲ始メトシ男子ガ凡テ食物ノ調理ヲ爲スガ如キ、(註一三)又タ動物性食料ノ調理ガ男子ノ分業ニ屬スル例少カラザルガ如キ、(註一四)皆ナ第一期ニ於ケル女子ノ分業ガ第二期ニ入りテ男子ニ轉嫁セシノ例ト爲スベシ。

(註一) Spengler, Principle of Sociology, vol. I, pp. 717, 718.

(註二) (註三) (註四) (註六) (註七) (註九) Lasch, Die Arbeitsweise der Naturvölker. — Zeitschrift für Socialwissen.

Schalt, XI, Heft 5.

(註五) Spencer, vol. I, p. 719.

(註八) (註一〇) Westermarck, The Origin, etc., vol. I, p. 635.

(註一一) (註一二) (註一三) Spencer, vol. I, p. 719.

(註一四) Blicher, S. 33.

第一期ニ於ケル分業ト第二期ニ於ケル分業トノ差異ノ第三點ハ、第一期ニ於ケル男女ノ分業ハ家族ヲ成セル夫婦間ノ分業タルニ止マリシト雖モ、第二期ニ至ツテハ管ニ家族ヲ成セル夫婦間ノ分業タルニ止マスシテ、廣ク社會ニ於ケル男女兩性間ノ分業タルニ至リシコトナリ。蓋シ第二期ニ至ツテハ、女子ニ對スル男子ノ輕蔑漸ク發生セシガ故ニ、管ニ家族内ニ於ケルノミナラズ、一般社會ヲ通ジテ男女ノ勞働ハ劃然トシテ嚴別セラレ、凡テ男子ハ女子ノ分業ニ屬スル仕事ニ對シ決シテ一指ヲモ染メザルト共ニ、又タ自己ノ分業ニ屬スル仕事ニ對シテハ女子ヲシテ一指ヲモ染メシメズ。試ニ其ノ三四ノ例ヲ述ベンカ。例ヘバアフリカノ東部ニ於ケル蠻人間ニ在ツテハ、女子ヲシテ全ク獸欄ノ内ニ入ルヲ禁ジ、(註一)ベチアナ族ニアリテハ女子ヲシテ家畜ニ指ヲ觸レシメズ。(註二)又タ多數ノネグロ族ニアリテハ搾乳ハ

全然男子ノ司ル所ナリ。(註三)アピシニアノ土人間ニアリテハ「男子ガ市場ニ行キテ物ヲ買フハ其ノ耻辱ナリ」トセラレ、(註四)同様ニニカラガ地方ノ蠻人ニアリテモ「凡テ市場ニテ物ノ賣買ヲ爲スハ全ク女子ノ司ル所ニテ、男子ハ其ノ賣買ノ有様ヲ窺フコトヲモ禁ゼラル」ト云フ。(註五)モロッコノベニ、アーセン族及ビ先キニ述ベタルアピシニアノ土人間ニアリテハ、水ヲ酌ムコトハ女子ノ分業ニ屬シ、男子ハ如何ナル場合ニテモ決シテ水ヲ酌ムコトナシ。(註六)グリーランドノ土人間ニアリテハ、海獸ヲ捕獲スルハ男子ノ分業ニ屬セドモ、彼等ハ之ヲ陸邊ニ運ビ來ルノミニテ「海豹ヲ水中ヨリ引キ上グガ如キコトマデヲモ爲スハ、男子ノ性格ヲ汚スモノナリ」トセリ。(註七)又タバコンゴ族ニアリテハ農耕ハ女子ノ分業ニ屬シ、偶々男子ガ之ヲ手傳ハントスルコトアルモ、却テ女子ノ嘲笑スル所トナルト云フ。(註八)英領グイニアニアリテハ食物ノ調理ハ全ク女子ノ分業ニ屬シ、男子ハ決シテ之ニ關係セズ、然ルニ嘗テ或ル旅行家ガ強イテ之ヲ依囑セシカバ漸クニシテ之ヲ爲シタレドモ、其ノ後ハ仲間ノモノヨリ常ニ老婦人トシテ嘲ケラレタリト云フ。(註九)又サモアニアリテハ織物ヲ作ルコトハ凡テ女子ノ分業ニ屬シ、男子ハ始ヨリ終ニ至ルマデ之ニ一指ヲ

モ添フルヲ能ハズ。(註一〇)此ノ如ク男女ノ分業ハ劃然トシテ相別タレ、決シテ相犯スコトヲ許サレス。而シテ此ノ如キ劃然タル男女間ノ分業ハ、既ニ述ベタル如ク、管ニ經濟上ノ必要ノミヨリシテ起レルニ非ズシテ、其ノ嚴別ハ寧ロ男子ノ女子ニ對スル輕蔑ヨリ生ズル習慣ノ勢力ニ本クモノナルガ故ニ、男女ノ嚴別ハ管ニ經濟上ノ勞働ニ止マズ、多クハ社交ノ全般ニ及ブモノトス。サレバニュー、カレドニアニアリテハ『男女ハ共ニ座シ又ハ共ニ語ル』頗ル稀ナリ。(註一一)ツル族ニアリテハ『男子モシ叢林ニ入りテ火ノ木ヲ伐取セントスルノ際、其ノ妻ヲ携フル』アラシカ、夫婦ハ必ズ別路ヲ取ツテ行キ、歸路モ亦同伴スルコトナシ。若シ何等カノ所用アツテ夫婦共ニ近隣ノ人ヲ訪フノ必要アル場合ハ、男子ハ先チ女子ハ遙カニ後レテ之ニ從フ。(註一二)ダコタ族ニアリテハ『妻ハ其ノ夫ノ分擔ニ屬セル凡テノ仕事ニ關係セザル様常ニ注意セザルベカラズ』(註一三)而シテ男子モ亦タ『女子ノ仕事ニ對シテ何等ノ干涉ヲ爲サザルト同時ニ、ヨクヨク必要アル場合ニ非ザレバ決シテ之ニ助力スルコトナシ。コレ他人ヨリ嘲笑セラレ女子ナリト呼バル、ヲ恐ル、ガ爲メナリ』(註一四)更ニガツラ族ノ如キニ至ツテハ『男子生マル、時ハ、直チニ其ノ乳ヲ截斷ス

其ノ理由ニ曰ク、此ノ如キモノヲ有センカ、小兒ハ將來女子タルヲ得ルノミ、決シテ勇敢ナル戰士タルヲ得ズト。(註一五)又タルトサイ族ニアリアハ『男子若シ勞働ニ耐ヘザルニ至ランカ、ソノモノハ女服ヲ纏ヒ女子ト共ニ交リ女子ト共ニ勞働セザルベカラズ』(註一六)カリフォルニアノポモ、インド族ニアリテモ『男子ニシテ戰鬥ニ耐ヘザルニ至ラバ、家僕トシテ女子ノ勞働ヲ助ケザルヘカラズ』(註一七)此ノ如ク、女子ノ輕蔑ハ更ニ一步ヲ進メテ女性的男子ノ輕蔑トナリ、之ヲ以テ男子ニ伍セシメザルニ至ルモノトス。第二期ニ於ケル分業ノ性質、之ニ依ツテ其ノ一斑ヲ知ルニ足ルベシ。

(註一) (註二) (註三) (註四) (註六) (註八) (註九) (註一〇) (註一四) Westermarck, The Origin, etc, vol I, pp. 636, 637.

(註五) (註七) Westermarck, vol. I, p. 636. 及ヒ Thomas, Mind of Woman and Lower Races p. 460. —(The American Journal of Sociology, vol. XII.) p. 460. 共ニ引ク所。

(註一一) (註一二) (註一三) (註一五) (註一六) (註一七) Thomas, p. 459 et seq.

以上述ブルガ如ク、第二期ニ入ルニ及ンデハ、男女ノ分業ハ一般社會ヲ通ジテ截然相分ルル所アリシ也。今マ此ノ如キ状態ノ下ニ在ツテ、同性間ニ於ケル分業ノ發生

ヲ見ルハ自然ノ理ト云フベシ。今マ吾輩ハ、此ノ同性間ニ於ケル分業ノ發生ヲ以テ第二期ノ分業ガ第一期ノソレト異ル所アル第四點ト爲シテ差支アルマジト信ズ。少クトモ、第一期ノ分業ハ男女ト云フ性ノ上ニ行ハレタレドモ、第二期ノ分業ニ至ツテハ、男女ト云フ性ノ差別ヲ根據トセザルモノアルニ至リタリト云フ、恐ク誤謬ニ非ザラン。今マ彼ノ多數ノ女子ガ同一ノ場所ニ集リ、或ハ穀粉製造ニ、或ハ漁撈ニ、或ハ編物、紡績、織物等ニ共同シテ從事シ、歌謠談話等ニ依リテ其ノ勞働ノ苦痛ヲ忘ル、ノ法ヲ講ズルハ、ブヲヘルノ所謂 *Gesellschaftarbeit* (共働)ニ屬シ、其ノ果シテ合力ト稱スベキヤ否ヤサヘ既ニ疑ハシク、固ヨリ分業ト稱スベキニ非ザルヤ論ナケレドモ、ガノ一部落ノ住民相集ツテ隊ヲ成シ、或ハ狩獵漁撈ニ、或ハ船舶ノ製造ニ、或ハ土地ノ開拓ニ共同シテ從事スルガ如キハ、(註二)確カニ合力ノ一種ト爲スベク、且ツ恐ラクハ單純ノ合力ニアラデ、多クノ學者ノ謂フ所ノ複雑合力即チ分業ノ一種ナラン。而シテ是等ノ分業ガ男女テフ性ノ上ニ行ハレタルモノニ非ザルハ疑ヒナシ。思フニ經濟史上合力ハ先ツ單純合力トシテ發生シ、稍々進歩シテ複雑合力トナリシモノナラン。而シテ又タ是等ノ合力タル始メハ只ダ男子相互ノ間ノミニ發生

シタリシヤニ思ハル。乍併、廣ク原始時代ニ於ケル分業合力ノ状態ヲ説クハ、著者ノ研究未ダ足ラズシテ其ノ能クセザル所ナルヲ以テ、本章ハ姑ク題スルニ原始時代ノ男女關係ト云フヲ以テシ、從ツテ彼ノ男女テフ性ノ差異ヲ基礎トセザル分業合力ノ如キハ、今マ略シテ述ベザル也。乃チ本章男女ノ關係ヲ説クコト茲ヲ以テ終リト爲シ、同時ニ又タ、之ヲ以テ本著ノ大尾ト爲スト爾カ云フ。

(註二) 委細ハラツシユ前掲論文ヲ見ヨ

人類原始ノ生活

終

明治四拾貳年五月貳拾四日初版印刷
明治四拾貳年五月貳拾七日初版發行
明治四拾貳年拾貳月拾五日再版印刷
明治四拾貳年拾貳月貳拾日再版發行

定價金五拾錢

著者 河上肇

發行者 秋間 玖磨

印刷者 笹川 欽藏

印刷所 凸版印刷株式會社分工場



發行所 京都帝國大學法科大學內 京都法學會
發賣所 東京神田區一ツ橋通町七番地 有斐閣書房

4E-85

有斐閣書房發行書籍目錄

京都帝國大學 法學博士 田島錦治 著

訂增 **最近經濟論**

京都帝國大學 法學士 河上肇 著

經濟學原論

會計検査院長 法學博士 子爵 田尻稻次郎 著

增訂 **經濟史眼**

法學博士 桑田熊藏 著

工業經濟論

東京帝國大學 法學博士 山崎覺次郎 譯

大工業論

京都帝國大學 法學博士 岡村司 著

思想小史

全一冊 送正 金壹圓七拾五錢

上卷 送正 金壹圓貳拾錢

全一冊 送正 金拾貳錢

全一冊 送正 金壹圓七拾五錢

全一冊 送正 金八拾五錢

全一冊 送正 金八拾錢

